

第6次信濃町長期振興計画後期基本計画

町民意識調査 報告書

2024年3月

目次

I.	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査の実施概要	1
3.	調査の内容	2
4.	調査結果の数値の見方	2
5.	平均点の算出方法	3
II.	調査結果の概要と総括	4
1.	計画指標の評価	4
2.	まちづくりの総合的な評価指標	5
(1)	前回調査との比較	5
(2)	信濃町に対する愛着度	5
(3)	信濃町での暮らしの満足度	6
(4)	今後の暮らしの不安	7
(5)	信濃町への定住意向	7
(6)	コロナ前と比べた経済状況の変化	8
(7)	幸福度	9
3.	信濃町の施策の現状評価と重要度の分析	12
4.	住民の取組状況と今後の取組意向	17
5.	結果の総括	18
III.	施策分野別の分析	20
	【基本目標1】協力の輪が広がり、お互いに支え合うまち	20
	分野① 協働のまちづくり／分野② 地域づくり	20
(1)	施策の現状評価	20
(2)	住民の取組状況	21
(3)	住民と行政の関係についての考え方	22
(4)	地域における支え合いの状況	23
(5)	地域活動へのコロナの影響	29
	分野③ 移住定住・関係人口	30
(1)	信濃町への定住意向	30
(2)	信濃町から転出したい理由	31
	【基本目標2】地域ぐるみで子どもを育むまち	33

分野④ 子育て／若者	33
(1) 施策の現状評価.....	33
(2) 住民の取組状況.....	34
(3) こども・若者世代の住みやすさ・暮らし満足度.....	35
分野⑤ 学び・教育	36
(1) 施策の現状評価.....	36
(2) 住民の取組状況.....	37
【基本目標3】生涯を通じて、だれもが健康に自分らしく暮らせるまち.....	38
分野⑥ 地域福祉・高齢者福祉・障がい者福祉	38
(1) 施策の現状評価.....	38
(2) 住民の取組状況.....	39
分野⑦ 健康・医療	40
(1) 施策の現状評価.....	40
(2) 住民の取組状況.....	41
分野⑧ 生涯学習・文化・スポーツ.....	42
(1) 施策の現状評価.....	42
(2) 住民の取組状況.....	43
【基本目標4】安全に確かな暮らしができるまち	44
分野⑨ 環境保全	44
(1) 施策の現状評価.....	44
(2) 住民の取組状況.....	45
(3) まちの環境保全について.....	46
分野⑩ 防災・減災	49
(1) 施策の現状評価.....	49
(2) 住民の取組状況.....	50
分野⑪ 都市基盤の維持・整備	51
(1) 施策の現状評価.....	51
(2) 住民の取組状況.....	52
【基本目標5】地域資源を活用した産業があるまち.....	53
分野⑫ 農林業振興	53
(1) 施策の現状評価.....	53
(2) 住民の取組状況.....	54
分野⑬ 観光振興	55

(1)	施策の現状評価.....	55
(2)	住民の取組状況.....	56
分野⑭	新産業創出	57
(1)	施策の現状評価.....	57
(2)	住民の取組状況.....	58
IV.	資料編（全体の集計結果）	59
1.	一般住民アンケート	59
(1)	回答者属性.....	59
(2)	信濃町に対する意識.....	63
(3)	信濃町の状況・環境について.....	65
分野①	協働のまちづくり.....	65
分野②	子育て・教育・生涯学習.....	66
分野③	福祉・医療・健康.....	67
分野④	自然環境.....	68
分野⑤	生活環境.....	69
分野⑥	産業・雇用.....	70
(4)	あなたご自身の取組について	71
(5)	まちの環境の保全について	72
(6)	地域における支え合いについて	73
(7)	地域活動へのコロナの影響について	77
2.	小中学生アンケート	78
(1)	回答者属性.....	78
(2)	信濃町に対する意識について	80
(3)	信濃小中学校のふるさと学習について	82
(4)	あなたご自身の取組について	83

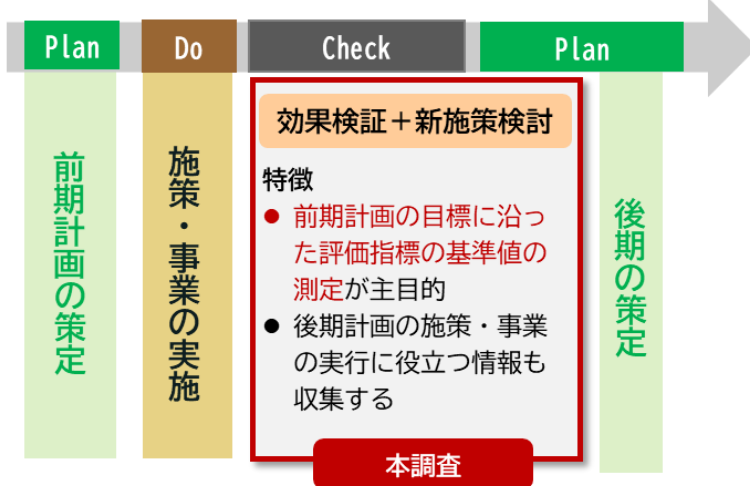
I. 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、2020 年度から 2029 年度のまちづくりの方針を示す「第 6 次信濃町長期振興計画」の前期計画に続く後期計画の策定に向けて、施策の進捗や前期計画策定後に発生した新たな課題等に対する町民の状況やニーズを把握するために実施するものです。

また、策定期間が重なる「第 5 期信濃町地域福祉計画」および「信濃町第 2 次環境基本計画」の検討に資するデータ（住民の地域福祉に対する意識、支え合いの状況・意向、環境保全に対する意識・取組など）も合わせて収集しています。

ポイント：前期計画のCheck+後期計画策定につなげる



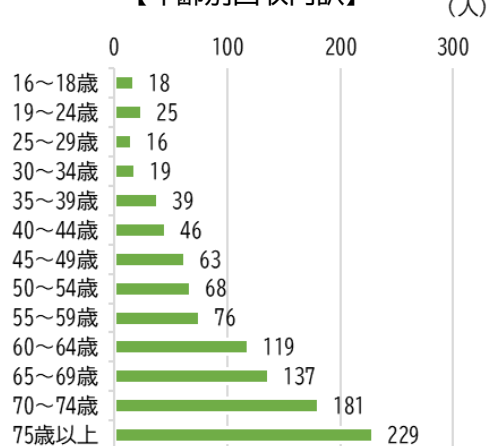
2. 調査の実施概要

町民意識調査の概要を以下に示します。

（１）一般住民アンケート

調査対象者	16 歳以上の町民 2,300 人を無作為抽出
調査法方法	郵送調査とインターネット調査の併用で実施
調査期間	令和 6 年 2 月 15 日～3 月 8 日
有効回収数	1,048 人（有効回収率 45.6%） 郵送回答 953 人 Web 回答 995 人

【年齢別回収内訳】



（２）小中学生アンケート

調査対象者	信濃町立信濃小中学校の 7～9 年生（166 人）
調査法方法	学校での説明後、インターネット調査を実施
調査期間	令和 6 年 2 月 21 日～3 月 13 日
有効回収数	112 人（有効回収率 67.5%） 【学年別内訳】 7 年生 38 人／8 年生 46 人／9 年生 28 人

3. 調査の内容

調査内容は以下の通りです。

(1) 一般住民アンケート

カテゴリー	主な調査項目
I. 回答者属性	・性別、年代 ・職業 ・居住地区 ・居住年数 ・出身地 ・居住形態 ・農地の保有状況 ・世帯構成 ・婚姻状態 ・同居家族 ・世帯年収 ・幸福度 ・コロナ前と比べた経済的変化 ・SDGs の認知度と推進意向
II. 信濃町に対する意識	・愛着度 ・暮らし満足度 ・地域の人々の客観的幸福度 ・定住意向とその理由 ・今後の暮らしの不安
III. 信濃町の状況・環境に対する評価	・まちづくりの分野別 現状の取組評価 ・まちづくりの分野別 今後もっとも重要なこと
IV. あなた自身の取組状況	・あなた自身の現在の取組状況 ・あなた自身の今後の取組意向
V. まちの環境保全について	・環境保全に対する考え方 ・まちの自然環境を守り育てるために必要な取組 ・行政として推進すべき地球温暖化に関する取組
VI. 地域における支え合いについて	・住民同士のかかわりにおける課題 ・現在日常生活で手助けしてほしいこと、10 年後に手助けが必要になりそうなこと ・困った時に助けてくれる人の有無 ・ご近所同士の「ちょっとした手助け」についての考え方 ・地域内の助け合いで現在手助けしていること、これから手助けできること ・住民と行政の関係についての考え方 ・助け合いの実施についての考え方
VII. 地域活動への頃な影響	・地域活動におけるコロナ期間中の状況 ・現在の状況

(2) 小中学生アンケート

カテゴリー	主な調査項目
I. 回答者属性	・性別、学年 ・居住地区 ・居住年数 ・出身地 ・インターネット利用時間 ・読書習慣の有無 ・卒業後の希望進路 ・高校卒業後の希望進路 ・幸福度
II. 信濃町に対する意識	・信濃町が好きか ・住みやすいところか ・地域の人々の客観的幸福度 ・信濃町の良さを保護者や地域の人から聞いているか ・Uターンを勧められたことがあるか ・定住意向とその理由
III. ふるさと学習について	・ふるさと学習で新たにわかったことの有無 ・ふるさと学習によるあなた自身の変化 ・信濃町について知りたいこと
IV. あなた自身の取組状況	・あなた自身の現在の取組状況 ・あなた自身の今後の取組意向

4. 調査結果の数値の見方

- 無回答を除いて集計しており、回答数の総数（以下、nと表記する）は設問ごとに異なります。
- 割合（％）は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

5. 平均点の算出方法

設問のうち、「幸福度」、「町の状況や環境の現状評価」および「住民の現在の取組」は回答を得点化したうえで平均点を算出し、分析を行っています。得点化と平均点の算出方法、評価の基準について以下に示します。

1) 選択肢の得点化

「幸福度」の設問

とても幸せである	4点
どちらかという幸せである	3点
どちらかという不幸である	2点
不幸である	1点

「町の状況や環境の現状評価」の設問

そう思う	4点
ややそう思う	3点
あまりそう思わない	2点
そう思わない	1点

「現在の住民の取組」の設問

あてはまる	→4点
ややあてはまる	→3点
あまりあてはまらない	→2点
あてはまらない	→1点

平均点の中央値（データを小さい順に並べたときにちょうど真ん中に来る値のこと）は2.50である。中央値は、平均点の高低を判断する際の基準値とする。

平均点が中央値より高い場合は肯定的な評価をした者が多く、中央値以下の場合は否定的な評価者が多いとみることができる。

2) 平均値の算出方法

回答者A	4点	}	(4点+3点+2点+3点+2点+・・・+X点)
回答者B	3点		
回答者C	2点		
回答者D	3点		
回答者E	2点		
・・・			
回答者X	X点		
			÷回答者の人数=平均点

II. 調査結果の概要と総括

1. 計画指標の評価

- 前期計画において設定された指標の数値の変化をみると、前回調査より改善したものは12項目中4項目にとどまっており、残る8項目は減少（後退）しています。
- 目標値を達成しているのは「スポーツや運動を行っている」「幅広い世代に喜ばれる観光地がある」の2項目のみとなっています。
- 教育分野（政策 No2-2）「子どもたちが生きていくために必要な力を身につける教育が行われている」、協働分野（1-1）「住民と行政がパートナーとして連携している」「行政と協力したまちづくり活動に積極的に参加している」、農業分野（5-2）「遊休荒廃農地が少なくなっている」は目標値との大きな乖離がみられます。

図表 1 指標の達成状況

政策 NO	調査項目	前回 (H30)	今回 (R5) 赤字：改善 青字：減少	目標値	目標値との差分	達成状況
1-1	住民と行政がパートナーとして連携している	24.9	20.4	30.0	-9.6	▲未達成
1-1	行政と協力したまちづくり活動に積極的に参加している	16.0	13.3	21.0	-7.7	▲未達成
2-1-3	信濃町を「好き」と思う（小中学生対象）	47.0	49.1	55.0	-5.9	▲未達成
2-2	子どもたちが生きていくために必要な力を身につける教育が行われている	34.6	22.3	40.0	-17.7	▲未達成
3-1	ご近所同士で交流し、困った時に助け合える関係を築いている	56.1	56.7	60.0	-3.3	▲未達成
3-2	公民館などで提供される学びの場に参加している	18.5	17.0	20.0	-3.0	▲未達成
3-2	日ごろ、スポーツや運動を行っている	36.8	41.3	38.0	3.3	◎達成
4-1	身の回りにおいて、ごみの発生を減らす取組みが日常的に行われている	49.4	46.7	51.0	-4.3	▲未達成
4-1	ポイ捨て、不法投棄が少ないまちである	40.5	40.0	42.0	-2.0	▲未達成
4-2	今後の暮らしについて不安を感じている	71.1	73.5	66.0	-7.5	▲未達成
5-1	幅広い世代に喜ばれる観光地がある	34.8	53.7	44.0	9.7	◎達成
5-2	遊休荒廃農地が少なくなっている	13.4	10.6	20.0	-9.4	▲未達成

2. まちづくりの総合的な評価指標

ここでは、町への愛着度・愛好度、暮らしやすさ・住みやすさ、定住意向（住み続けたいか）といったまちづくりの総合的な評価の項目について分析しています。

（１）前回調査との比較

- 一般住民アンケートによる愛着度、暮らし満足度、定住意向はいずれも増加し改善されていますが、子ども（小中学生）による住みやすさ評価、定住意向は大きく減少しています。

図表 2 その他の総合的な指標の前回調査比較

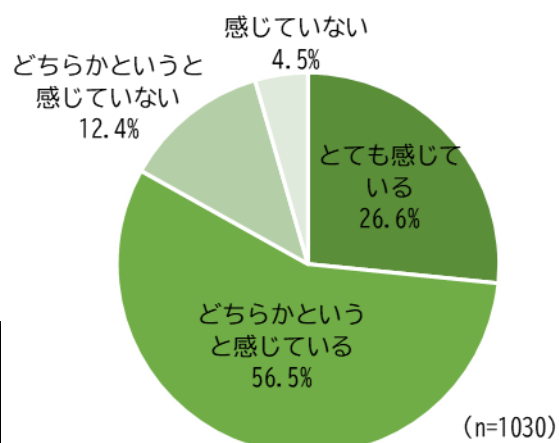
調査項目	対象	前回 (H30)	今回 (R5) 赤字：改善 青字：減少
			(%)
信濃町への愛着度	一般住民	81.5	83.1
信濃町での暮らし満足度	一般住民	72.0	73.3
信濃町は住みやすいか	小中学生	85.5	78.6
信濃町での定住意向	一般住民	71.0	73.1
	小中学生	46.5	39.3

（２）信濃町に対する愛着度

- 愛着を感じている人は 83.1% で一般住民の多くを占めています。
- 居住年数別にみると、10 年未満の方が 30 年以上よりも 10 ポイント近く「とても感じている」が高くなっており、必ずしも居住年数が長いために強く愛着を感じるわけではないことがわかります。

図表 3 信濃町への愛着度

	度数（人）	割合（％）
とても感じている	274	26.6
どちらかというと感じている	582	56.5
どちらかというと感じていない	128	12.4
感じていない	46	4.5
合計	1030	100.0



<居住年数別>

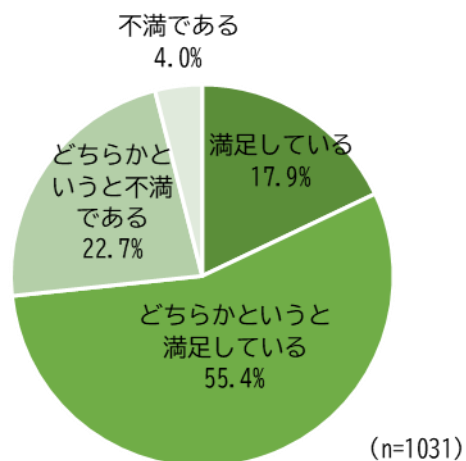
	とても感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない
10年未満(n=86)	33.7	53.5	9.3	3.5
10～19年(n=98)	29.6	55.1	10.2	5.1
20～29年(n=126)	23.8	62.7	10.3	3.2
30年以上(n=705)	25.8	56.2	13.2	4.8

(3) 信濃町での暮らしの満足度

- 暮らしに満足している人は住民全体の 73.3%、不満を感じている人は 26.7%となっています。
- 年代別にみると、20 歳代以下の若い層で「満足している」が 28.8%と高くなっていますが、30 歳代以降は「どちらかという不満である」が 3 割前後と高くなっています。
- 居住年数別にみると、居住年数が短いほど満足度が高く、長いほど不満の割合が高くなっています。
- 世帯年収別にみると、年収が高い層では満足度が高く、経済的な状況も影響していると考えられます。

図表 4 信濃町での暮らし満足度

	度数 (人)	割合 (%)
満足している	185	17.9
どちらかという満足している	571	55.4
どちらかという不満である	234	22.7
不満である	41	4.0
合計	1031	100.0



<年代別>

	満足している	どちらかという満足している	どちらかという不満である	不満である
20歳代以下(n=59)	28.8	54.2	13.6	3.4
30歳代(n=56)	14.3	48.2	30.4	7.1
40歳代(n=108)	21.3	46.3	27.8	4.6
50歳代(n=142)	9.9	59.2	26.8	4.2
60歳代(n=254)	15.4	51.6	27.6	5.5
70歳代以上(n=400)	20.8	60.3	16.5	2.5

<居住年数別>

	満足している	どちらかという満足している	どちらかという不満である	不満である
10年未満(n=87)	29.9	52.9	16.1	1.1
10～19年(n=98)	21.4	57.1	16.3	5.1
20～29年(n=126)	19.0	54.8	22.2	4.0
30年以上(n=705)	16.0	55.6	24.3	4.1

<世帯年収別>

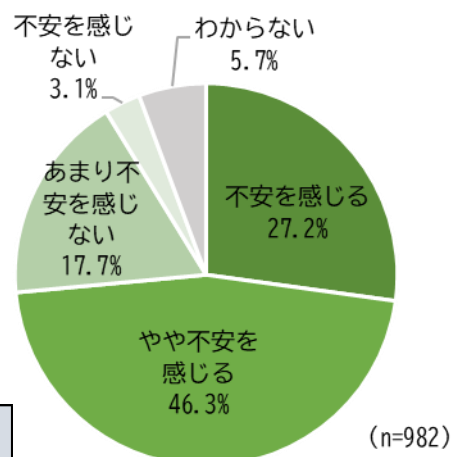
	満足している	どちらかという満足している	どちらかという不満である	不満である
300万円未満(n=362)	15.7	57.2	23.5	3.6
300万円～500万円未満(n=295)	19.3	53.9	22.7	4.1
500万円～700万円未満(n=159)	15.1	59.7	22.0	3.1
700万円～1,000万円未満(n=92)	20.7	50.0	25.0	4.3
1,000万円以上(n=66)	25.8	51.5	15.2	7.6

(4) 今後の暮らしの不安

- 今後の暮らしに不安を感じている人は 73.5% で一般住民の多くを占めています。図表 1 でみたように、前回調査より 2.4 ポイント、不安を感じる人が増えています。
- 年代別にみると、50～60 歳代で不安を感じる人の割合が高くなっています。
- 世帯年収別にみると、年収の低い層で不安を感じる割合が高くなっています。

図表 5 今後の暮らしの不安

	度数 (人)	割合 (%)
不安を感じる	267	27.2
やや不安を感じる	455	46.3
あまり不安を感じない	174	17.7
不安を感じない	30	3.1
わからない	56	5.7
合計	982	100.0



<年代別>

	不安を感じる	やや不安を感じる	あまり不安を感じない	不安を感じない	わからない
20歳代以下(n=57)	12.3	33.3	29.8	8.8	15.8
30歳代(n=53)	18.9	45.3	18.9	1.9	15.1
40歳代(n=103)	29.1	43.7	18.4	3.9	4.9
50歳代(n=135)	34.1	45.9	13.3	1.5	5.2
60歳代(n=241)	30.7	48.5	14.9	1.7	4.1
70歳代以上(n=381)	25.2	48.6	18.9	3.4	3.9

<世帯年収別>

	不安を感じる	やや不安を感じる	あまり不安を感じない	不安を感じない	わからない
300万円未満(n=348)	31.0	42.8	16.1	3.2	6.9
300万円～500万円未満(n=279)	27.6	50.9	14.3	2.9	4.3
500万円～700万円未満(n=154)	22.1	53.2	17.5	1.3	5.8
700万円～1,000万円未満(n=86)	22.1	44.2	23.3	4.7	5.8
1,000万円以上(n=60)	23.3	41.7	30.0	5.0	0.0

(5) 信濃町への定住意向

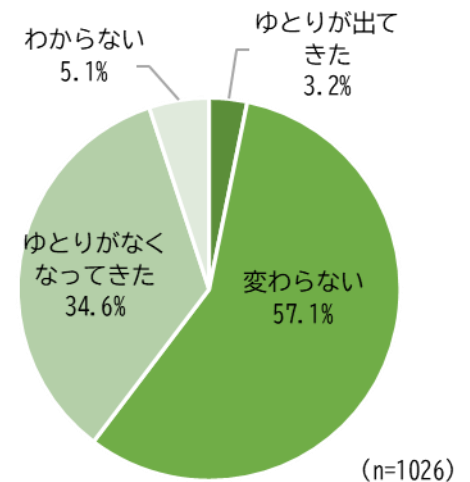
※分野③定住意向・関係人口 (30 ページ) に掲載

(6) コロナ前と比べた経済状況の変化

- コロナ前と比べた暮らし向きは、「変わらない」がもっとも多いものの、「ゆとりがなくなってきた」という人も 34.6%と少なくありません。
- 世帯年収別にみると、年収の低い層ほど「ゆとりがなくなってきた」の割合が高くなっています。

図表 6 コロナ前と比べた経済的な暮らし向きの変化

	度数 (人)	割合 (%)
ゆとりが出てきた	33	3.2
変わらない	586	57.1
ゆとりがなくなってきた	355	34.6
わからない	52	5.1
合計	1026	100.0



<世帯年収別>

	ゆとりが出てきた	変わらない	ゆとりがなくなってきた	わからない
300万円未満(n=366)	2.5	50.8	42.3	4.4
300万円～500万円未満(n=298)	1.3	56.7	35.6	6.4
500万円～700万円未満(n=161)	5.6	59.6	31.7	3.1
700万円～1,000万円未満(n=91)	5.5	63.7	26.4	4.4
1,000万円以上(n=66)	6.1	80.3	10.6	3.0

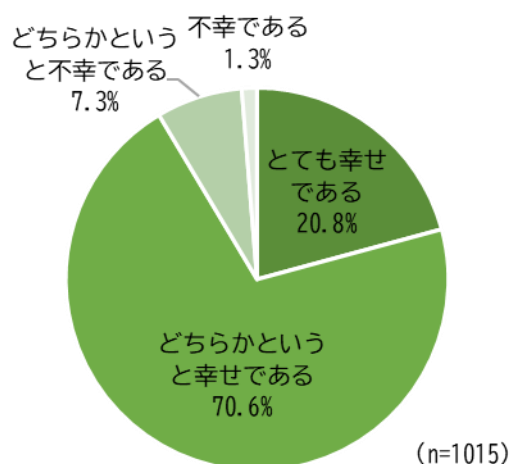
(7) 幸福度

① 本人の幸福度

- 「とても幸せである」と回答した人が 20.8%、「どちらかという幸せである」と合わせて 91.4%と非常に高くなっています。
- 年代別には、20 歳代以下と 30 歳代の若い層で「とても幸せである」の割合が高くなっています。
- 世帯年収別にみると、年収の高い人ほど「とても幸せである」の割合が高くなっています。世帯年収を年代別にみると、300 万円未満の割合は年代があがるほど高くなっており、年代の高い層での経済的なゆとりのなさが幸福度の低さに関連していると考えられます。

図表 7 本人の幸福度

	度数 (人)	割合 (%)
とても幸せである	211	20.8
どちらかという幸せである	717	70.6
どちらかという不幸である	74	7.3
不幸である	13	1.3
合計	1015	100.0



<年代別>

	とても幸せである	どちらかという幸せである	どちらかという不幸である	不幸である
20歳代以下(n=59)	47.5	49.2	1.7	1.7
30歳代(n=57)	42.1	47.4	10.5	0.0
40歳代(n=109)	20.2	70.6	7.3	1.8
50歳代(n=140)	22.9	67.1	7.1	2.9
60歳代(n=248)	17.7	74.2	6.5	1.6
70歳代以上(n=402)	15.2	76.1	8.2	0.5

<世帯年収別>

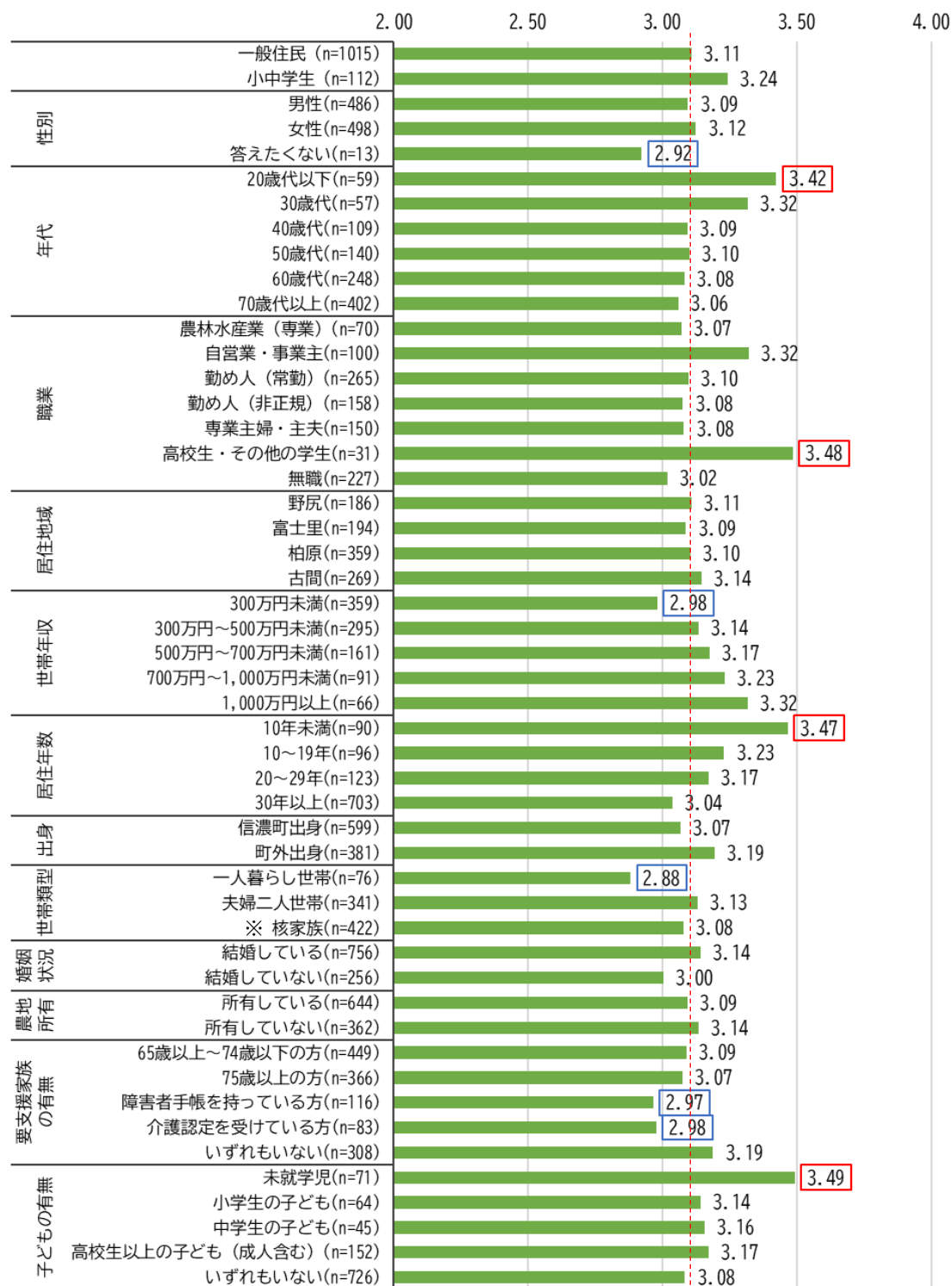
	とても幸せである	どちらかという幸せである	どちらかという不幸である	不幸である
300万円未満(n=359)	13.9	73.0	10.3	2.8
300万円～500万円未満(n=295)	21.0	71.9	6.8	0.3
500万円～700万円未満(n=161)	22.4	73.3	3.7	0.6
700万円～1,000万円未満(n=91)	27.5	68.1	4.4	0.0
1,000万円以上(n=66)	40.9	51.5	6.1	1.5

参考：年代別世帯年収

	300万円未満	300万円～500万円未満	500万円～700万円未満	700万円～1,000万円未満	1,000万円以上
20歳代以下(n=56)	14.3	19.6	30.4	26.8	8.9
30歳代(n=55)	16.4	30.9	38.2	12.7	1.8
40歳代(n=108)	17.6	32.4	22.2	20.4	7.4
50歳代(n=141)	20.6	22.7	24.8	14.2	17.7
60歳代(n=241)	38.6	35.7	14.9	5.0	5.8
70歳代以上(n=387)	54.0	30.5	7.8	4.1	3.6

- 幸福度の平均点（3 ページの平均点の算出方法を参照）は一般住民全体が 3.11、小中学生が 3.24 です。一般住民全体の 3.11 より平均点が高い傾向にあるのは、20 歳代以下の若者、高校生・学生、居住年数が 10 年未満の人、未就学児がいる人となっています。
- 逆に平均点より低い水準なのは、性別を答えたくない人、世帯年収 300 万円未満、一人暮らしの世帯、障害者手帳を持っている方や介護認定を受けている方と同居している人となっています。

図表 8 本人の幸福度 平均点



※核家族：問 1-9 の選択肢の「二世帯同居（あなた-子）」と「二世帯同居（親-あなた）」の合計

② 地域の人々の幸福度

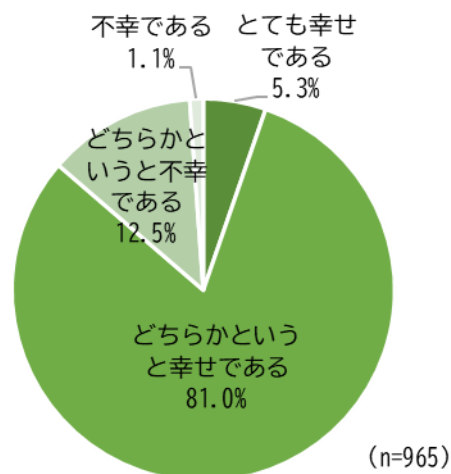
- 地域の人々がどれくらい幸せだと思うかを聞いた設問では、「とても幸せである」と「どちらかという幸せである」を合わせて 86.3%となっています。
- 地域別の差はほとんどみられません。

図表 9 地域の人々の幸福度

	度数 (人)	割合 (%)
とても幸せである	51	5.3
どちらかという幸せである	782	81.0
どちらかという不幸である	121	12.5
不幸である	11	1.1
合計	965	100.0

<地域別>

	とても幸せである	どちらかという幸せである	どちらかという不幸である	不幸である
野尻(n=179)	3.4	82.1	12.8	1.7
富士里(n=178)	5.6	78.1	14.0	2.2
柏原(n=333)	6.3	80.8	12.3	0.6
古間(n=257)	5.1	83.7	10.9	0.4



3. 信濃町の施策の現状評価と重要度の分析

- 下表は施策の現状評価についての回答保留（わからない）の割合と平均点（3 ページの平均点の算出方法を参照）、および分野ごとに今後の重要度（「今後もっとも重要なこと」を分野ごとに1つ選択）を聞いた結果を一覧で示したものです。

図表 10 施策別の現状評価・重要度

分野①協働のまちづくり

No	設問	n	現状評価				重要度(%)
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分	
1	住民のまちづくりへの参画が進んでいる	993	23.7	1.91			17.7
2	NPOなどのまちづくり活動に対する行政の支援が行われている	987	37.0	2.05			8.3
3	ご近所で、支え合い、助け合える関係が築かれている	1,003	9.5	2.55	2.55	-0.01	29.5
4	住民と行政がパートナーとして連携している	991	22.4	1.95			44.5

分野②子育て・教育・生涯学習

No	設問	n	現状評価				重要度(%)
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分	
5	結婚から出産、子育ての切れ目ない支援が行われている	966	44.8	2.26			25.3
6	子育てと仕事を両立できる環境が整っている	962	39.5	2.10			24.4
7	住民による子育て家庭・子どもへの日常的な声かけや見守りが行われている	959	32.8	2.40			3.9
8	子どもたちが主体的に考え、学ぶことができる充実した教育環境が整っている	957	44.7	2.47			10.8
9	小中学生が地域活動やまちづくりに参加している	962	41.4	2.40			5.8
10	地域や家庭において子どもたちの感性やコミュニケーション力が育まれている	958	45.9	2.32			5.8
11	子どもたちが生きていくために必要な力を身につける教育が行われている	958	49.8	2.35	2.49	-0.14	20.8
12	公民館などで学びの機会が提供されている	955	37.9	2.37			3.2

分野③福祉・医療・健康

No	設問	n	現状評価				重要度(%)
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分	
13	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境が整っている	982	15.9	2.22	2.28	-0.06	45.6
14	障がいのある人が安心して生活できる地域である	981	34.7	2.08	2.06	0.02	3.5
15	生活に困った時に相談できる体制がある	977	35.1	2.32	2.28	0.04	12.6
16	性別の違いによる不平等を感じることがない地域である	977	37.7	2.40	2.57	-0.17	1.4
17	互いの個性や立場を尊重し合える地域である	971	32.0	2.37	2.39	-0.02	7.5
18	必要な医療サービスを受けられる体制が整っている	980	14.2	2.31	2.30	0.01	25.0
19	健康づくりに取り組みやすい環境が整っている	972	22.1	2.42	2.45	-0.04	4.3

分野④自然環境

No	設問	n	現状評価				重要度(%)
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分	
20	湖沼、河川、山林などにおいて豊かな自然環境が保たれている	971	6.1	3.01	2.99	0.01	36.7
21	自然、田園環境に溶け込んだ美しいまちなみである	985	5.4	3.00	2.98	0.02	17.3
22	森林整備により脱炭素に向けた取組が行われている	982	43.3	2.30			16.6
23	身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている	987	18.8	2.57	2.57	0.00	11.9
24	ポイ捨て、不法投棄が少ないまちである	990	13.2	2.34	2.36	-0.01	17.4

分野⑤生活環境

No	設問	n	現状評価				重要度(%)
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分	
25	道路網が整備され、快適に移動ができる環境が整っている	983	4.5	2.57	2.45	0.12	19.5
26	公共交通により、日常生活に必要な移動ができる環境が整っている	985	9.4	1.97	2.01	-0.04	51.1
27	地域において、防災・減災の体制が十分に整っている	982	22.1	2.44			17.4
28	地域において、防犯の取組が行われている	980	21.6	2.43	2.45	-0.02	5.4
29	スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている	979	16.6	2.45	2.56	-0.11	6.5

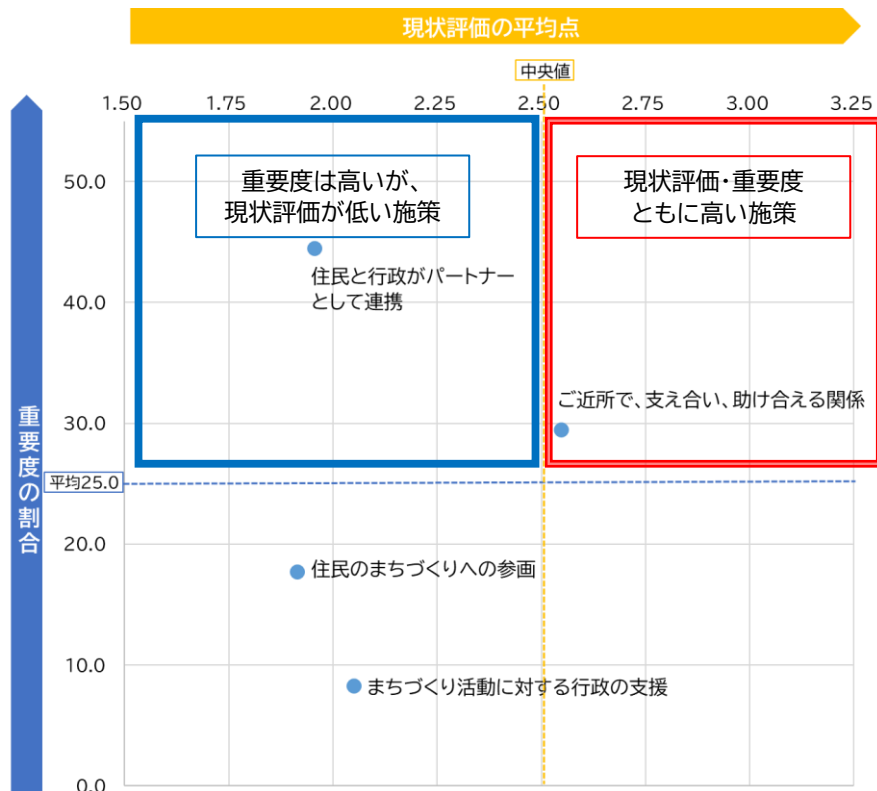
分野⑥産業・雇用

No	設問	n	現状評価				重要度(%)
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分	
30	幅広い世代に喜ばれる観光地がある	979	8.9	2.61	2.28	0.33	21.6
31	安全で質の高い農産物が生産されている地域である	988	9.0	3.07			18.0
32	遊休荒廃農地が少なくなっている	987	26.0	1.68	1.74	-0.06	23.8
33	まちの豊富な森林資源の活用が進んでいる	981	37.9	1.93			7.1
34	女性や高齢者が働きやすい環境が整っている	986	29.1	1.83			22.2
35	起業しやすい環境が整っている	986	41.3	1.98	1.83	0.15	7.2

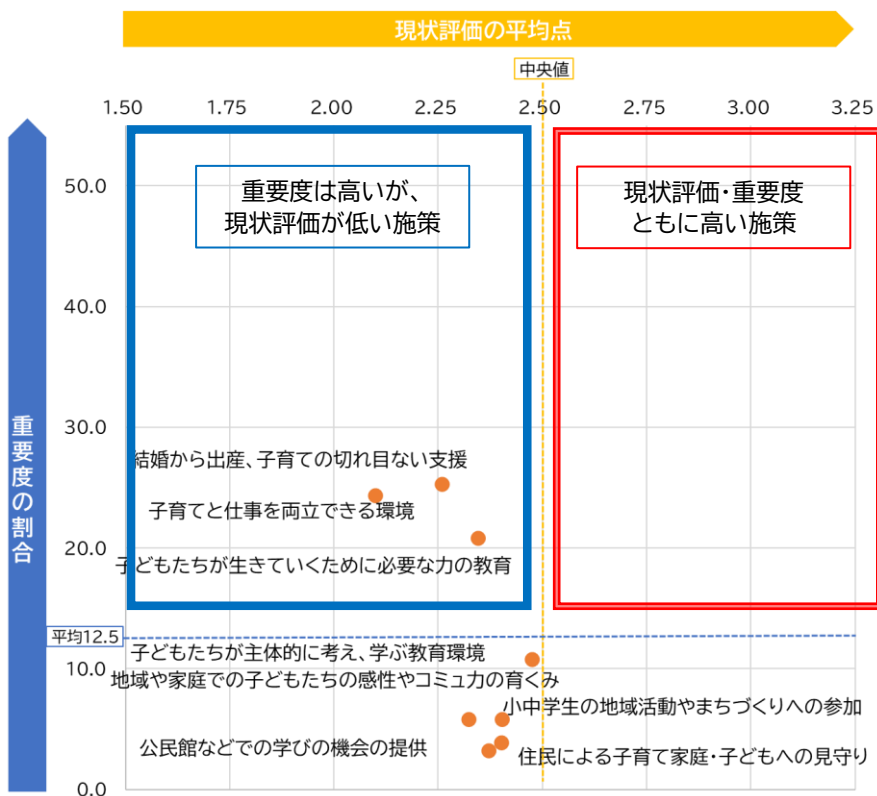
- 現状評価で「わからない」の割合が高い場合、その施策の状況を把握・理解している住民が少なく、関心が薄い、重要性を感じていない、もしくは施策の成果を判断できるほど周知されていないといった課題が考えられます。「子どもたちが生きていくために必要な力を身につける教育が行われている」など分野②の子育てや教育に関する施策で、「わからない」の割合が4割を超える項目が多くみられます。その他、分野④自然環境の「森林整備により脱炭素に向けた取組が行われている」も「わからない」の割合が4割を超えています。
- 現状評価の平均点をみると、「安全で質の高い農産物が生産されている地域である」「湖沼、河川、山林などにおいて豊かな自然環境が保たれている」「自然、田園環境に溶け込んだ美しいまちなみである」が3.00以上と高く、農産物や自然環境を評価する住民が多くいることがわかります。
- 一方、「遊休荒廃農地が少なくなっている」「女性や高齢者が働きやすい環境が整っている」「まちの豊富な森林資源の活用が進んでいる」など分野⑥産業・雇用で平均点が低い施策がいくつかみられます。
- 前回調査と共通の項目については、平均点を比較しています。「幅広い世代に喜ばれる観光地がある」が前回調査より0.33ポイント高く評価されています。
- 重要度については、「公共交通により、日常生活に必要な移動ができる環境が整っている」が51.1%と全施策の中でもっとも高く、半数以上の住民が選択しています。次いで、「高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境が整っている」「住民と行政がパートナーとして連携している」が40%を超えて高くなっています。
- 次ページの図表11は分野ごとに現状評価と重要度により、施策のポジショニングを行ったものです。
- 現状評価・重要度ともに高い施策（赤い枠）は、分野①「ご近所で、支え合い、助け合える関係が築かれている」、分野④「湖沼、河川、山林などにおいて豊かな自然環境が保たれている」、分野⑥「幅広い世代に喜ばれる観光地」「安全で質の高い農産物が生産されている地域」となっており、町の強みとしてさらに磨いて魅力とすべき分野といえます。
- 逆に、重要度は高いが現状評価が低い施策（青い枠）は、今後、取組を強化すべき分野といえます。分野①「住民と行政がパートナーとして連携している」、分野②「結婚から子育てまでの切れ目ない支援」「子育てと仕事を両立できる環境」「子どもたちが生きていくために必要な力の教育」、分野③「高齢者が安心して暮らせる環境」「必要な医療サービスが受けられる」、分野⑤「公共交通により、日常生活に必要な移動ができる」、分野⑥「遊休荒廃農地が少ない」「女性や高齢者が働きやすい環境」がそれにあたります。

図表 11 現状評価と重要度による施策のポジショニング

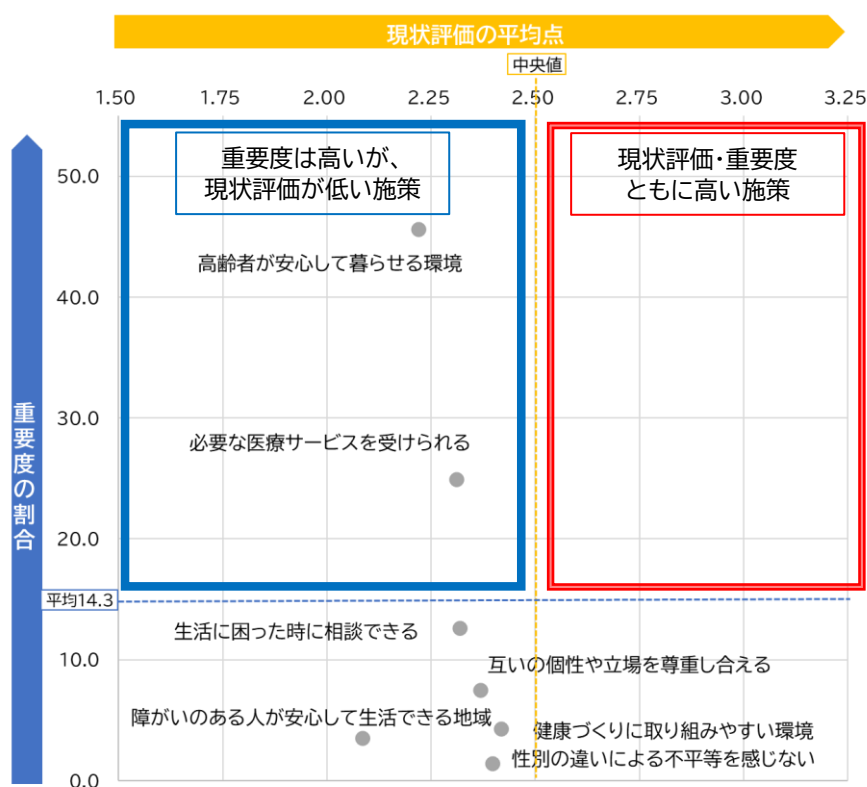
分野① 協働のまちづくり



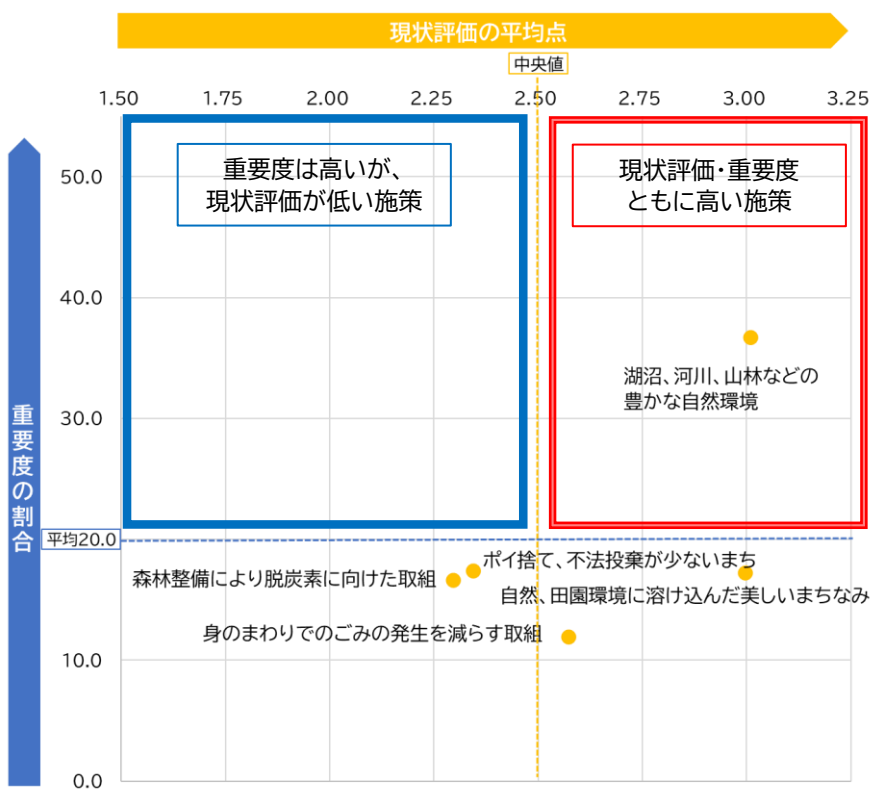
分野② 子育て・教育・生涯学習



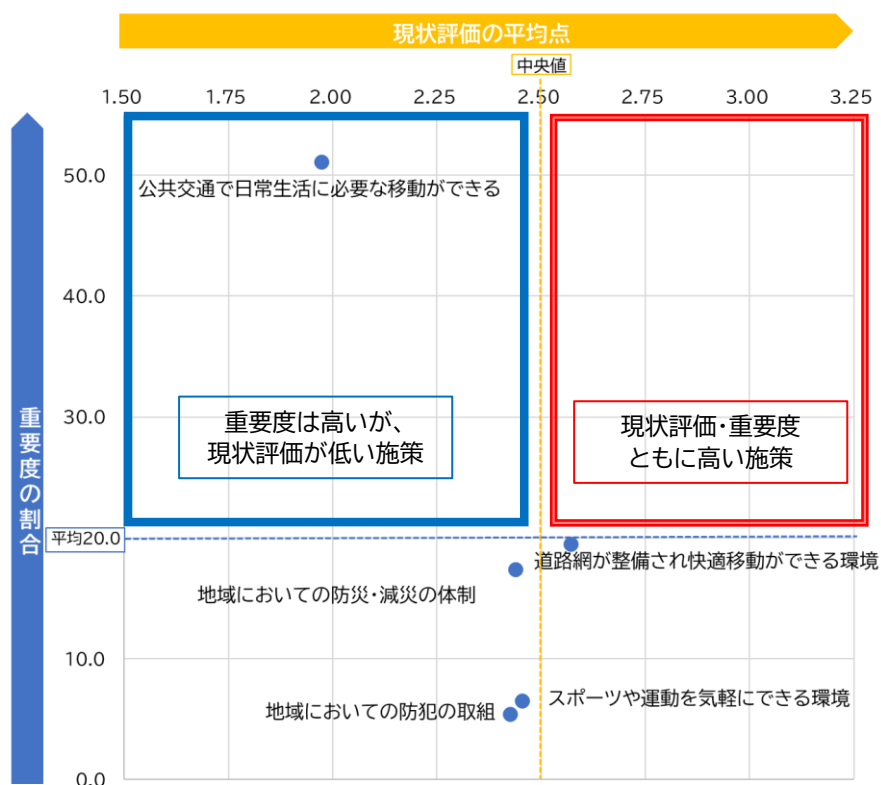
分野③ 福祉・医療・健康



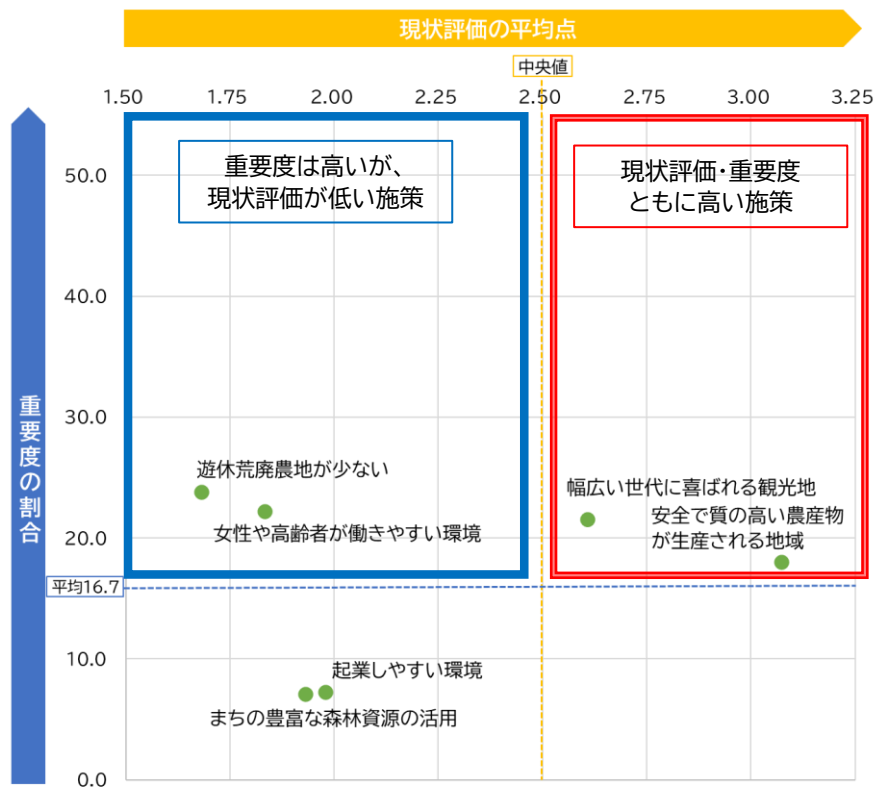
分野④ 自然環境



分野⑤ 生活環境



分野⑥ 産業・雇用



4. 住民の取組状況と今後の取組意向

- 下表は、住民自身の日常生活や地域の活動などの現在の取組状況と今後の取組意向を一覧で示したものです。現状の取組状況は、「あてはまる」～「あてはまらない」の回答を得点化し、平均点を算出しています（3 ページの平均点の算出方法を参照）。前回調査と共通の項目については、平均点を比較しています。
- よく取り組まれている活動は「19. 運転マナー」、「15. リサイクル」など、逆に取組が弱い活動は「No7～9 の子どもへの働きかけやかかわり」、「16. 公共交通の利用」、「26. 公民館活動」、「28. 教育活動への参加」、「32. 行政と協力したまちづくり活動」などとなっています。
- 13. 簡易包装されたものを選んだり、ごみの発生を減らしているが前回調査より 0.54 ポイント高く、取組が進んでいると考えられます。大きく減少した項目はありませんが、「29. 子どもたちにあいさつや声かけをしている」が前回より約 0.2 ポイント低くなっています。
- 今後の取組意向については、すべての項目で「さらに取り組みたい」の割合が前回調査を下回り、様々な日常的な活動や地域活動などへの積極的な取組意欲は減退していると考えられます。特に「17. 家の周りの除雪」はマイナス 10 ポイントと大きく減少しています。

図表 12 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
1	健康づくりに継続的に取り組んでいる	999	2.68	2.61	0.07	42.8	44.5	-1.7
2	ご近所同士で交流し、困った時に助け合える関係を築いている	1,003	2.59	2.58	0.01	31.6	41.0	-9.4
3	ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている	1,001	2.50	2.56	-0.06	33.5	42.9	-9.4
4	自分の経験や知識をいかして社会に参加している	1,000	2.12	2.15	-0.03	25.9	32.9	-7.1
5	障がいのある人が困っているときに手助けをしている	993	2.28	2.27	0.00	36.6	40.0	-3.4
6	ご近所の子どものあたたかく見守り、必要に応じてサポートしている	984	2.19	2.33	-0.14	29.3	38.4	-9.1
7	地域で子どもの健全育成に携わっている	984	1.72	1.85	-0.12	23.2	29.9	-6.6
8	子や孫、近所の子どもに信濃町の良さを話している	986	1.99			24.2		
9	子や孫に、一度町を離れてもいつかは信濃町に戻ってくるように話している	990	1.73			14.6		
10	自然について学び触れ合うなど、環境保全を意識している	988	2.41	2.39	0.02	29.3	35.4	-6.0
11	温室効果ガスの発生を抑える暮らしをしている	995	1.94	2.03	-0.09	27.4	35.1	-7.6
12	家のまわりの手入れを行うなど、景観保全を心がけている	1,006	2.95	2.90	0.05	39.5	47.9	-8.5
13	簡易包装されたものを選んだり、ごみの発生を減らしている	1,003	3.28	2.74	0.54	47.2	51.1	-3.9
14	環境に優しい製品を選んで買っている	996	2.70			39.4		
15	ごみの分別を徹底し、リサイクルに取り組んでいる	1,006	3.39	3.30	0.09	47.8	57.7	-9.9
16	公共交通を積極的に利用している	1,002	1.70	1.81	-0.11	16.3	23.4	-7.1
17	家の周りの除雪をしている	1,006	3.49	3.40	0.09	31.7	41.7	-10.0
18	自主防災活動に参加している	994	2.09	2.10	-0.01	26.0	30.5	-4.4
19	自動車の運転など交通マナーを意識している	999	3.56	3.38	0.19	46.1	52.1	-5.9
20	町外の知人や友人などに地域の四季の魅力を伝えている	998	2.61	2.59	0.02	28.4	36.7	-8.3
21	観光客に快く対応している	994	2.66	2.73	-0.07	28.8	36.5	-7.7
22	食材や日用品は町内のお店で購入するようにしている	1,006	2.50	2.46	0.04	22.9	26.6	-3.6
23	地元産の農作物を意識的に食べている	1,009	2.82	2.96	-0.14	32.5	42.2	-9.7
24	文化・芸術活動に参加したり、鑑賞したりしている	1,002	2.02	2.07	-0.05	22.6	25.1	-2.5
25	地域の伝統的な行事に参加している	997	2.37	2.32	0.05	20.7	25.0	-4.3
26	公民館などで提供されている学びの場に参加している	999	1.68	1.76	-0.08	17.5	20.6	-3.1
27	積極的に世代間交流をしている	996	1.95	1.94	0.01	21.9	22.2	-0.3
28	地域・学校と連携した教育活動に参加している	992	1.59	1.73	-0.15	15.0	21.8	-6.9
29	地域の子どもたちにあいさつや声かけをしている	997	2.65	2.84	-0.19	31.8	39.7	-7.9
30	日ごろ、スポーツや運動を行っている	1,000	2.28	2.19	0.09	35.7	36.8	-1.2
31	まちをよくするアイデアを考えている	996	1.95	2.03	-0.08	22.7	31.0	-8.3
32	行政と協力したまちづくり活動に積極的に参加している	998	1.66	1.75	-0.09	19.6	24.6	-5.0
33	組、自治会などのまちづくり活動に積極的に参加している	1,000	2.20	2.17	0.03	22.8	24.7	-1.9

5. 結果の総括

◆前期計画策定時からの変化

- ・ 町民意識調査で測定する計画指標 12 項目のうち、8 項目で減少（後退）となっており、増加（改善）したものは 4 項目のみの厳しい状況です。また、目標達成できているのは「スポーツ・運動」「観光」分野の 2 指標にとどまっています。
- ・ まちづくりの総合的な指標である愛着度、暮らし満足度、定住意向は前回調査より増加していますが、小中学生による評価は住みやすさ、定住意向ともに減少しています。
- ・ 住民自身の取組の意向（「今後さらに取り組みたい」と回答した人の割合）が全項目で前回調査より減少し、5 年前より活動全体の停滞感がみられます。

◆新型コロナウイルスによる影響と回復

- ・ コロナ前と比べた暮らし向きが悪化した（ゆとりがなくなってきた）住民が 34.6%となっており、世帯年収の低い人ほどその割合は高くなっており、生活支援を要する人の増加が懸念されます。
- ・ 不特定多数の住民が集まるお祭り・イベントや対面の定期的な会議などがコロナの影響を受け、地域づくり活動が滞ったと考えられます（29 ページ「地域活動へのコロナの影響」を参照）。現在は多くの活動でコロナ前の状況に戻りつつありますが、地域づくりに関する活動への取組意向（「さらに取り組みたい」の割合）は前回調査より大きく減少しており、コロナによる影響だけとは考えられませんが、意欲の低下がみられます。

◆住民の幸福度

- ・ まちづくりの最終目標といえるウェルビーイング指標として、今回初めて幸福度を調査しています。9 割を超える住民が幸せであると回答しており、高い幸福度となっています。
- ・ 小中学生自身に聞いたアンケートでも、85.7%の子どもが幸せであると回答しています。
- ・ ただし、性別を答えたくない人（n=13）、世帯年収 300 万円未満（n=359）、一人暮らし世帯（n=76）、障害者手帳を持っている家族がいる（n=116）、介護認定を受けている家族がいる（n=83）で幸福度の平均点が低くなっています。
- ・ 地域の人々がどのくらい幸せだと思うかと聞いた指標では、86.3%が幸せと回答しています。

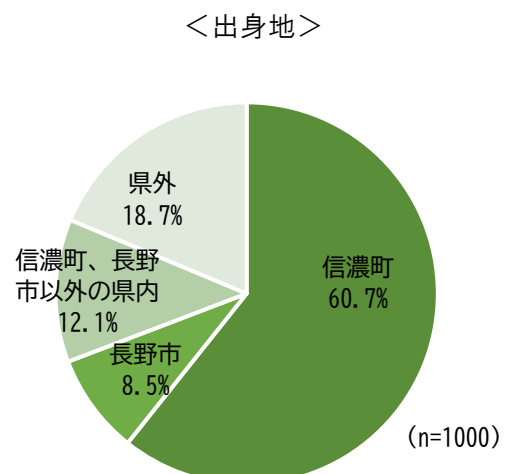
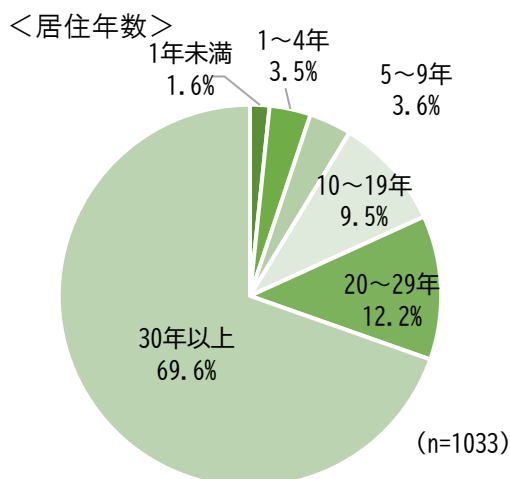
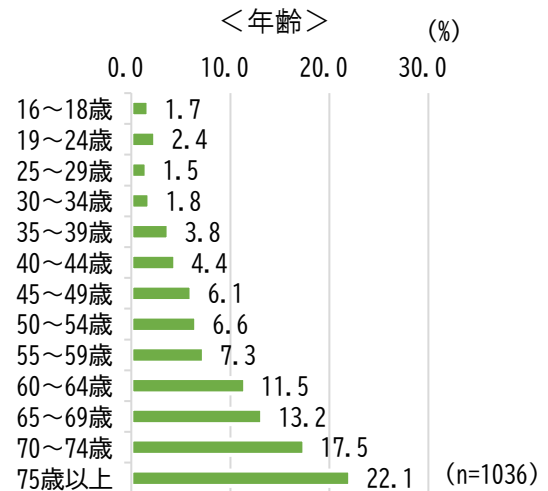
◆重点的に取り組むべき施策

- ・ 子育て・教育分野、高齢者以外の福祉分野、脱炭素、まちづくり活動への行政の支援、起業しやすい環境づくり等で現状評価できない（「わからない」と回答）割合が高くなっており、住民に知られていない、関心が低いと考えられます。子育てや福祉の取組など、当事者以外にもまちの取組を周知していく活動が求められます。
- ・ 施策の現状評価では、「質の高い農産物」「豊かな自然環境」「美しいまちなみ」が平均点 3.0 を超える高い評価となっています。また、「幅広い世代に喜ばれる観光地」が前回調査より大きく伸びており、観光地としてのまちの住民評価は高まっています。
- ・ 今後重要と住民が考える施策は、「公共交通」「高齢者が安心して暮らせる環境」「住民と行政の連携」が 40%を超えて高くなっています。

- ・ まちの強み（現状評価・重要度ともに高い施策）は「ご近所同士の支え合い」「自然環境」「観光地」「農産物」と考えられ、さらに磨きながら、町のよさとして内外にアピールしていく必要があります。
- ・ 逆にまちの課題と考えられる施策（重要度は高いが、現状評価が低い施策）は、「住民と行政の連携」「結婚から子育ての切れ目ない支援」「子育てと仕事を両立できる環境」「子どもたちが生きるために必要な力の教育」「高齢者が安心して暮らせる環境」「医療サービス」「公共交通」「遊休荒廃農地」「女性や高齢者が働きやすい環境」となっており、テコ入れが必要です。

◆属性別の傾向

- ・ 少子高齢化が進み、今回のアンケートの回答者の半数以上が高齢者となっています。
- ・ 20歳代以下の回答者数は59人（5.6%）と少ないですが、高齢者よりも全般的に前向きな評価がみられます。
- ・ 町内出身者よりも町外出身者（393人、39.3%）、居住年数が長い住民より短い住民（10年未満：90人、8.7%）の方が、多くの項目で施策評価、まちづくりへの参画意識や取組意欲などが高くなっており、新しい住民からは評価されていますが、長年住んでいる地元住民は不満が多いという構造がみてとれます。



- ・ 世帯年収が低い層で暮らし満足度や幸福度が低い傾向がみられます。

III. 施策分野別の分析

施策検討の際に参照しやすいよう、基本目標・行政分野（案）ごとに施策評価や取組状況などの調査結果を整理して分析を行います。

【基本目標1】協力の輪が広がり、お互いに支え合うまち

分野① 協働のまちづくり／分野② 地域づくり

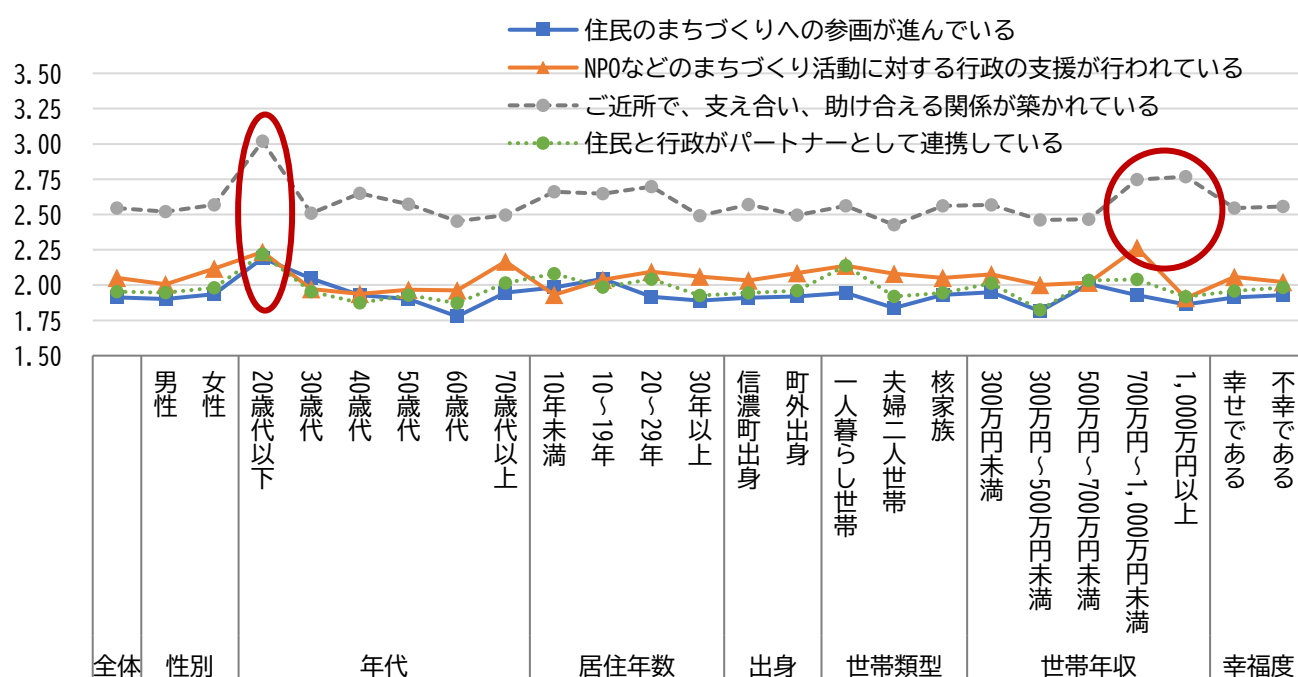
（1）施策の現状評価

- 協働のまちづくりや地域づくり分野の関連施策では、「3. 助け合える関係が築かれている」以外の3項目で、現状評価が中央値以下となっています。回答保留（わからない）の割合は「2. まちづくり活動に対する行政の支援」がやや高くなっています。
- 現状評価の平均点はどの施策も20歳代以下の若い層で特に高くなっています。
- また、世帯年収の高い層で「支え合いの関係」「まちづくり活動への支援」の現状評価が高くなっています。

図表 13 施策別の現状評価（再掲）

No	設問	n	現状評価			
			わからないの割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分
1	住民のまちづくりへの参画が進んでいる	993	23.7	1.91		
2	NPOなどのまちづくり活動に対する行政の支援が行われている	987	37.0	2.05		
3	ご近所で、支え合い、助け合える関係が築かれている	1,003	9.5	2.55	2.55	-0.01
4	住民と行政がパートナーとして連携している	991	22.4	1.95		

図表 14 層別の現状評価（平均点）



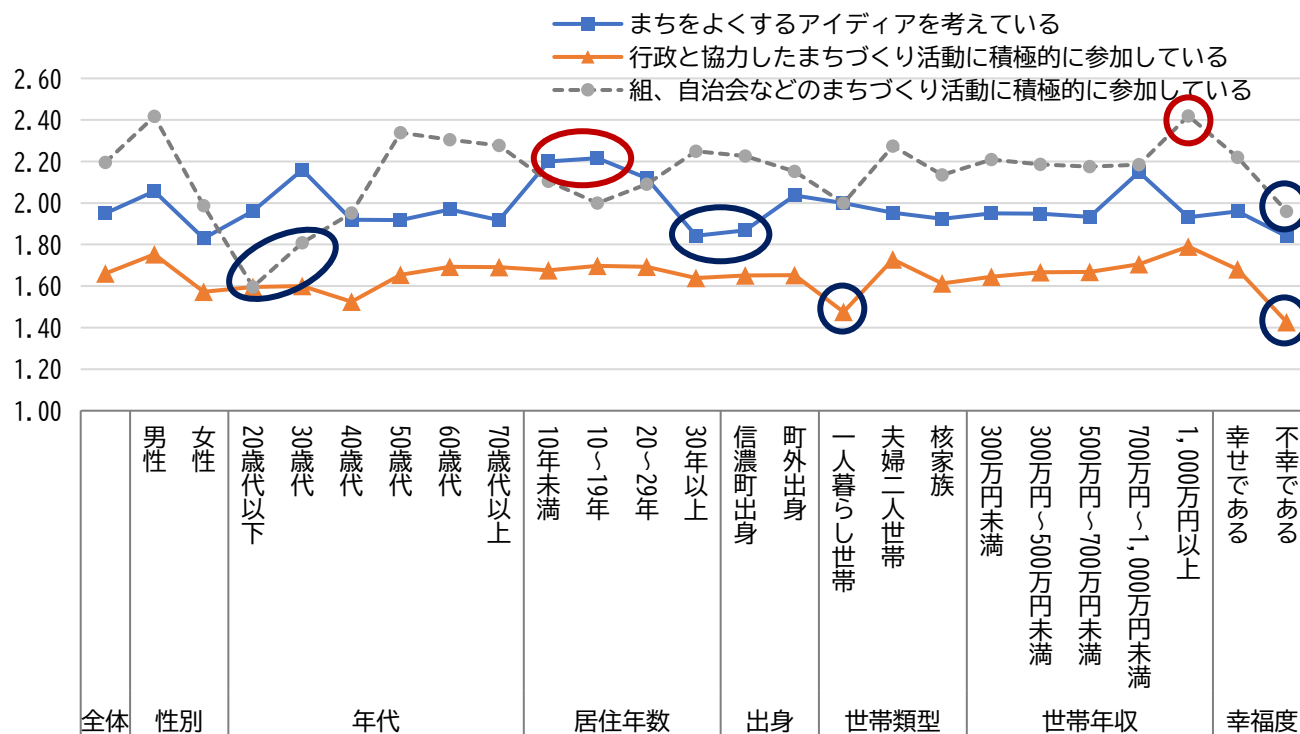
(2) 住民の取組状況

- 協働のまちづくりや地域づくり分野に関する住民自身の取組状況をみたものです。
- 関連する3つの取組のいずれも、中央値 2.50 を下回っています。
- 「まちをよくするアイデアを考えている」は、全体に比べ、30 歳代、居住年数 19 年未満の層で特に高くなっています。逆に、居住年数 30 年以上、信濃町出身者で低くなっています。
- 「行政と協力したまちづくり活動に積極的に参加している」は、全体に比べ、世帯年収 1,000 万円以上の層でやや高くなっています。逆に、一人暮らし世帯や不幸と感じている層で低くなっています。
- 「組、自治会などのまちづくり活動に積極的に参加している」は、年代での違いが大きく、若い年代ほど平均点が低くなっています。また、不幸と感じている層でも低い傾向がみられます。

図表 15 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向（再掲）

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
31	まちをよくするアイデアを考えている	996	1.95	2.03	-0.08	22.7	31.0	-8.3
32	行政と協力したまちづくり活動に積極的に参加している	998	1.66	1.75	-0.09	19.6	24.6	-5.0
33	組、自治会などのまちづくり活動に積極的に参加している	1,000	2.20	2.17	0.03	22.8	24.7	-1.9

図表 16 層別の現状の取組状況（平均点）

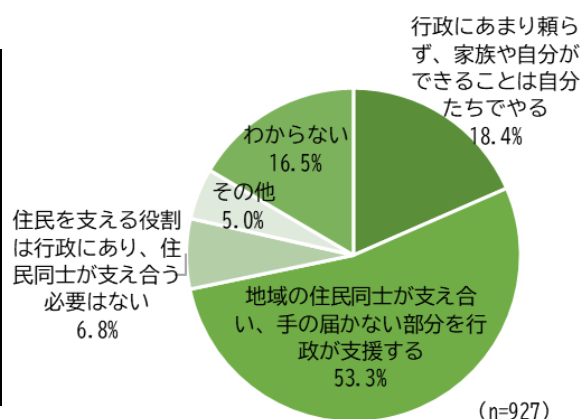


(3) 住民と行政の関係についての考え方

- 「地域の住民同士が支え合い、手の届かない部分を行政が支援する」と回答した住民が 53.3%と過半数となっています。次いで、「行政にあまり頼らず、家族や自分ができることは自分たちでやる」が 18.4%となっています。「住民同士が支え合う必要はない」という協働に否定的な考え方を持つ住民は 6.8%となっています。
- 年代別にみると、「地域の住民同士が支え合い、手の届かない部分を行政が支援する」は 20 歳代以下の若い層で特に高くなっています。また、「行政にあまり頼らず、家族や自分ができることは自分たちでやる」は年代があがるほど高くなる傾向がみられます。
- 居住地域別には、柏原で「行政にあまり頼らず、家族や自分ができることは自分たちでやる」がやや高くなっています。

図表 17 住民と行政の関係についての考え方

	度数（人）	割合（％）
行政にあまり頼らず、家族や自分ができることは自分たちでやる	171	18.4
地域の住民同士が支え合い、手の届かない部分を行政が支援する	494	53.3
住民を支える役割は行政にあり、住民同士が支え合う必要はない	63	6.8
その他	46	5.0
わからない	153	16.5
合計	927	100.0



<年代別>

	行政にあまり頼らず、家族や自分ができることは自分たちでやる	地域の住民同士が支え合い、手の届かない部分を行政が支援する	住民を支える役割は行政にあり、住民同士が支え合う必要はない	その他	わからない
20歳代以下(n=53)	15.1	69.8	3.8	3.8	7.5
30歳代(n=55)	12.7	56.4	7.3	3.6	20.0
40歳代(n=103)	16.5	52.4	11.7	3.9	15.5
50歳代(n=133)	17.3	49.6	8.3	4.5	20.3
60歳代(n=231)	18.2	45.9	5.6	8.7	21.6
70歳代以上(n=343)	21.0	56.6	6.1	3.5	12.8

<居住地域別>

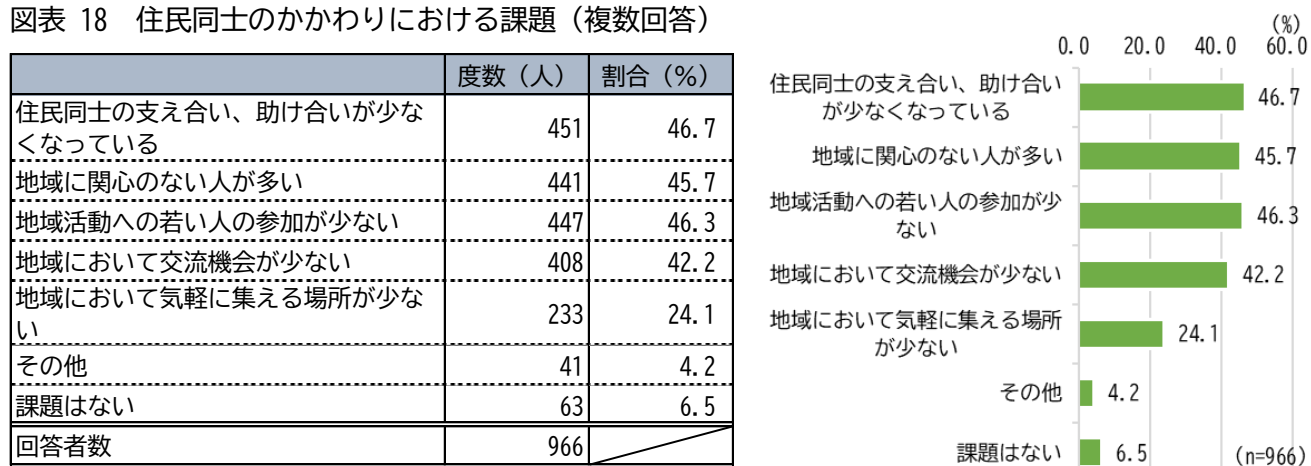
	行政にあまり頼らず、家族や自分ができることは自分たちでやる	地域の住民同士が支え合い、手の届かない部分を行政が支援する	住民を支える役割は行政にあり、住民同士が支え合う必要はない	その他	わからない
野尻(n=173)	19.7	55.5	8.1	2.9	13.9
富士里(n=177)	13.0	55.9	6.2	5.1	19.8
柏原(n=316)	22.2	49.1	7.6	6.0	15.2
古間(n=245)	16.7	55.5	4.9	4.9	18.0

(4) 地域における支え合いの状況

ア 住民同士のかかわりにおける課題

- 住民同士のかかわりで課題を感じていることは、「住民同士の支え合い、助け合いが少なくなっている」「地域に関心のない人が多い」「地域活動への若い人の参加が少ない」「地域において交流機会が少ない」が40%以上となっています。
- 年代別にみると、70歳代以上で「支え合い、助け合いが少なくなっている」が高くなっています。
- 居住地域別には富士里で「支え合い、助け合いが少なくなっている」「地域活動への若い人の参加が少ない」、野尻では「地域に関心のない人が多い」の割合が高くなっています。

図表 18 住民同士のかかわりにおける課題（複数回答）



<年代別>

	n	住民同士の支え合い、助け合いが少なくなっている	地域に関心のない人が多い	地域活動への若い人の参加が少ない	地域において交流機会が少ない	地域において気軽に集える場所が少ない	その他	課題はない
20歳代以下	57	28.1	47.4	45.6	35.1	26.3	1.8	7.0
30歳代	57	43.9	47.4	50.9	35.1	33.3	3.5	5.3
40歳代	105	40.0	41.9	40.0	36.2	24.8	3.8	8.6
50歳代	139	33.8	36.0	45.3	41.7	20.1	4.3	10.8
60歳代	239	43.1	45.2	48.1	36.0	25.5	7.1	6.3
70歳代以上	360	59.2	50.0	46.7	50.0	23.1	3.1	4.4

<居住地域別>

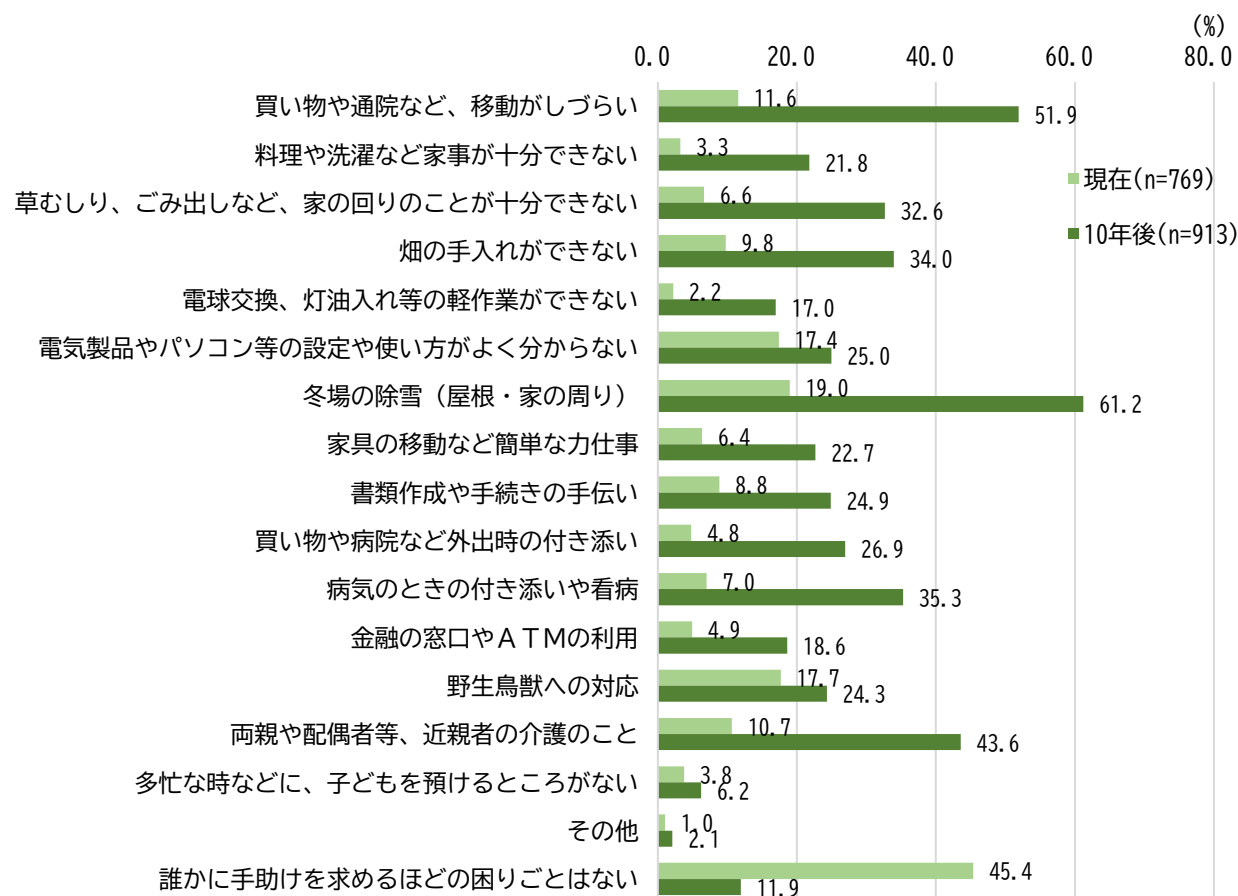
	n	住民同士の支え合い、助け合いが少なくなっている	地域に関心のない人が多い	地域活動への若い人の参加が少ない	地域において交流機会が少ない	地域において気軽に集える場所が少ない	その他	課題はない
野尻	57	45.2	52.0	33.3	48.0	24.3	2.8	6.2
富士里	57	52.2	38.6	53.8	39.1	23.4	7.1	8.7
柏原	105	48.9	47.1	46.8	41.7	24.2	3.3	5.7
古間	139	40.7	43.8	48.8	40.7	25.2	4.3	6.2

イ 手助けしてほしいこと

- 現在は 45.4%の住民が「誰かに手助けを求めるほどの困りごとはない」と回答していますが、10年後に手助けが必要になりそうなこととして、「冬場の除雪」「買い物や通院などの移動」「近親者の介護のこと」を 4 割以上の住民があげています。

図表 19 手助けしてほしいこと（複数回答）

	現在		10年後	
	度数（人）	割合（％）	度数（人）	割合（％）
買い物や通院など、移動がしづらい	89	11.6	474	51.9
料理や洗濯など家事が十分できない	25	3.3	199	21.8
草むしり、ごみ出しなど、家の回りのことが十分できない	51	6.6	298	32.6
畑の手入れができない	75	9.8	310	34.0
電球交換、灯油入れ等の軽作業ができない	17	2.2	155	17.0
電気製品やパソコン等の設定や使い方がよく分からない	134	17.4	228	25.0
冬場の除雪（屋根・家の周り）	146	19.0	559	61.2
家具の移動など簡単な力仕事	49	6.4	207	22.7
書類作成や手続きの手伝い	68	8.8	227	24.9
買い物や病院など外出時の付き添い	37	4.8	246	26.9
病気のときの付き添いや看病	54	7.0	322	35.3
金融の窓口やＡＴＭの利用	38	4.9	170	18.6
野生鳥獣への対応	136	17.7	222	24.3
両親や配偶者等、近親者の介護のこと	82	10.7	398	43.6
多忙な時などに、子どもを預けるところがない	29	3.8	57	6.2
その他	8	1.0	19	2.1
誰かに手助けを求めるほどの困りごとはない	349	45.4	109	11.9
回答者数	769		913	



- 10年後に手助けが必要になりそうなことを年代別にみると、年代があがるほどほとんどの項目で高くなっている。
- 居住地域別には野尻と柏原で「冬場の除雪」が60%を超えて高くなっている。

<年代別> 10年後に手助けが必要になりそうなこと

	n	買い物や通院など、移動がしづらい	料理や洗濯など家事が十分できない	草むしり、ごみ出しなど、家の回りのことが十分できない	畑の手入れができない	電球交換、灯油入れ等の軽作業ができない	電気製品やパソコン等の設定や使い方がよく分からない	冬場の除雪（屋根・家の周り）	家具の移動など簡単な力仕事	書類作成や手続きの手伝い	買い物や病院など外出時の付き添い	病気のときの付き添いや看病	金融の窓口やATMの利用	野生鳥獣への対応	両親や配偶者等、近親者の介護のこと	多忙な時などに、子どもを預けることがない
20歳代以下	54	25.9	3.7	5.6	11.1	1.9	3.7	27.8	7.4	9.3	5.6	5.6	3.7	11.1	35.2	18.5
30歳代	50	18.0	10.0	18.0	14.0	0.0	2.0	40.0	6.0	8.0	2.0	2.0	4.0	16.0	46.0	12.0
40歳代	103	25.2	11.7	20.4	22.3	6.8	13.6	44.7	9.7	14.6	13.6	22.3	10.7	24.3	58.3	11.7
50歳代	131	35.1	9.9	24.4	26.0	9.2	20.6	49.6	19.1	18.3	19.1	27.5	13.0	21.4	55.0	5.3
60歳代	223	52.9	20.6	29.6	36.3	13.5	25.1	66.8	23.3	22.4	23.3	36.8	12.6	23.3	35.4	3.6
70歳代以上	342	75.1	35.1	48.2	45.9	30.7	36.8	74.9	32.7	37.1	43.3	51.2	32.2	29.5	40.9	4.1

<居住地域別> 10年後に手助けが必要になりそうなこと

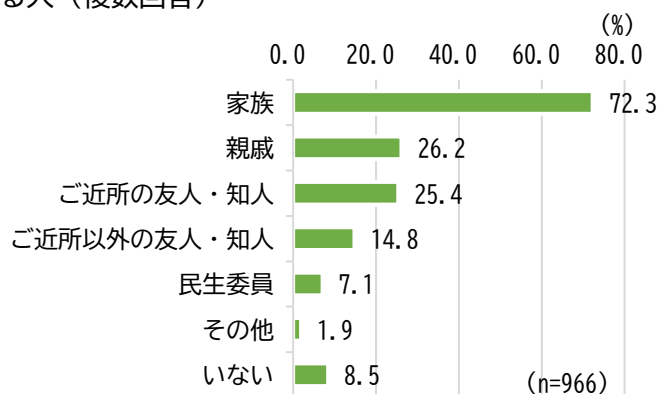
	n	買い物や通院など、移動がしづらい	料理や洗濯など家事が十分できない	草むしり、ごみ出しなど、家の回りのことが十分できない	畑の手入れができない	電球交換、灯油入れ等の軽作業ができない	電気製品やパソコン等の設定や使い方がよく分からない	冬場の除雪（屋根・家の周り）	家具の移動など簡単な力仕事	書類作成や手続きの手伝い	買い物や病院など外出時の付き添い	病気のときの付き添いや看病	金融の窓口やATMの利用	野生鳥獣への対応	両親や配偶者等、近親者の介護のこと	多忙な時などに、子どもを預けることがない
野尻	175	52.0	18.9	29.7	29.7	17.7	23.4	65.7	19.4	20.0	28.0	32.0	18.3	30.3	37.7	8.0
富士里	167	55.7	22.8	38.3	40.1	17.4	28.1	56.3	25.7	31.7	33.5	41.9	22.2	31.7	44.9	4.2
柏原	316	56.6	24.7	35.1	33.2	17.7	24.1	63.6	22.2	25.6	25.0	36.7	17.1	20.6	43.0	5.4
古間	238	44.5	20.6	28.2	34.9	16.4	26.1	57.6	24.4	23.1	24.8	32.4	19.7	20.2	47.9	8.0

ウ 困った時に助けてくれる人の有無

- 「家族」をあげる人が72.3%でもっとも多く、「ご近所の友人・知人」は25.4%、「民生委員」が7.1%となっています。助けてくれる人が「いない」という人は8.5%と1割近く存在します。
- 居住地域別にみると、「いない」の割合は野尻でやや高くなっています。

図表 20 日常生活のなかで困った時に助けてくれる人（複数回答）

	度数（人）	割合（%）
家族	376	72.3
親戚	136	26.2
ご近所の友人・知人	132	25.4
ご近所以外の友人・知人	77	14.8
民生委員	37	7.1
その他	10	1.9
いない	44	8.5
回答者数	520	



<居住地域別>

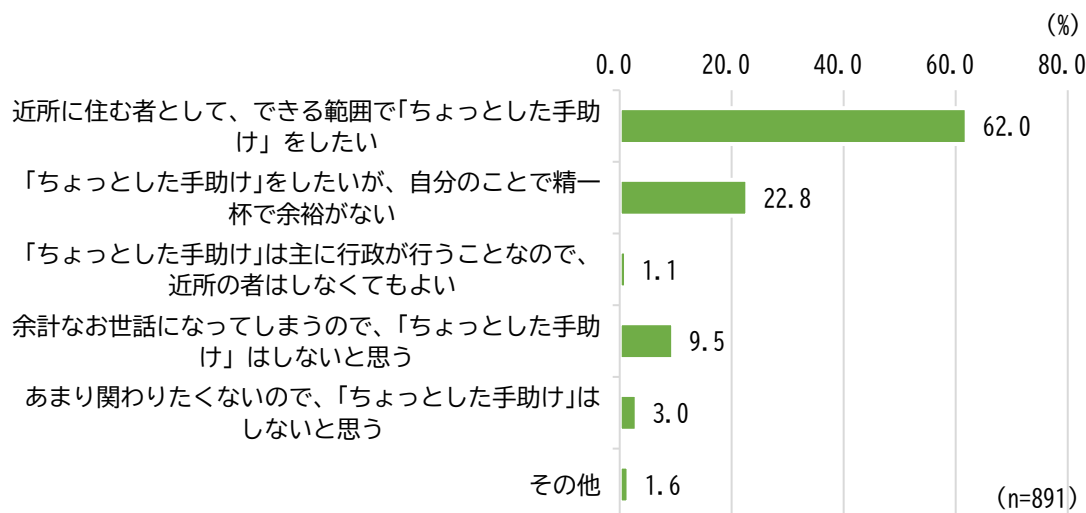
	n	家族	親戚	ご近所の友人・知人	ご近所以外の友人・知人	民生委員	その他	いない
野尻	22	72.8	18.4	24.3	9.7	5.8	1.9	10.7
富士里	31	73.6	23.1	27.5	14.3	5.5	2.2	8.8
柏原	51	69.4	28.3	23.3	16.1	6.1	2.2	7.8
古間	71	75.4	29.7	29.0	16.7	9.4	1.4	7.2

エ 手助けについての考え方

- 「近所に住む者として、できる範囲で「ちょっとした手助け」をしたい」が 62.0%と多くを占めています。次いで、「自分のことで精一杯で余裕がない」と回答した人が 22.8%となっています。一方、「余計なお世話になってしまうので「ちょっとした手助け」はしない」という人も 9.5%で 1 割近くとなっています。
- 年代別にみると、30 歳代で「自分のことで精一杯で余裕がない」が特に高くなっています。

図表 21 手助けについての考え方

	度数（人）	割合（％）
近所に住む者として、できる範囲で「ちょっとした手助け」をしたい	552	62.0
「ちょっとした手助け」をしたいが、自分のことで精一杯で余裕がない	203	22.8
「ちょっとした手助け」は主に行政が行うことなので、近所の者はしなくてもよい	10	1.1
余計なお世話になってしまうので、「ちょっとした手助け」はしないと思う	85	9.5
あまり関わりたくないので、「ちょっとした手助け」はしないと思う	27	3.0
その他	14	1.6
合計	891	100.0



<年代別>

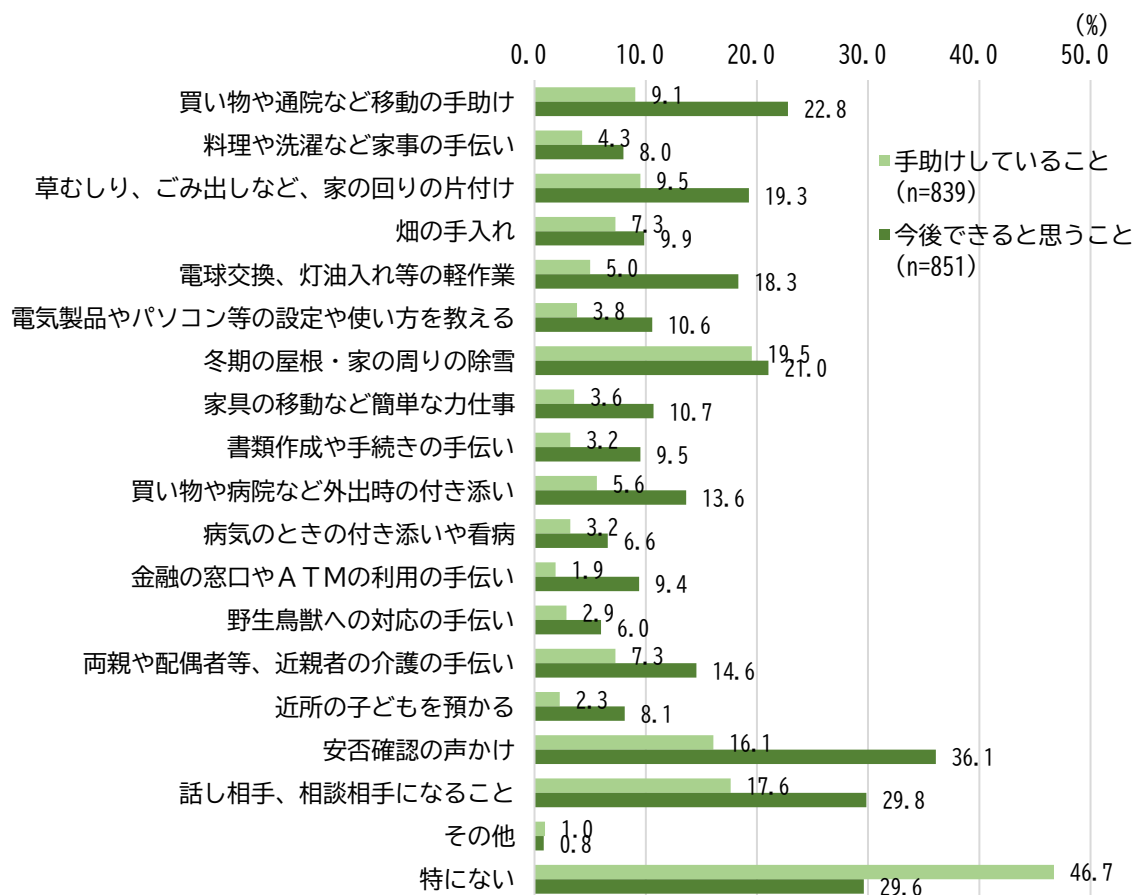
	近所に住む者として、できる範囲で「ちょっとした手助け」をしたい	「ちょっとした手助け」をしたいが、自分のことで精一杯で余裕がない	「ちょっとした手助け」は主に行政が行うことなので、近所の者はしなくてもよい	余計なお世話になってしまうので、「ちょっとした手助け」はしないと思う	あまり関わりたくないので、「ちょっとした手助け」はしないと思う	その他
20歳代以下(n=51)	66.7	21.6	2.0	3.9	2.0	3.9
30歳代(n=55)	49.1	36.4	1.8	5.5	5.5	1.8
40歳代(n=101)	63.4	22.8	2.0	9.9	2.0	0.0
50歳代(n=132)	56.1	27.3	0.0	9.8	3.8	3.0
60歳代(n=224)	63.8	20.5	1.3	11.6	2.7	0.0
70歳代以上(n=319)	64.6	20.4	0.9	9.1	3.1	1.9

オ 手助けしていること／これから手助けできると思うこと

- 現在手助けしていることは「特にない」が46.7%でもっとも高くなっています。
- 今後手助けできると思うことでは、「安否確認」「話し相手・相談相手」「買い物や通院の移動の手助け」「冬期の除雪」が20%以上となっています。

図表 22 手助けしていること／これから手助けできると思うこと（複数回答）

	手助けしていること		今後できると思うこと	
	度数（人）	割合（％）	度数（人）	割合（％）
買い物や通院など移動の手助け	76	9.1	194	22.8
料理や洗濯など家事の手伝い	36	4.3	68	8.0
草むしり、ごみ出しなど、家の回りの片付け	80	9.5	164	19.3
畑の手入れ	61	7.3	84	9.9
電球交換、灯油入れ等の軽作業	42	5.0	156	18.3
電気製品やパソコン等の設定や使い方を教える	32	3.8	90	10.6
冬期の屋根・家の周りの除雪	164	19.5	179	21.0
家具の移動など簡単な力仕事	30	3.6	91	10.7
書類作成や手続きの手伝い	27	3.2	81	9.5
買い物や病院など外出時の付き添い	47	5.6	116	13.6
病気のときの付き添いや看病	27	3.2	56	6.6
金融の窓口やＡＴＭの利用の手伝い	16	1.9	80	9.4
野生鳥獣への対応の手伝い	24	2.9	51	6.0
両親や配偶者等、近親者の介護の手伝い	61	7.3	124	14.6
近所の子どもを預かる	19	2.3	69	8.1
安否確認の声かけ	135	16.1	307	36.1
話し相手、相談相手になること	148	17.6	254	29.8
その他	8	1.0	7	0.8
特にない	392	46.7	252	29.6
回答者数	839		851	

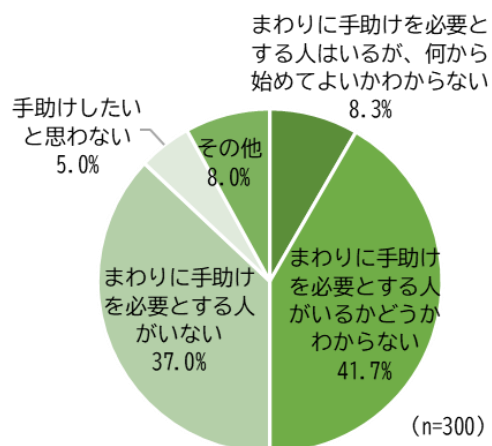


カ 手助けできることが特にないと回答した理由

- 手助けできることが特にないと回答した理由として、「まわりに手助けを必要とする人がいるかどうかかわからない」をあげた人が 41.7%と多くみられます。次いで、「まわりに手助けを必要とする人がいない」が 37.0%となっています。
- 「手助けしたいと思わない」という人は少数であり、助けを必要とする人がいない、知らない、何から始めていいかわからないことが行動に結びつかない理由と考えられます。

図表 23 手助けしていること／これから手助けできると思うことが特にない理由

	度数（人）	割合（％）
まわりに手助けを必要とする人はいるが、何から始めてよいかかわからない	25	8.3
まわりに手助けを必要とする人がいるかどうかかわからない	125	41.7
まわりに手助けを必要とする人がいない	111	37.0
手助けしたいと思わない	15	5.0
その他	24	8.0
合計	300	100.0

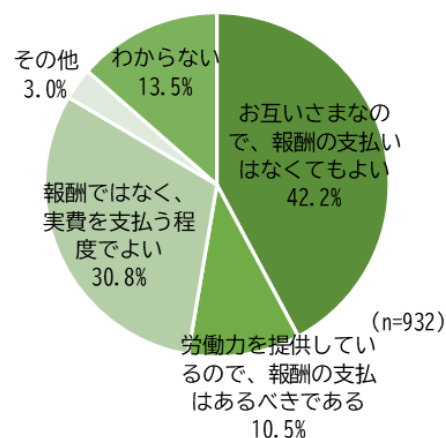


キ 住民同士の助け合いに対する報酬について

- 報酬の考え方については、「お互いさまなので支払いはなくてもよい」が 42.2%でもっとも高く、次いで「実費を支払う程度でよい」が 30.8%となっています。

図表 24 住民同士の助け合いに対する報酬の考え方

	度数（人）	割合（％）
お互いさまなので、報酬の支払いはなくてもよい	393	42.2
労働力を提供しているので、報酬の支払はあるべきである	98	10.5
報酬ではなく、実費を支払う程度でよい	287	30.8
その他	28	3.0
わからない	126	13.5
合計	932	100.0



(5) 地域活動へのコロナの影響

- コロナ期間中は「地域のお祭りやイベント」「地区内の親睦活動」「地区の会合」の多くの方が対面するような地域活動で強く影響がみられました。現在の状況については、これらの活動はまだ影響が一部継続していますが、それ以外の活動については、コロナ前に戻ったという回答が過半数を占めています。

図表 25 コロナ期間中と現在の地域活動の状況

	①コロナ期間中の状況					
	n	強く影響を受けた	やや影響を受けた	あまり影響はなかった	影響はなかった	わからない
地域のお祭りやイベント	990	58.2	23.8	4.0	4.1	9.8
ご近所さんとの日常の交流	987	11.9	34.8	31.4	13.8	8.2
高齢者の見守り活動	939	5.9	14.5	18.0	9.3	52.4
高齢者の送迎活動	919	4.7	12.3	12.6	9.4	61.0
防犯や防災に関する活動	940	5.5	14.4	22.4	13.9	43.7
地域での清掃活動（ゴミ集積所の整理など）	963	3.1	12.4	34.8	25.8	24.0
地域での除雪作業	956	2.2	4.7	36.1	33.2	23.8
地区の会合の開催	977	39.7	35.1	5.1	4.7	15.4
地区内での親睦活動	976	40.3	29.8	4.4	4.3	21.2
地区の担い手（役員）確保	957	6.5	13.8	27.1	13.3	39.4
住民の町会活動への関心・協力意向	954	11.6	23.9	16.4	8.3	39.8

	②現在の状況			
	n	現在も影響が続いている	現在もやや影響がある	コロナ前に戻った
地域のお祭りやイベント	856	16.2	53.7	30.0
ご近所さんとの日常の交流	818	4.5	32.2	63.3
高齢者の見守り活動	569	3.9	30.1	66.1
高齢者の送迎活動	502	3.6	28.3	68.1
防犯や防災に関する活動	596	3.5	23.7	72.8
地域での清掃活動（ゴミ集積所の整理など）	694	2.0	17.4	80.5
地域での除雪作業	668	1.9	12.4	85.6
地区の会合の開催	791	10.4	45.3	44.4
地区内での親睦活動	759	13.2	49.0	37.8
地区の担い手（役員）確保	642	5.8	25.9	68.4
住民の町会活動への関心・協力意向	639	7.2	37.9	54.9

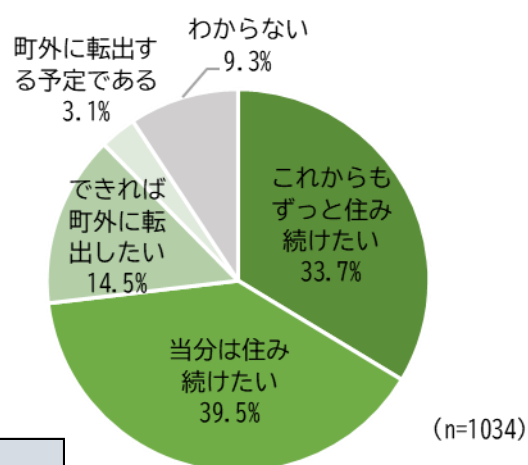
分野③ 移住定住・関係人口

(1) 信濃町への定住意向

- 信濃町に「これからも住み続けたい」という住民は 33.7%、「当分は住み続けたい」と合わせて 73.1%の住民が定住意向を持っています。一方、「できれば町外に転出したい」という住民は 14.5%となっています。
- 年代別にみると、年齢の高い層で「これからも住み続けたい」の割合が高くなっています。20 歳の若い層では「町外に転出する予定」が 25.4%と高くなっています。
- 居住年数別にみると、10 年未満の年数の短い層と 30 年以上の長い層で「これからも住み続けたい」の割合が高く、2 極化がみられます。10～29 年の中間的な層で、「できれば町外に転出したい」の割合が高くなっています。

図表 26 信濃町への定住意向

	度数 (人)	割合 (%)
これからもずっと住み続けたい	348	33.7
当分は住み続けたい	408	39.5
できれば町外に転出したい	150	14.5
町外に転出する予定である	32	3.1
わからない	96	9.3
合計	1034	100.0



<年代別>

	これからもずっと住み続けたい	当分は住み続けたい	できれば町外に転出したい	町外に転出する予定である	わからない
20歳代以下(n=59)	13.6	37.3	13.6	25.4	10.2
30歳代(n=57)	26.3	38.6	17.5	1.8	15.8
40歳代(n=108)	27.8	39.8	15.7	1.9	14.8
50歳代(n=143)	25.9	44.1	18.9	1.4	9.8
60歳代(n=253)	30.4	39.5	17.4	2.4	10.3
70歳代以上(n=402)	44.3	38.3	10.2	1.5	5.7

<居住年数別>

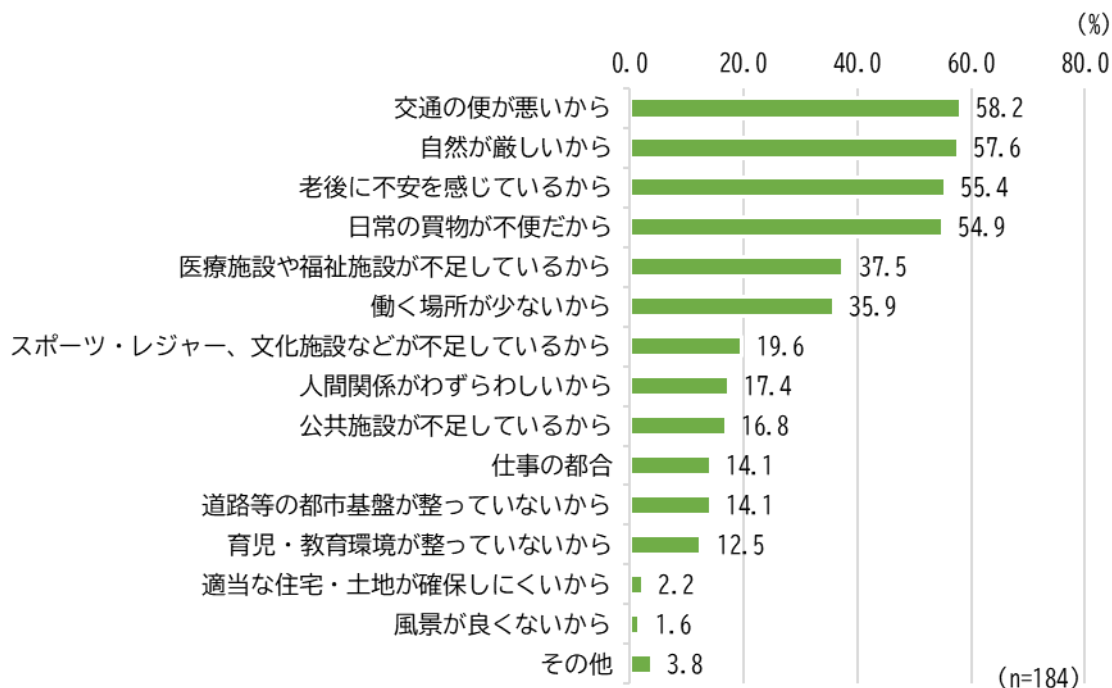
	これからもずっと住み続けたい	当分は住み続けたい	できれば町外に転出したい	町外に転出する予定である	わからない
10年未満(n=87)	35.6	49.4	5.7	2.3	6.9
10～19年(n=98)	21.4	38.8	16.3	13.3	10.2
20～29年(n=126)	20.6	48.4	17.5	5.6	7.9
30年以上(n=708)	37.6	36.7	14.7	1.4	9.6

(2) 信濃町から転出したい理由

- 転出意向・転出予定のある住民の転出理由として、「交通の便が悪い」「自然が厳しい」「老後に不安を感じる」「日常の買い物が不便」が過半数を超え、高くなっています。この4点が定住を躊躇する大きな要因となっています。

図表 27 信濃町から転出したい理由【転出したい・転出する予定であると回答した人】

	度数（人）	割合（％）
適当な住宅・土地が確保しにくいから	4	2.2
仕事の都合	26	14.1
自然が厳しいから	106	57.6
風景が良くないから	3	1.6
交通の便が悪いから	107	58.2
道路等の都市基盤が整っていないから	26	14.1
日常の買物が不便だから	101	54.9
公共施設が不足しているから	31	16.8
スポーツ・レジャー、文化施設などが不足しているから	36	19.6
医療施設や福祉施設が不足しているから	69	37.5
働く場所が少ないから	66	35.9
人間関係がわずらわしいから	32	17.4
育児・教育環境が整っていないから	23	12.5
老後に不安を感じているから	102	55.4
その他	7	3.8
回答者数	184	



- 年代別にみると、若い層では「仕事の都合」のほか、「医療施設・福祉施設」「働く場所」「育児・教育環境」をあげる割合が高くなっています。50歳代、60歳代で「老後の不安」をあげる割合が高くなっています。
- 居住地域別にみると、野尻で「自然の厳しさ」「交通の便」「老後の不安」が他地域よりも高くなっています。また、古間では「医療施設・福祉施設」「働く場所」が高くなっています。
- 居住年数別にみると、居住年数が短い層（移住者と考えられる）で「交通の便」「スポーツ・文化施設の不足」「医療施設・福祉施設の不足」や「育児・教育環境」をあげる割合が多く、また「老後への不安」も高い傾向がみられます。一方、長年住んでいる人では「自然が厳しい」が高くなっています。

<年代別>

	n	適当な住宅・土地が確保しにくいから	仕事の都合	自然が厳しいから	風景が良くないから	交通の便が悪いから	道路等の都市基盤が整っていないから	日常の買物が不便だから	公共施設が不足しているから	スポーツ・レジャー、文化施設などが不足しているから	医療施設や福祉施設が不足しているから	働く場所が少ないから	人間関係がわずらわしいから	育児・教育環境が整っていないから	老後に不安を感じているから	その他
20歳代以下	23	13.0	43.5	13.0	0.0	47.8	13.0	56.5	17.4	30.4	17.4	43.5	8.7	13.0	13.0	8.7
30歳代	10	0.0	40.0	60.0	0.0	50.0	0.0	60.0	30.0	10.0	60.0	50.0	30.0	20.0	50.0	0.0
40歳代	20	5.0	25.0	50.0	5.0	75.0	5.0	50.0	10.0	20.0	30.0	60.0	35.0	40.0	45.0	0.0
50歳代	29	0.0	10.3	72.4	0.0	65.5	13.8	58.6	24.1	24.1	41.4	37.9	20.7	0.0	75.9	0.0
60歳代	51	0.0	5.9	68.6	0.0	66.7	23.5	62.7	13.7	19.6	43.1	31.4	13.7	17.6	66.7	7.8
70歳代以上	48	0.0	2.1	58.3	4.2	43.8	12.5	41.7	16.7	12.5	33.3	22.9	14.6	2.1	58.3	2.1

<居住地域別>

	n	適当な住宅・土地が確保しにくいから	仕事の都合	自然が厳しいから	風景が良くないから	交通の便が悪いから	道路等の都市基盤が整っていないから	日常の買物が不便だから	公共施設が不足しているから	スポーツ・レジャー、文化施設などが不足しているから	医療施設や福祉施設が不足しているから	働く場所が少ないから	人間関係がわずらわしいから	育児・教育環境が整っていないから	老後に不安を感じているから	その他
野尻	36	2.8	2.8	69.4	0.0	77.8	19.4	52.8	19.4	19.4	36.1	33.3	13.9	13.9	69.4	8.3
富士里	35	0.0	20.0	45.7	5.7	45.7	8.6	45.7	11.4	11.4	31.4	22.9	17.1	2.9	60.0	5.7
柏原	63	4.8	14.3	61.9	0.0	54.0	15.9	60.3	17.5	23.8	36.5	33.3	17.5	17.5	46.0	3.2
古間	44	0.0	20.5	47.7	2.3	56.8	11.4	52.3	18.2	18.2	40.9	52.3	20.5	11.4	54.5	0.0

<居住年数別>

	n	適当な住宅・土地が確保しにくいから	仕事の都合	自然が厳しいから	風景が良くないから	交通の便が悪いから	道路等の都市基盤が整っていないから	日常の買物が不便だから	公共施設が不足しているから	スポーツ・レジャー、文化施設などが不足しているから	医療施設や福祉施設が不足しているから	働く場所が少ないから	人間関係がわずらわしいから	育児・教育環境が整っていないから	老後に不安を感じているから	その他
10年未満	8	25.0	0.0	37.5	0.0	75.0	12.5	37.5	12.5	37.5	62.5	50.0	12.5	37.5	75.0	0.0
10～19年	29	0.0	24.1	31.0	6.9	48.3	13.8	58.6	17.2	20.7	31.0	41.4	10.3	20.7	41.4	10.3
20～29年	29	3.4	34.5	51.7	0.0	65.5	17.2	65.5	27.6	27.6	41.4	48.3	20.7	3.4	62.1	0.0
30年以上	115	0.9	7.8	66.1	0.9	57.4	13.9	51.3	14.8	15.7	34.8	30.4	19.1	11.3	56.5	3.5

【基本目標2】地域ぐるみで子どもを育むまち

分野④ 子育て／若者

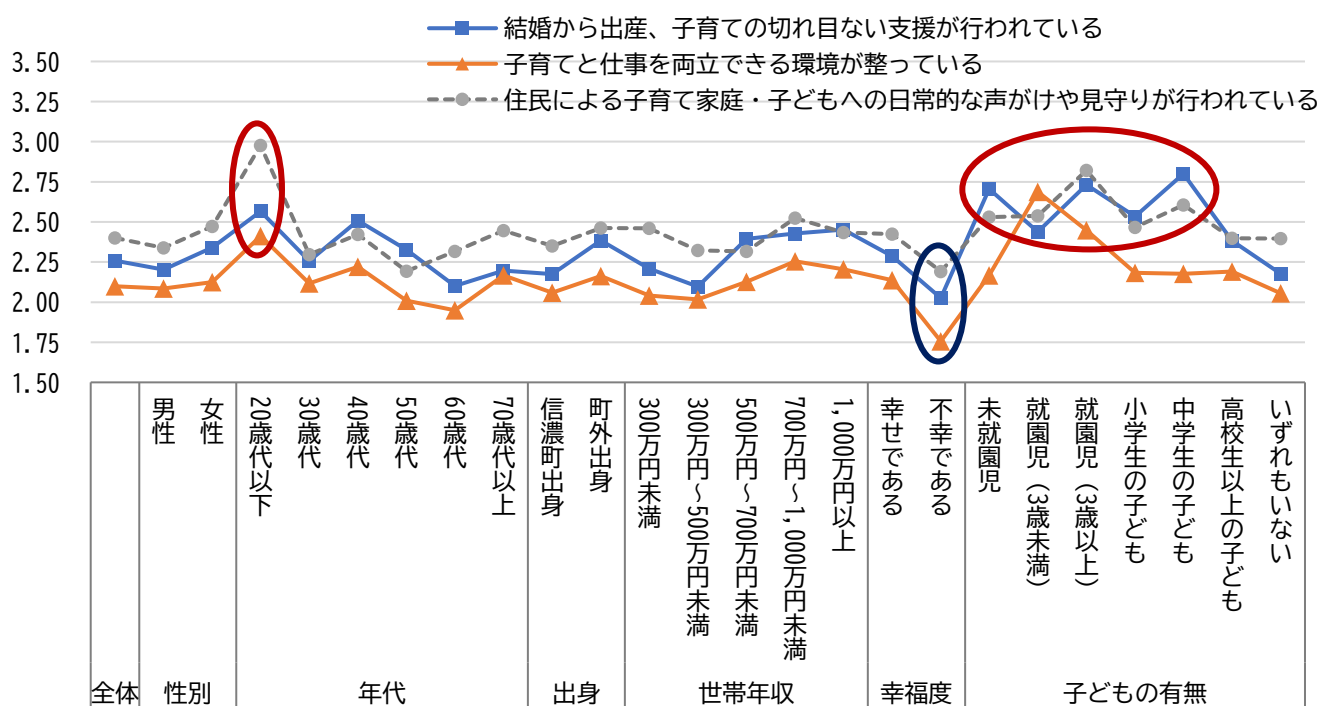
(1) 施策の現状評価

- 子育てに関連する施策の現状評価は、いずれも平均点が中央値を下回っています。
- 層別にみると、全体に比べ、20歳代以下や子どものいる層で高い傾向がみられます。
- 逆に不幸と感じている層で全体的に評価が低くなっています。

図表 28 施策別の現状評価（再掲）

No	設問	n	現状評価			
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分
5	結婚から出産、子育ての切れ目ない支援が行われている	966	44.8	2.26		
6	子育てと仕事を両立できる環境が整っている	962	39.5	2.10		
7	住民による子育て家庭・子どもへの日常的な声かけや見守りが行われている	959	32.8	2.40		

図表 29 層別の現状評価（平均点）



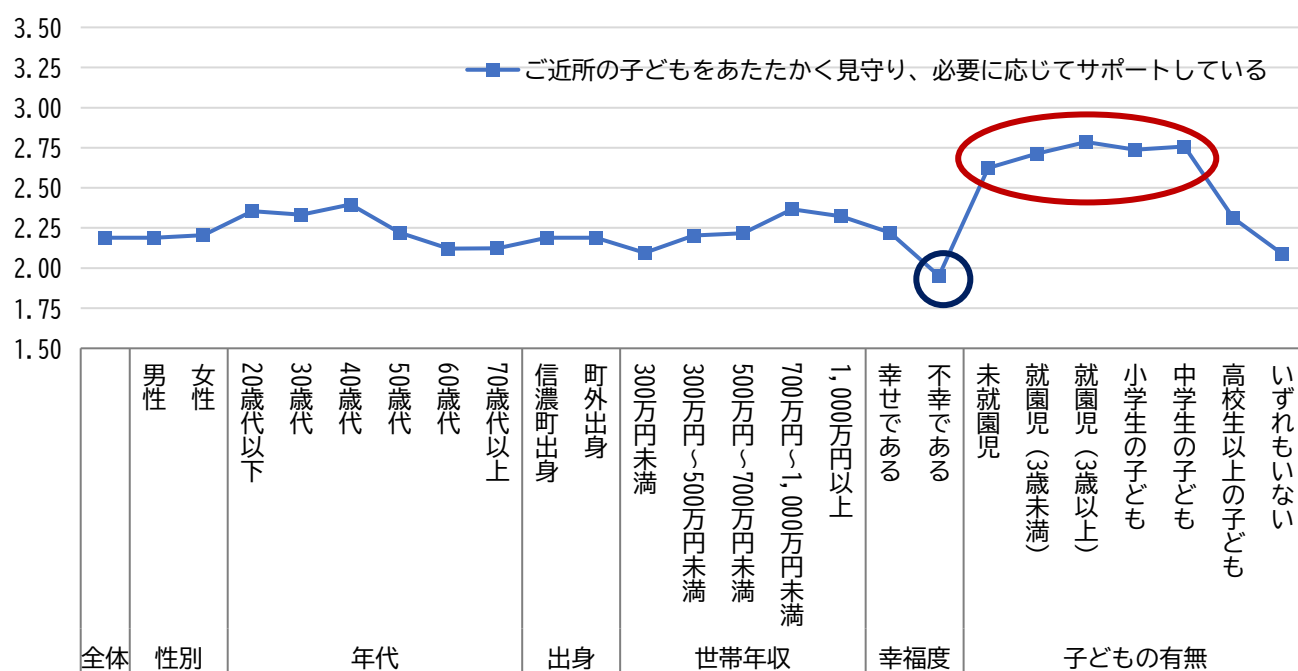
(2) 住民の取組状況

- こども・若者が子育てしやすい環境づくりに関連する住民自身の取組状況をみたものです。
- 「ご近所の子どもをあたたく見守り、必要に応じてサポートしている」の平均点は2.19で中央値を下回り、前回調査よりも0.14ポイント低下しています。「さらに取り組みたい」の割合も前回調査より10ポイント近く低下しています。
- 層別にみると、子どものいる層で取組の平均点が高くなっています。逆に、不幸と感じている層では低くなっています。

図表 30 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向（再掲）

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
6	ご近所の子どもをあたたく見守り、必要に応じてサポートしている	984	2.19	2.33	-0.14	29.3	38.4	-9.1

図表 31 層別の現状の取組状況（平均点）

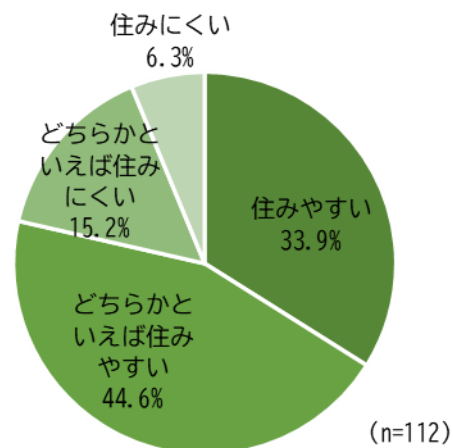


(3) こども・若者世代の住みやすさ・暮らし満足度

- 小中学生の住みやすさ評価をみると、78.6%が住みやすいと回答しています。
- 暮らし満足度の若者の評価をみると、20歳代以下では満足度が高いものの、子育ての中心世代といえる30代で「どちらかという不満」+「不満」が37.5%と高くなっており、課題を抱えていると考えられます。

図表 32 小中学生の住みやすさ評価

	度数(人)	割合(%)
住みやすい	38	33.9
どちらかといえば住みやすい	50	44.6
どちらかといえば住みにくい	17	15.2
住みにくい	7	6.3
合計	112	100.0



図表 33 年代別 暮らし満足度（再掲）

	満足している	どちらかという満足している	どちらかという不満である	不満である
20歳代以下(n=59)	28.8	54.2	13.6	3.4
30歳代(n=56)	14.3	48.2	30.4	7.1
40歳代(n=108)	21.3	46.3	27.8	4.6
50歳代(n=142)	9.9	59.2	26.8	4.2
60歳代(n=254)	15.4	51.6	27.6	5.5
70歳代以上(n=400)	20.8	60.3	16.5	2.5

分野⑤ 学び・教育

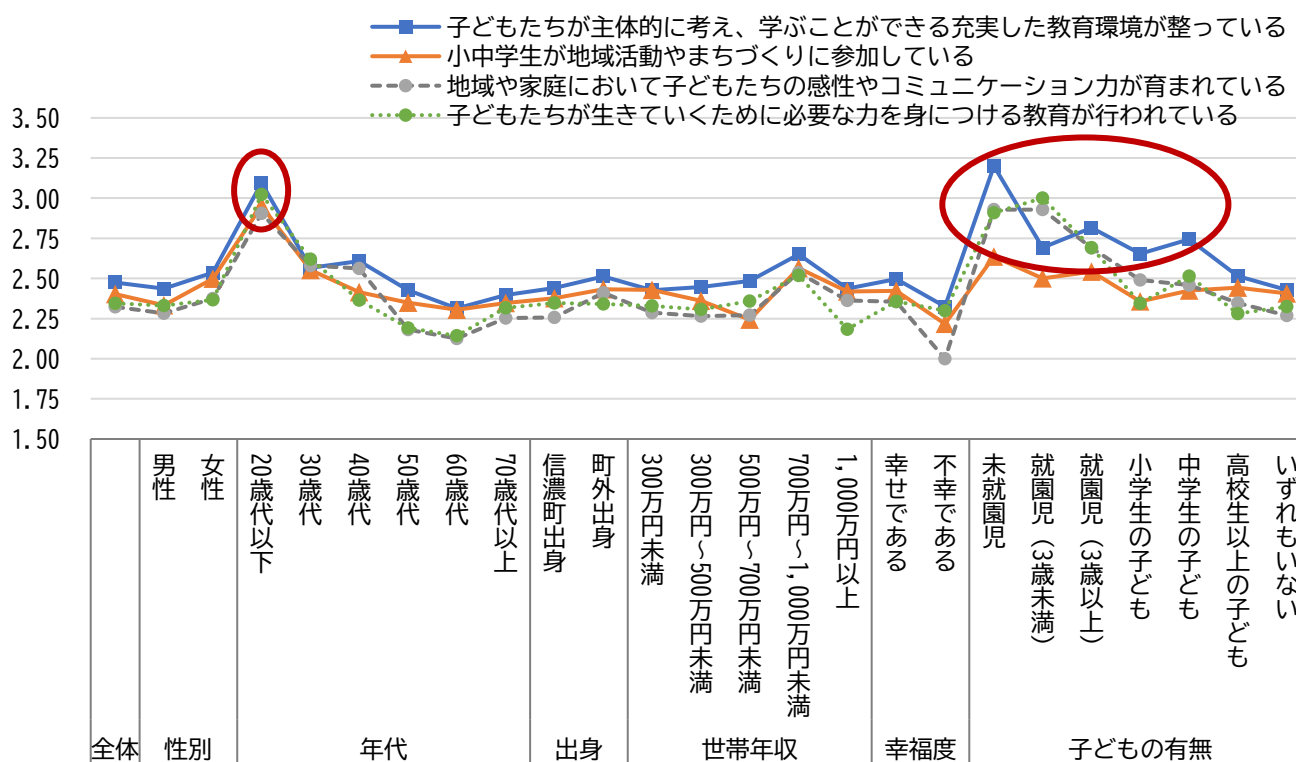
(1) 施策の現状評価

- 学び・教育分野に関連する施策の現状評価はいずれも平均点が中央値を下回っています。また、「わからない」の割合が高く、施策について、子育て世代以外の住民の多くが評価できないか関心が低いと考えられます。
- 層別にみると、どの施策も20歳代以下と子育て中の子どもがいる層で高い傾向がみられます。特に「子どもたちが主体的に考え、学ぶことができる充実した教育環境が整っている」は未就園児のいる層で突出しています。

図表 34 施策別の現状評価（再掲）

No	設問	n	現状評価			
			わからないの割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分
8	子どもたちが主体的に考え、学ぶことができる充実した教育環境が整っている	957	44.7	2.47		
9	小中学生が地域活動やまちづくりに参加している	962	41.4	2.40		
10	地域や家庭において子どもたちの感性やコミュニケーション力が育まれている	958	45.9	2.32		
11	子どもたちが生きていくために必要な力を身につける教育が行われている	958	49.8	2.35	2.49	-0.14

図表 35 層別の現状評価（平均点）



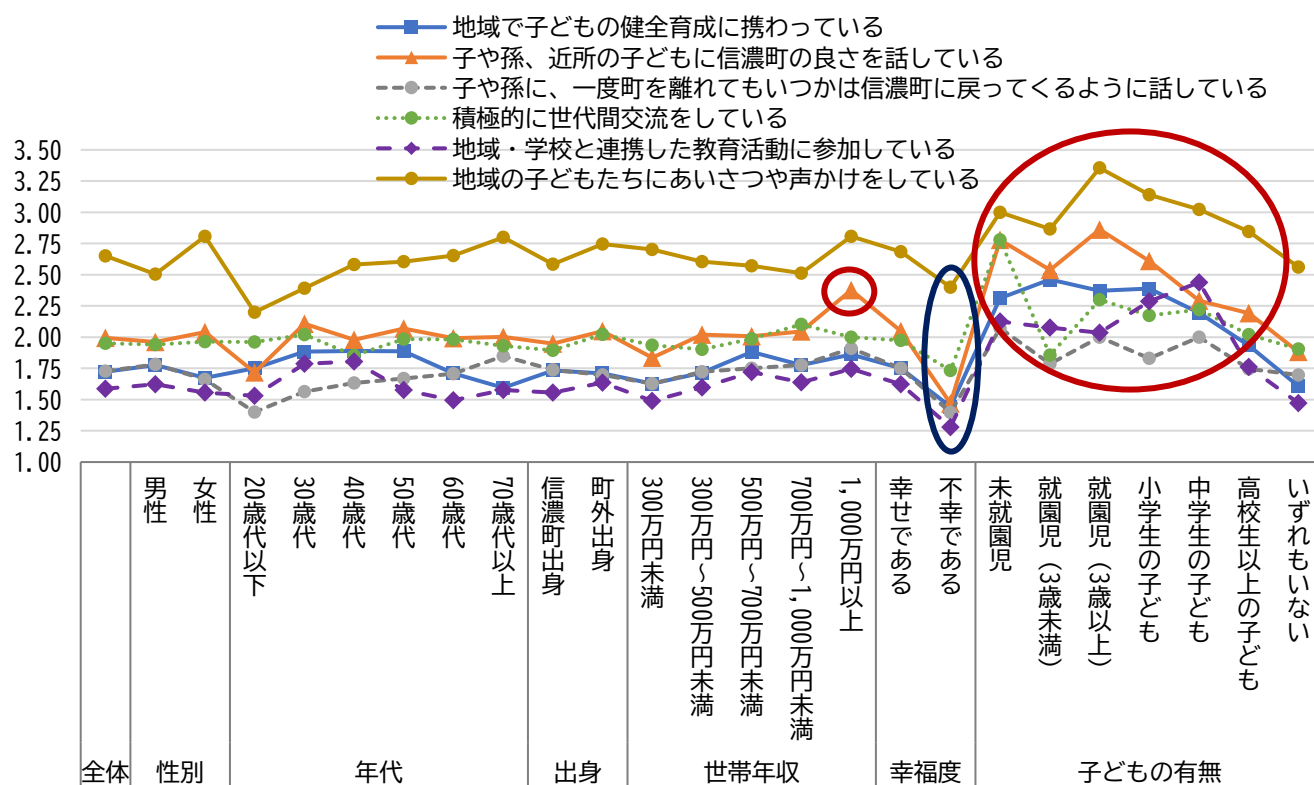
(2) 住民の取組状況

- 学び・教育分野に関連する住民自身の取組状況をみたものです。現在の取組の平均点は「地域の子どもたちにあいさつや声かけをしている」のみ 2.65 で中央値を上回っています。「さらに取り組みたい」の割合も 31.8%と他の取組よりも高くなっています。
- 層別にみると、全般的に子どものいる層で取組の平均点が高くなっています。その他、「信濃町の良さを話している」では世帯年収 1,000 万円以上の層で平均点高くなっています。また、どの取組も不幸と感じている層では低くなっています。

図表 36 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向（再掲）

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
7	地域で子どもの健全育成に携わっている	984	1.72	1.85	-0.12	23.2	29.9	-6.6
8	子や孫、近所の子どもに信濃町の良さを話している	986	1.99			24.2		
9	子や孫に、一度町を離れてもいつかは信濃町に戻ってくるように話している	990	1.73			14.6		
27	積極的に世代間交流をしている	996	1.95	1.94	0.01	21.9	22.2	-0.3
28	地域・学校と連携した教育活動に参加している	992	1.59	1.73	-0.15	15.0	21.8	-6.9
29	地域の子どもたちにあいさつや声かけをしている	997	2.65	2.84	-0.19	31.8	39.7	-7.9

図表 37 層別の現状の取組状況（平均点）



【基本目標3】生涯を通じて、だれもが健康に自分らしく暮らせるまち

分野⑥ 地域福祉・高齢者福祉・障がい者福祉

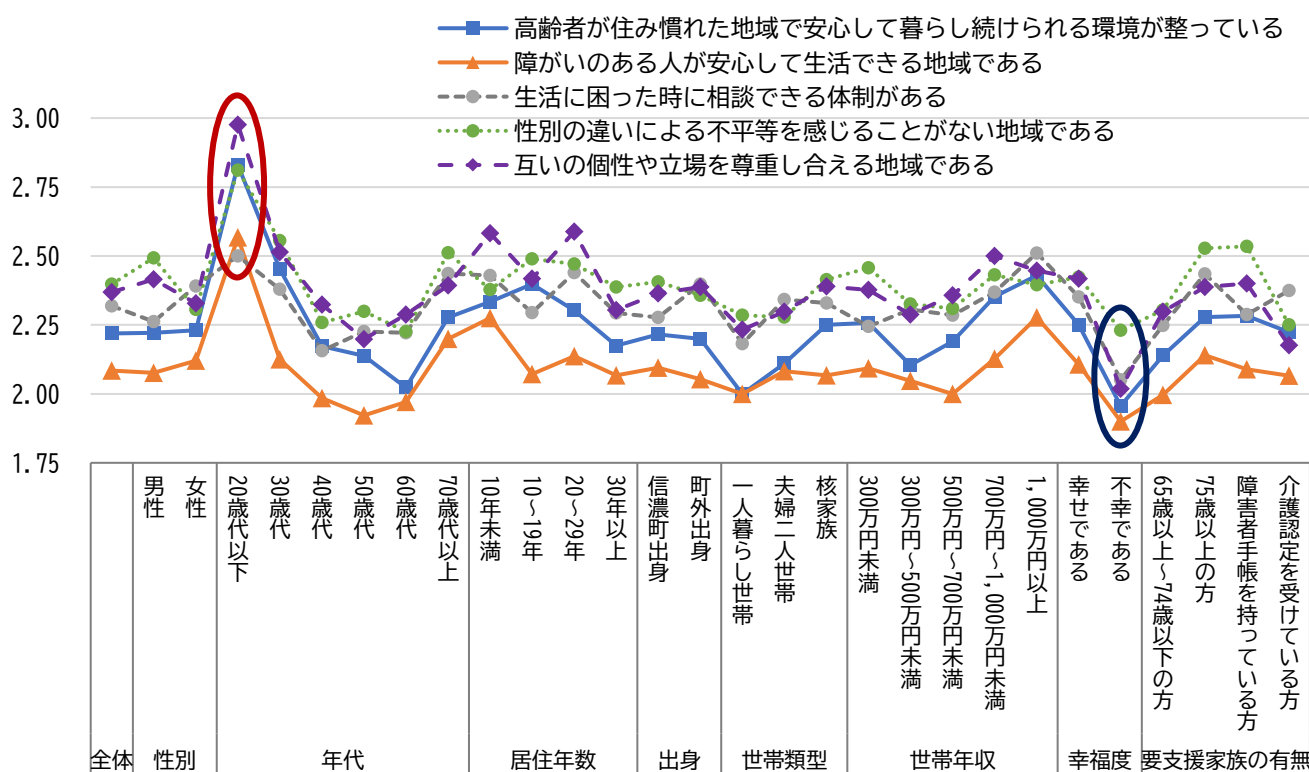
(1) 施策の現状評価

- 福祉分野施策の現状評価は、いずれも平均点が中央値を下回っています。高齢者福祉以外は「わからない」と回答した人が3割以上と高く、施策を知っている住民は少ないと考えられます。
- 層別にみると、5施策とも20歳代以下の若い層で全体に比べて高くなっています。逆に、不幸と感じている層では全般的に評価が低くなっています。
- 高齢者や障がい者、要介護認定者が家族にいる人の現状評価は全体と大きな違いはみられません。

図表 38 施策別の現状評価（再掲）

No	設問	n	現状評価			
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分
13	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境が整っている	982	15.9	2.22	2.28	-0.06
14	障がいのある人が安心して生活できる地域である	981	34.7	2.08	2.06	0.02
15	生活に困った時に相談できる体制がある	977	35.1	2.32	2.28	0.04
16	性別の違いによる不平等を感じることがない地域である	977	37.7	2.40	2.57	-0.17
17	互いの個性や立場を尊重し合える地域である	971	32.0	2.37	2.39	-0.02

図表 39 層別の現状評価（平均点）



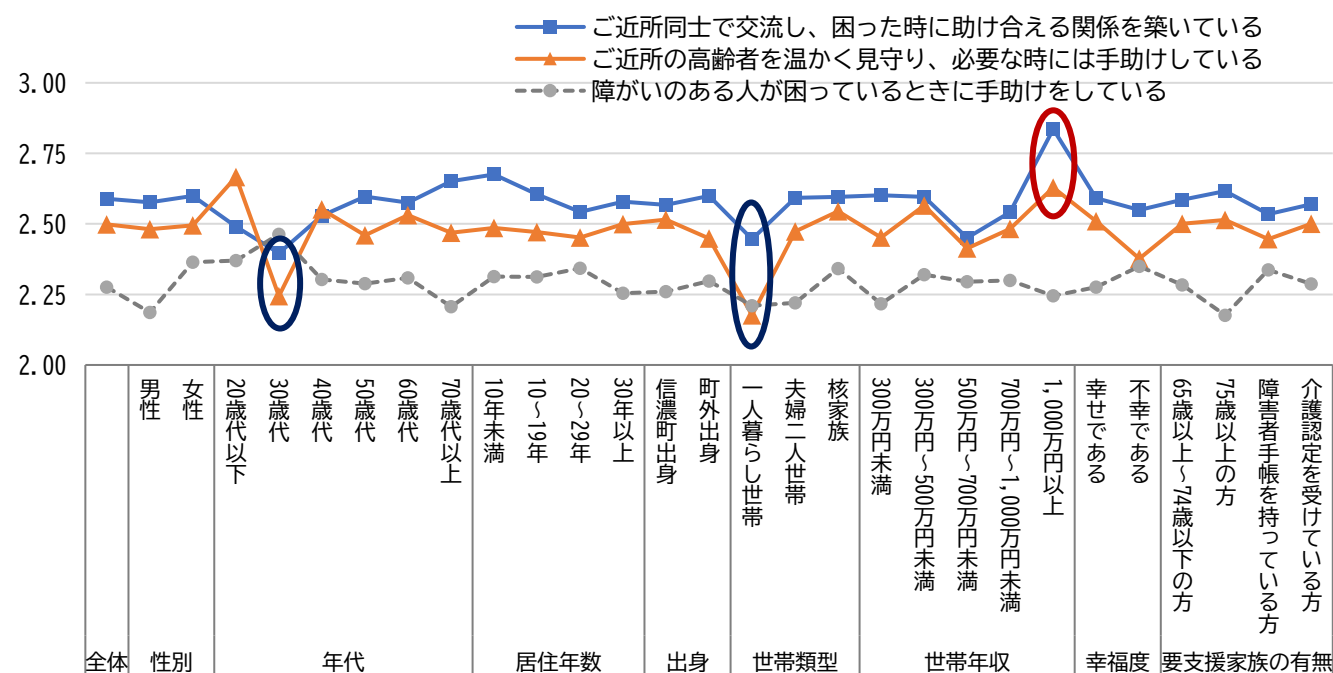
(2) 住民の取組状況

- 福祉分野に関連する住民自身の取組状況をみたものです。
- 「ご近所同士で交流し、困った時に助け合える関係を築いている」「ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている」は平均点が中央値以上となっています。しかし、「さらに取り組みたい」の割合は前回調査より 10 ポイント近く低下しています。
- 層別にみると、「ご近所同士で交流し、困った時に助け合える関係を築いている」「ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている」については世帯年収 1,000 万円以上の層で平均点が全体より高くなっています。逆に 30 歳代、一人暮らし世帯では平均点が全体より低くなっています。

図表 40 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向（再掲）

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
2	ご近所同士で交流し、困った時に助け合える関係を築いている	1,003	2.59	2.58	0.01	31.6	41.0	-9.4
3	ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている	1,001	2.50	2.56	-0.06	33.5	42.9	-9.4
5	障がいのある人が困っているときに手助けをしている	993	2.28	2.27	0.00	36.6	40.0	-3.4

図表 41 層別の現状の取組状況（平均点）



分野⑦ 健康・医療

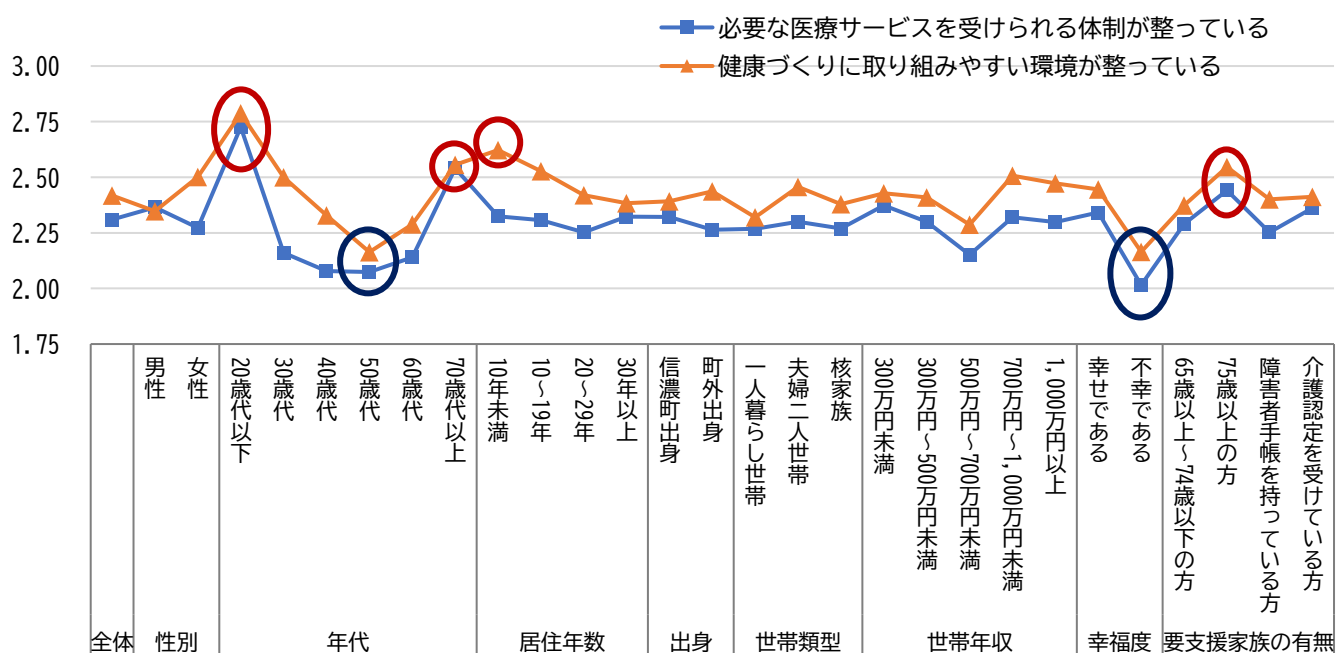
(1) 施策の現状評価

- 健康・医療分野の施策の現状評価は、いずれも平均点が中央値を下回っています。
- 層別にみると、「必要な医療サービスを受けられる体制が整っている」「健康づくりに取り組みやすい環境が整っている」とも、全体に比べ、20歳代以下、70歳代、75歳以上の方が家族にいる層で高い傾向がみられます。逆に、50歳代、不幸と感じている層で評価が低くなっています。
- 加えて、「健康づくりに取り組みやすい環境が整っている」については、居住年数10年未満の短い層でも評価が高くなっています。

図表 42 施策別の現状評価（再掲）

No	設問	n	現状評価			
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分
18	必要な医療サービスを受けられる体制が整っている	980	14.2	2.31	2.30	0.01
19	健康づくりに取り組みやすい環境が整っている	972	22.1	2.42	2.45	-0.04

図表 43 層別の現状評価（平均点）



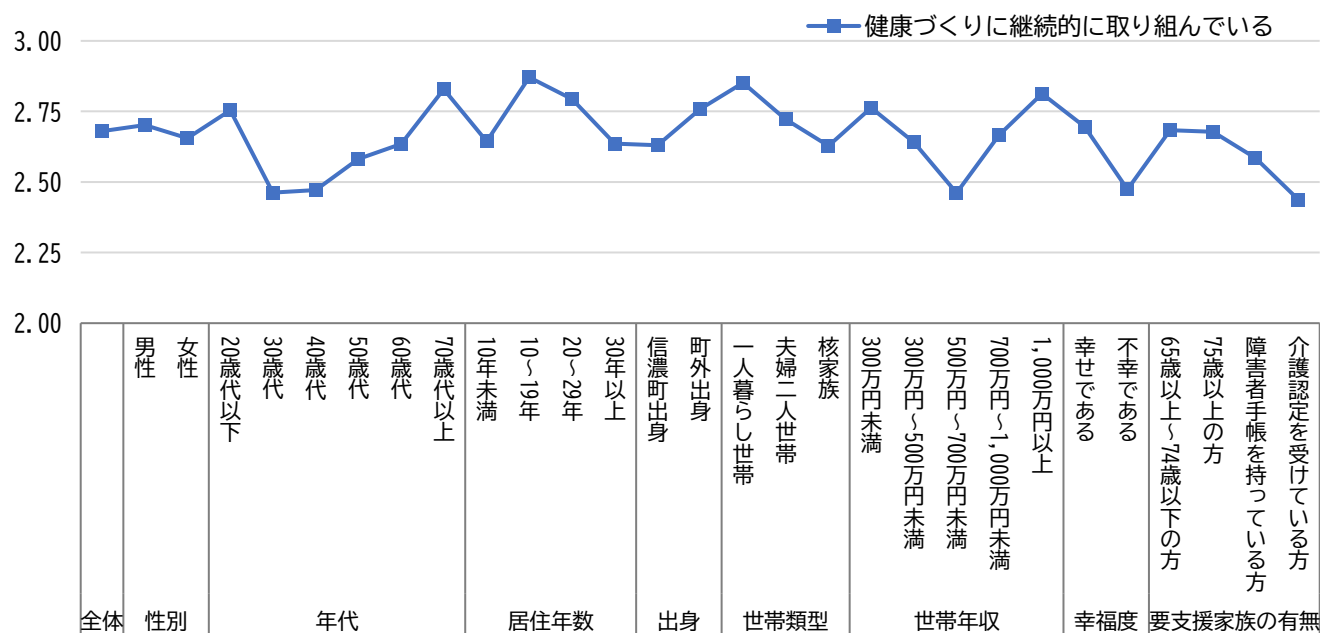
(2) 住民の取組状況

- 健康・医療分野に関連する「健康づくりに継続的に取り組んでいる」の住民自身の取組状況をみたものです。
- 平均点は2.68で中央値を上回り、前回調査よりも増加しています。また、「さらに取り組みたい」の割合は42.8%となっています。
- 全体と大きく異なる傾向のある層はありません。

図表 44 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向（再掲）

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
1	健康づくりに継続的に取り組んでいる	999	2.68	2.61	0.07	42.8	44.5	-1.7

図表 45 層別の現状の取組状況（平均点）



分野⑧ 生涯学習・文化・スポーツ

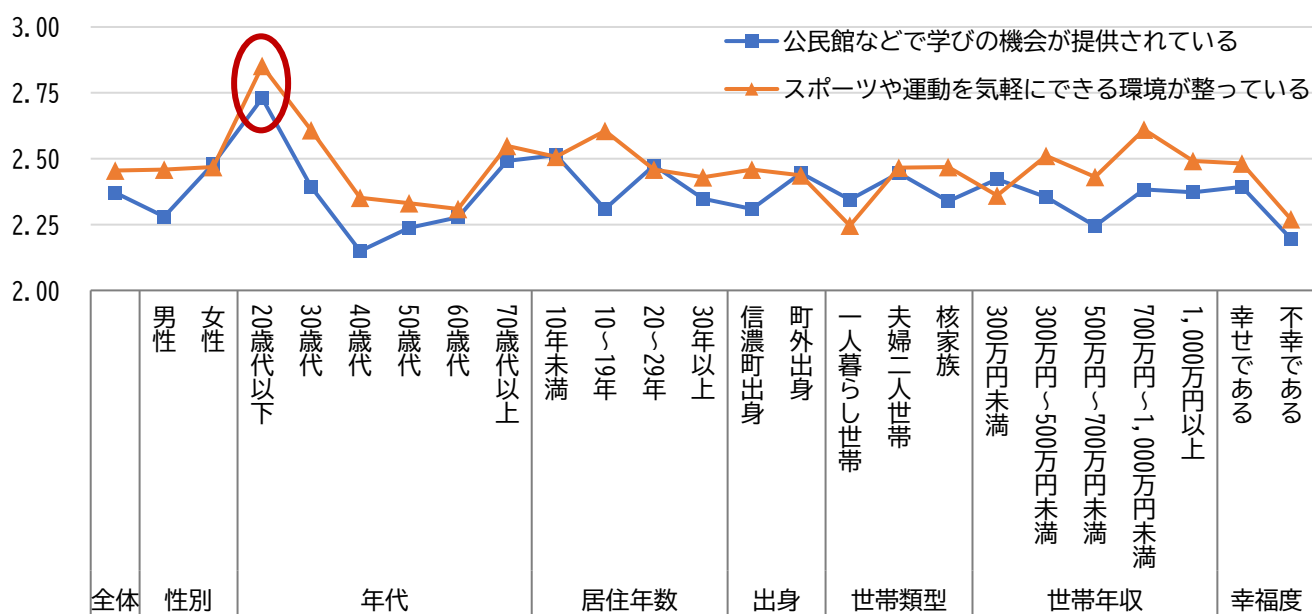
(1) 施策の現状評価

- 生涯学習・文化・スポーツ分野の施策の現状評価は、平均点が中央値を下回っています。「スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている」は前回調査より 0.11 ポイント低下しています。
- 層別にみると、全体に比べ、20 歳代以下の若い層で評価が高くなっています。

図表 46 施策別の現状評価（再掲）

No	設問	n	現状評価			
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分
12	公民館などで学びの機会が提供されている	955	37.9	2.37		
29	スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている	979	16.6	2.45	2.56	-0.11

図表 47 層別の現状評価（平均点）



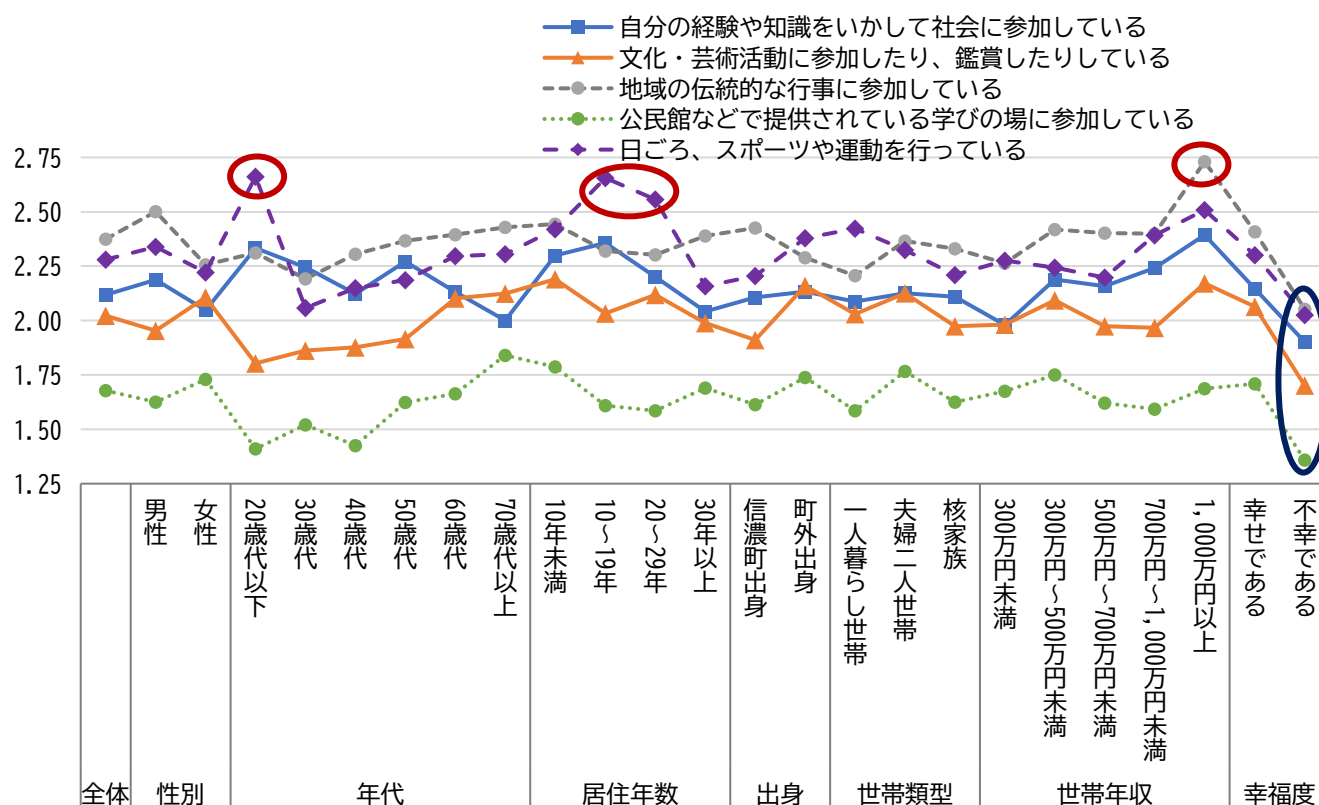
(2) 住民の取組状況

- 生涯学習・文化・スポーツ分野に関連する住民自身の取組状況をみたものです。
- いずれも中央値を下回り、取組が活発とはいえない状況です。「さらに取り組みたい」の割合は「日ごろ、スポーツや運動を行っている」のみ 35.7%で3割以上となっています。
- 層別にみると、「日ごろ、スポーツや運動を行っている」は20歳代以下、居住年数10～19年、20～29年で高く、「地域の伝統的な行事に参加している」は世帯年収1,000万円以上の層で平均点が高くなっています。
- どの取組も不幸と感じている層で低くなっています。

図表 48 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向（再掲）

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
4	自分の経験や知識をいかして社会に参加している	1,000	2.12	2.15	-0.03	25.9	32.9	-7.1
24	文化・芸術活動に参加したり、鑑賞したりしている	1,002	2.02	2.07	-0.05	22.6	25.1	-2.5
25	地域の伝統的な行事に参加している	997	2.37	2.32	0.05	20.7	25.0	-4.3
26	公民館などで提供されている学びの場に参加している	999	1.68	1.76	-0.08	17.5	20.6	-3.1
30	日ごろ、スポーツや運動を行っている	1,000	2.28	2.19	0.09	35.7	36.8	-1.2

図表 49 層別の現状の取組状況（平均点）



【基本目標4】安全に確かな暮らしができるまち

分野⑨ 環境保全

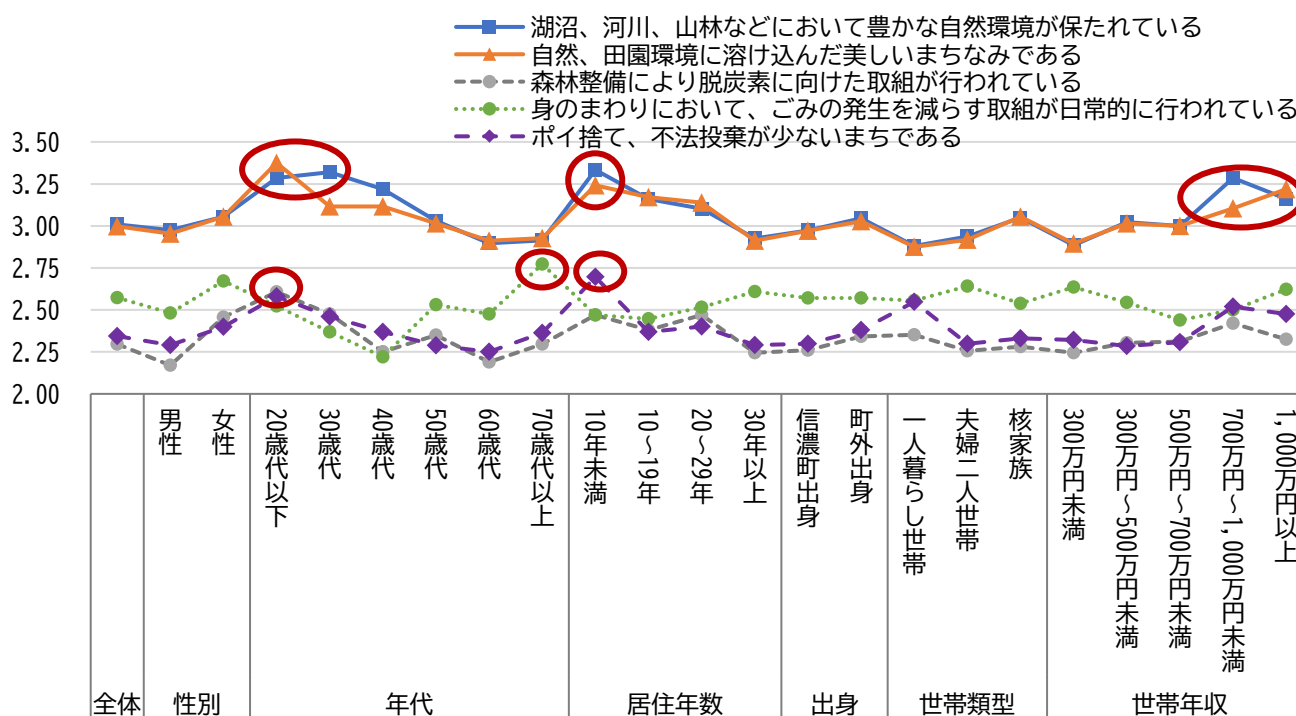
(1) 施策の現状評価

- 環境保全分野に関連する施策のうち、「豊かな自然環境が保たれている」「自然、田園環境に溶け込んだ美しいまちなみである」「ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている」の平均点が中央値を上回っています。「森林整備により脱炭素に向けた取組が行われている」については、「わからない」の割合が高く、取組が住民に浸透していないと考えられます。
- 層別にみると、全体に比べ、20歳代以下や居住年数が短い層、世帯年収の高い層で高い傾向がみられます。「ごみの発生を減らす取組」については、70歳代以上が高くなっています。

図表 50 施策別の現状評価（再掲）

No	設問	n	現状評価			
			わからないの割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分
20	湖沼、河川、山林などにおいて豊かな自然環境が保たれている	971	6.1	3.01	2.99	0.01
21	自然、田園環境に溶け込んだ美しいまちなみである	985	5.4	3.00	2.98	0.02
22	森林整備により脱炭素に向けた取組が行われている	982	43.3	2.30		
23	身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている	987	18.8	2.57	2.57	0.00
24	ポイ捨て、不法投棄が少ないまちである	990	13.2	2.34	2.36	-0.01

図表 51 層別の現状評価（平均点）



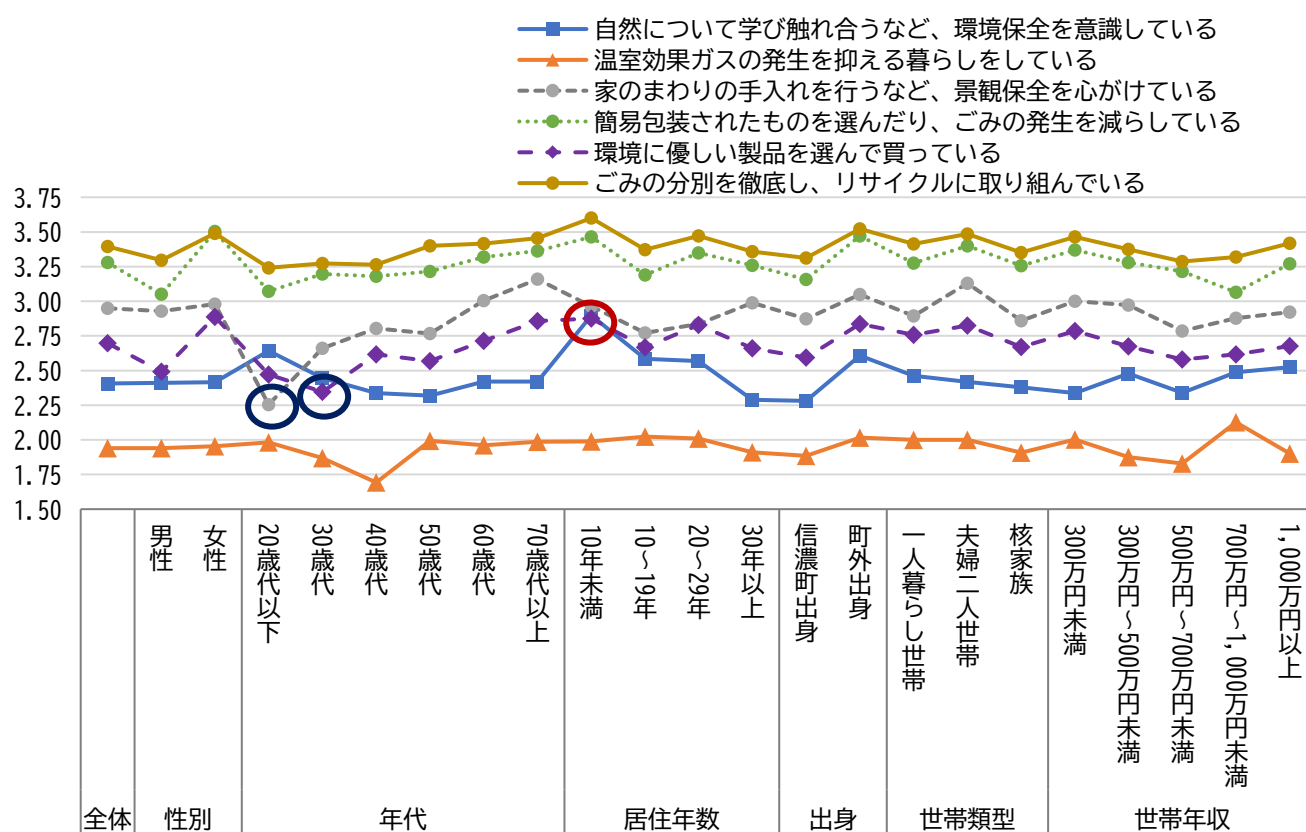
(2) 住民の取組状況

- 環境保全分野に関連する住民自身の取組状況をみたものです。
- 6項目中4項目で中央値の2.50を大きく上回り、活発に取り組まれていると考えられます。特に、「ごみの分別を徹底し、リサイクルに取り組んでいる」は3.39ととても高くなっています。
- また、「簡易包装されたものを選んだり、ごみの発生を減らしている」については、前回調査を0.54ポイント上回り、取組が進んでいます。
- 層別にみると、「自然について学び触れ合うなど、環境保全を意識している」は居住年数10年未満で全体より高くなっています。「家のまわりの手入れを行うなど、景観保全を心がけている」については20歳代以下、「環境に優しい製品を選んで買っている」については30歳代で低くなっています。

図表 52 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向（再掲）

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
10	自然について学び触れ合うなど、環境保全を意識している	988	2.41	2.39	0.02	29.3	35.4	-6.0
11	温室効果ガスの発生を抑える暮らしをしている	995	1.94	2.03	-0.09	27.4	35.1	-7.6
12	家のまわりの手入れを行うなど、景観保全を心がけている	1,006	2.95	2.90	0.05	39.5	47.9	-8.5
13	簡易包装されたものを選んだり、ごみの発生を減らしている	1,003	3.28	2.74	0.54	47.2	51.1	-3.9
14	環境に優しい製品を選んで買っている	996	2.70			39.4		
15	ごみの分別を徹底し、リサイクルに取り組んでいる	1,006	3.39	3.30	0.09	47.8	57.7	-9.9

図表 53 層別の現状の取組状況（平均点）



(3) まちの環境保全について

ア 自然環境を次世代に残すために重要なこと

- いずれの項目も重要と考えられていますが、「非常に重要である」の割合は、「水源と湖沼の保全」「自然災害への備えと災害復旧能力の向上」「持続可能な農地利用と食糧生産の維持」の順で特に高くなっています。

図表 54 町の豊かな水や自然を次の世代に残していくために重要なこと

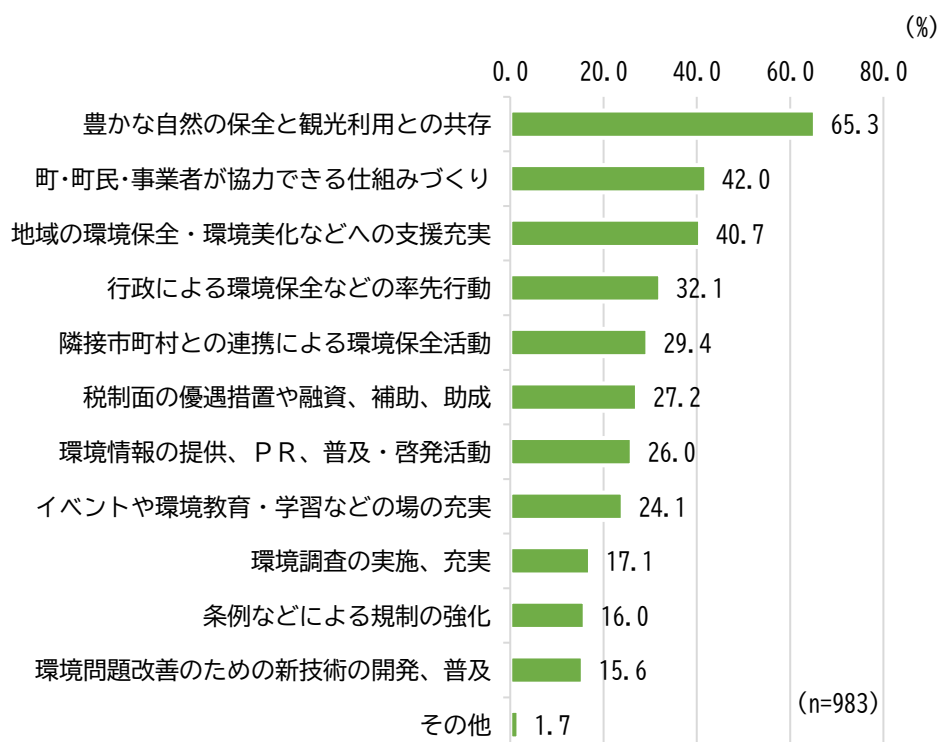
	n	非常に重要 である	重要である	どちらとも 言えない	重要ではな い	全く重要で はない
森林や自然公園の保全	994	43.2	48.1	7.9	0.6	0.2
清らかな水源と湖沼の保全	999	54.2	42.2	3.6	0.0	0.0
希少な自然資源や生物多様性の保全	985	42.3	46.2	11.1	0.4	0.0
持続可能な農地利用と食糧生産の維持	984	46.6	43.6	9.2	0.4	0.1
温暖化対策と再生可能エネルギーの利用	983	36.5	44.8	16.1	1.6	1.0
豊かな自然景観や風景の保全	983	46.2	45.7	7.7	0.4	0.0
大気環境汚染の軽減	980	43.0	45.4	10.3	1.0	0.3
適切な廃棄物管理とリサイクルの推進	980	42.8	49.6	6.9	0.5	0.2
自然災害への備えと災害復旧能力の向上	983	49.2	44.2	6.4	0.1	0.1
環境教育の普及と住民意識向上	981	34.4	50.5	14.5	0.7	0.0
自然に配慮した観光利用	981	37.6	47.5	13.4	1.3	0.2

イ 自然環境を守り育てるために必要な取組

- 「豊かな自然の保全と観光利用との共存」が 65.3%で他の項目より高くなっています。観光と自然の共存は、多くの住民の関心事と考えられます。
- 次いで、「町・町民・事業者が協力できる仕組みづくり」「地域の環境保全・環境美化などへの支援充実」の順に高くなっています。

図表 55 自然環境を守り育てるために必要な取組（複数回答）

	度数（人）	割合（％）
豊かな自然の保全と観光利用との共存	642	65.3
地域の環境保全・環境美化などへの支援充実	400	40.7
町・町民・事業者が協力できる仕組みづくり	413	42.0
環境情報の提供、PR、普及・啓発活動	256	26.0
行政による環境保全などの率先行動	316	32.1
環境調査の実施、充実	168	17.1
条例などによる規制の強化	157	16.0
税制面の優遇措置や融資、補助、助成	267	27.2
イベントや環境教育・学習などの場の充実	237	24.1
隣接市町村との連携による環境保全活動	289	29.4
環境問題改善のための新技術の開発、普及	153	15.6
その他	17	1.7
回答者数	983	

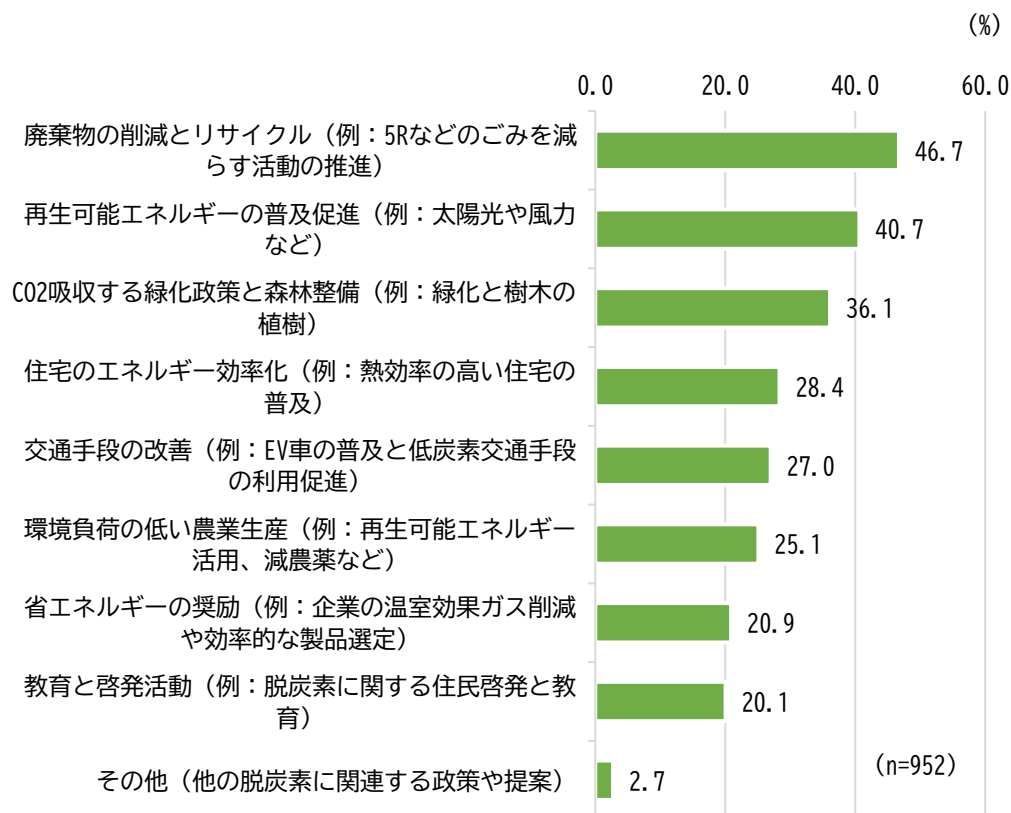


ウ 地球温暖化の解決に向けて町が推進すべき事業

- 地球温暖化の解決に向けて町が推進すべき事業は、「廃棄物の削減とリサイクル」「再生可能エネルギーの普及促進」「CO2 吸収する緑化政策と森林整備」の順に高くなっています。

図表 56 地球温暖化の解決に向けて町が推進すべき事業（複数回答）

	度数（人）	割合（％）
再生可能エネルギーの普及促進 （例：太陽光や風力など）	387	40.7
省エネルギーの奨励（例：企業の 温室効果ガス削減や効率的な製品	199	20.9
交通手段の改善（例：EV車の普及 と低炭素交通手段の利用促進）	257	27.0
廃棄物の削減とリサイクル（例： 5Rなどのごみを減らす活動の推	445	46.7
住宅のエネルギー効率化（例：熱 効率の高い住宅の普及）	270	28.4
CO2吸収する緑化政策と森林整備 （例：緑化と樹木の植樹）	344	36.1
環境負荷の低い農業生産（例：再 生可能エネルギー活用、減農薬な	239	25.1
教育と啓発活動（例：脱炭素に関 する住民啓発と教育）	191	20.1
その他（他の脱炭素に関連する政 策や提案）	26	2.7
回答者数	952	



分野⑩ 防災・減災

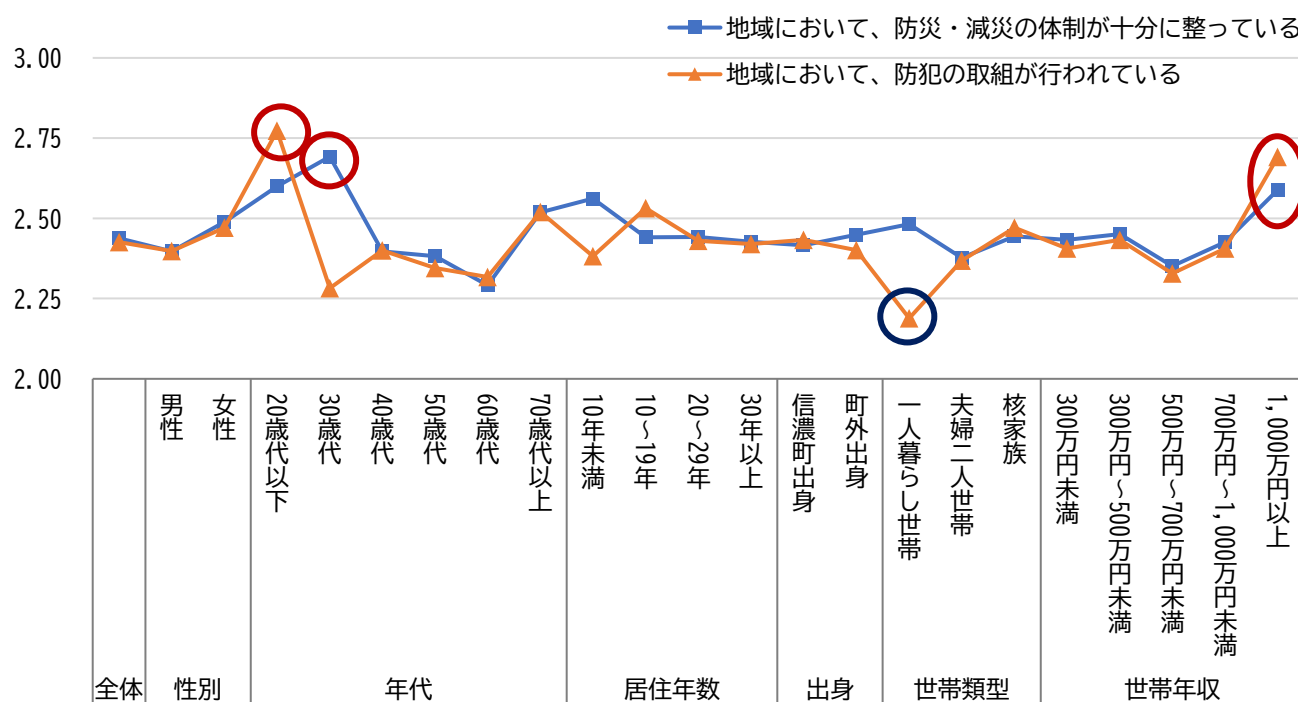
(1) 施策の現状評価

- 防災・減災に関連する施策の現状評価は、いずれも平均点が中央値に近い数値となっています。
- 層別にみると、全体に比べ、20歳代以下、30歳代の若い層、世帯年収1,000万円以上の層で高い傾向がみられます。
- 「防犯の取組」については、一人暮らし世帯でやや低くなっています。

図表 57 施策別の現状評価（再掲）

No	設問	n	現状評価			
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分
27	地域において、防災・減災の体制が十分に整っている	982	22.1	2.44		
28	地域において、防犯の取組が行われている	980	21.6	2.43	2.45	-0.02

図表 58 層別の現状評価（平均点）



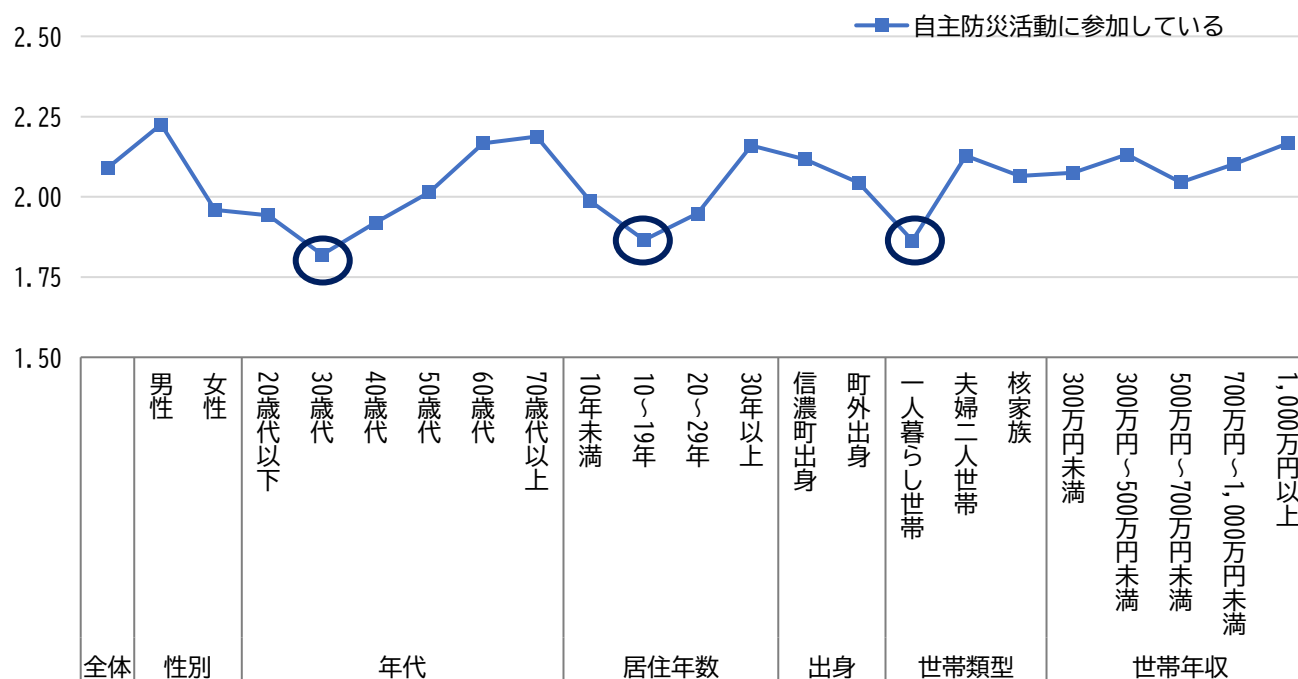
(2) 住民の取組状況

- 防災・減災に関連する住民自身の取組状況をみたものです。
- 「自主防災活動に参加している」の平均点は 2.09 で中央値を下回り、「さらに取り組みたい」の割合も 26.0%にとどまります。
- 層別にみると、30 歳代、居住年数 10～19 年、一人暮らし世帯で平均点が低くなっています。

図表 59 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向（再掲）

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
18	自主防災活動に参加している	994	2.09	2.10	-0.01	26.0	30.5	-4.4

図表 60 層別の現状の取組状況（平均点）



分野⑪ 都市基盤の維持・整備

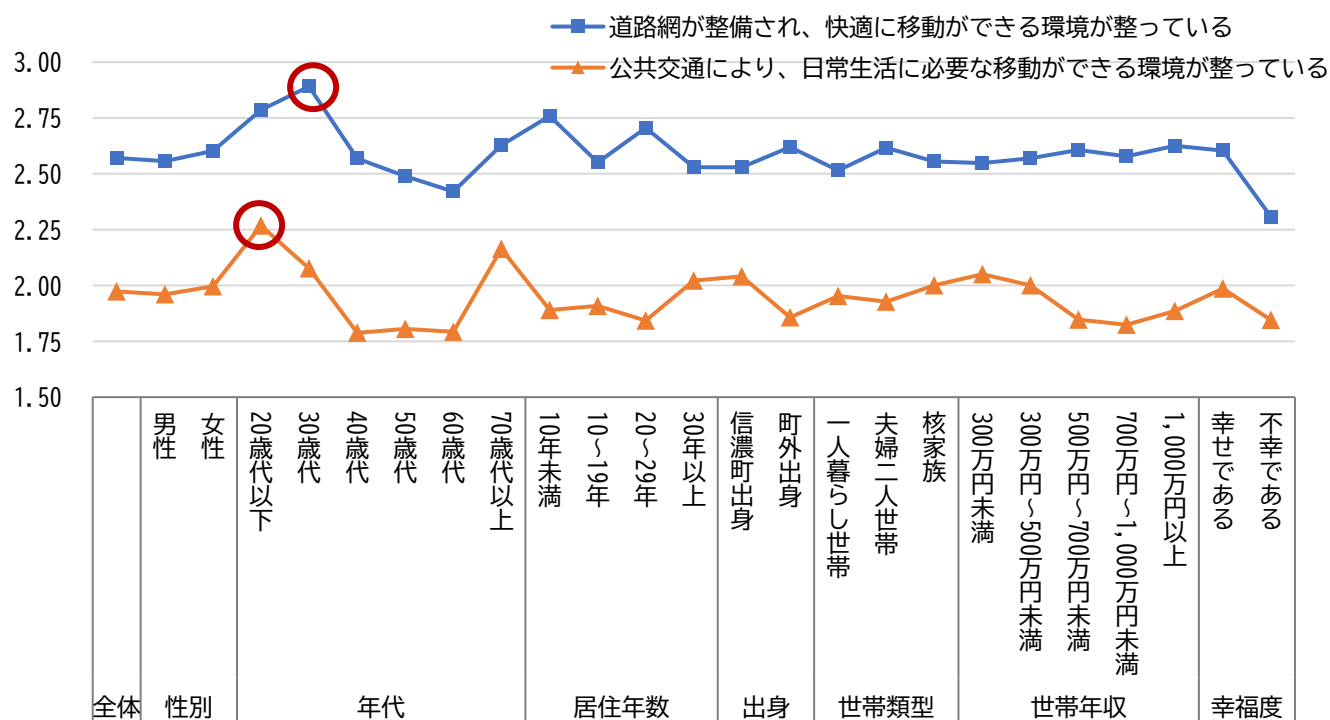
(1) 施策の現状評価

- 都市基盤の維持・整備に関連する施策の現状評価のうち、「道路網が整備され、快適に移動ができる環境が整っている」は2.57と平均点が中央値を上回り、前回調査よりも0.12ポイント増加しています。「公共交通により、日常生活に必要な移動ができる環境が整っている」は平均点が1.97と低くなっています。
- 層別にみると、全体に比べ、若い層で全体よりやや高い平均点となっています。

図表 61 施策別の現状評価（再掲）

No	設問	n	現状評価			
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分
25	道路網が整備され、快適に移動ができる環境が整っている	983	4.5	2.57	2.45	0.12
26	公共交通により、日常生活に必要な移動ができる環境が整っている	985	9.4	1.97	2.01	-0.04

図表 62 層別の現状評価（平均点）



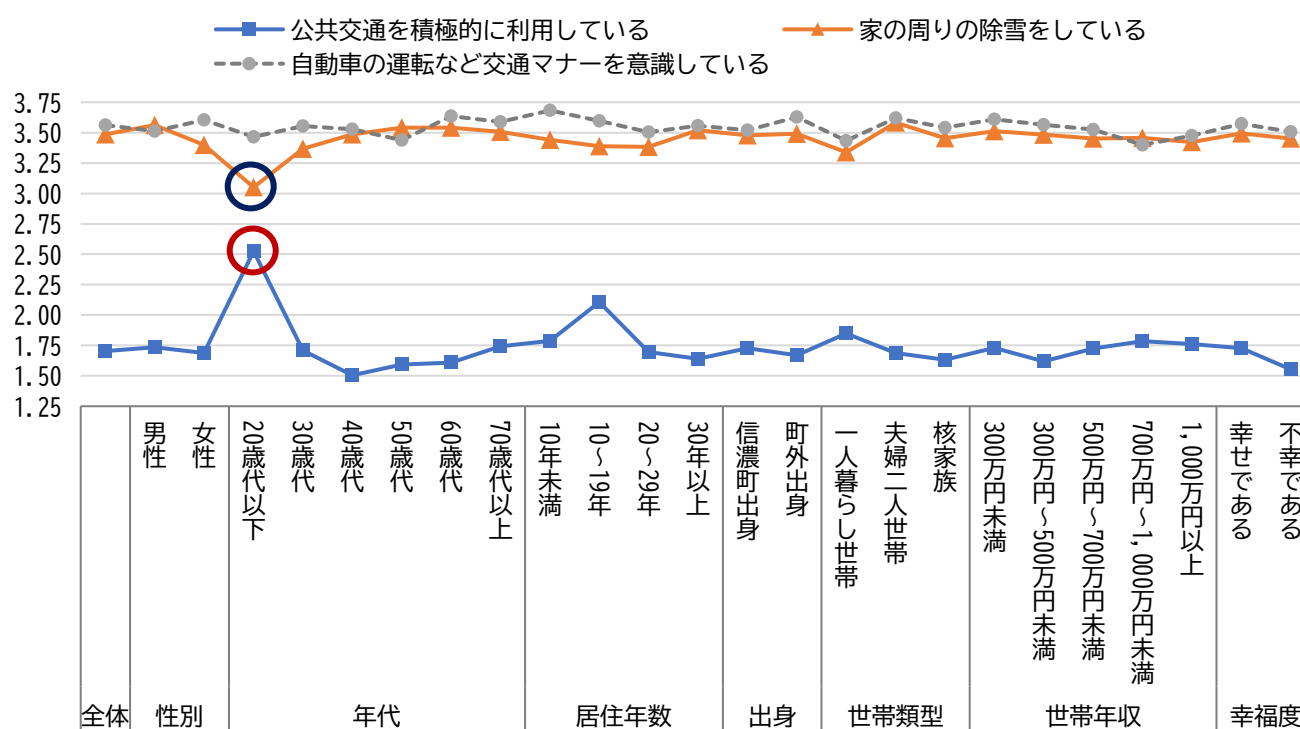
(2) 住民の取組状況

- 生活環境に関わる住民自身の取組状況をみたものです。
- 「家の周りの除雪をしている」「自動車の運転など交通マナーを意識している」は取り組んでいる人が多く、平均点は中央値の 2.50 を大きく上回っています。今後「さらに取り組みたい」の割合は「家の周りの除雪をしている」が前回調査より 10 ポイント低下しています。
- 層別にみると、「家の周りの除雪をしている」は 20 歳代以下で低く、「公共交通を積極的に利用している」は 20 歳代以下で高くなっています。

図表 63 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向（再掲）

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
16	公共交通を積極的に利用している	1,002	1.70	1.81	-0.11	16.3	23.4	-7.1
17	家の周りの除雪をしている	1,006	3.49	3.40	0.09	31.7	41.7	-10.0
19	自動車の運転など交通マナーを意識している	999	3.56	3.38	0.19	46.1	52.1	-5.9

図表 64 層別の現状の取組状況（平均点）



【基本目標5】地域資源を活用した産業があるまち

分野⑫ 農林業振興

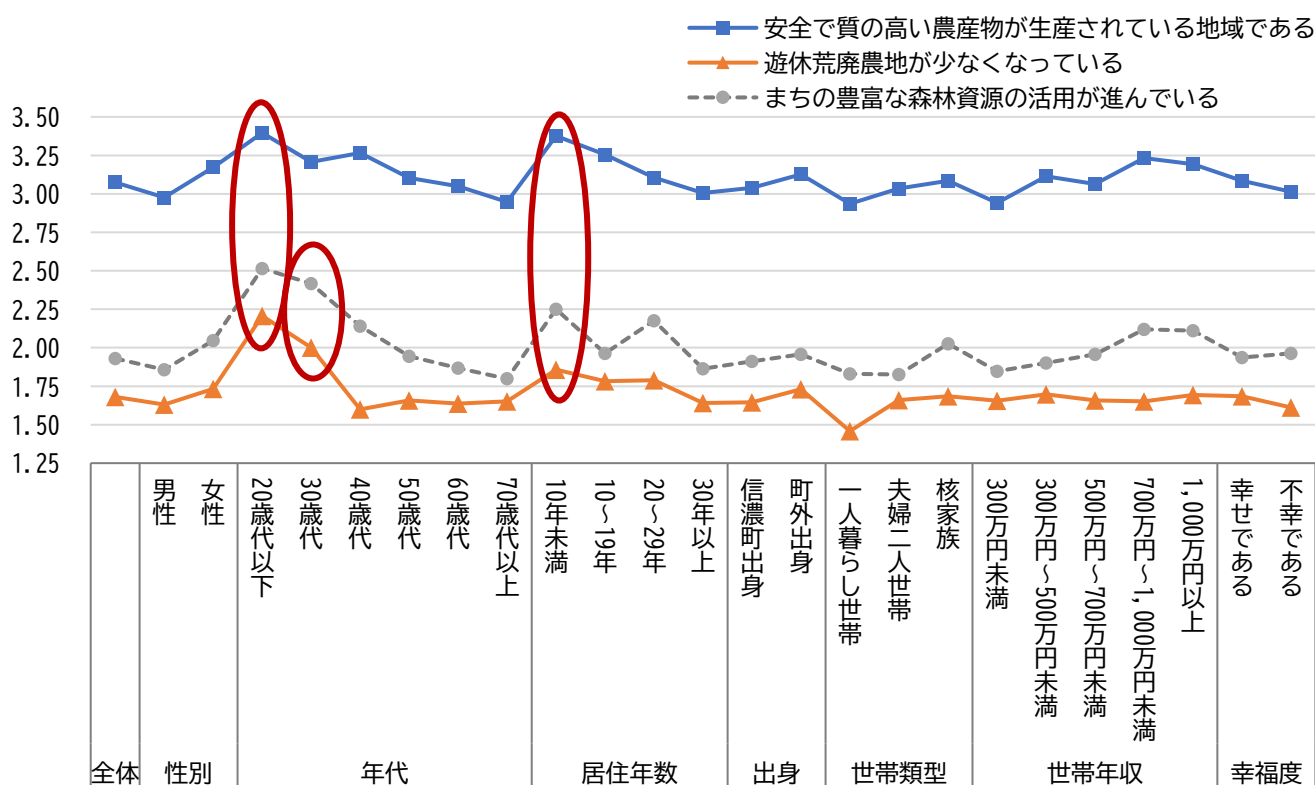
(1) 施策の現状評価

- 農林業振興に関連する施策の現状評価では、「安全で質の高い農産物が生産されている地域である」が3.07で中央値を上回っています。「遊休荒廃農地が少なくなっている」「まちの豊富な森林資源の活用が進んでいる」は2.0を下回り、評価が低くなっています。また、森林資源の活用は「わからない」住民の割合が37.9%と高くなっています。
- 層別にみると、全体に比べ、若い世代や居住年数が10年未満の短い層で評価が高い傾向がみられます。

図表 65 施策別の現状評価（再掲）

No	設問	n	現状評価			
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分
31	安全で質の高い農産物が生産されている地域である	988	9.0	3.07		
32	遊休荒廃農地が少なくなっている	987	26.0	1.68	1.74	-0.06
33	まちの豊富な森林資源の活用が進んでいる	981	37.9	1.93		

図表 66 層別の現状評価（平均点）



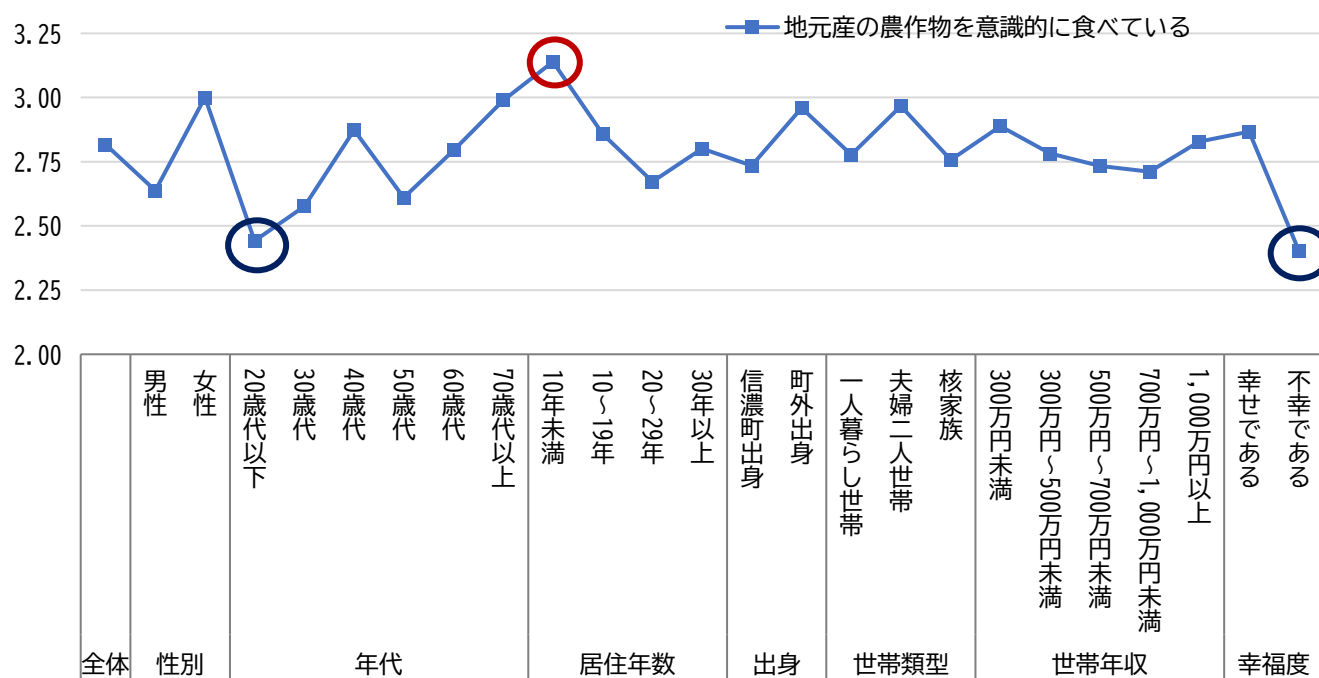
(2) 住民の取組状況

- 農林業振興に関連する住民自身の取組状況をみたものです。
- 「地元産の農作物を意識的に食べている」の平均点は 2.82 で中央値を上回っています。「さらに取り組みたい」の割合は 32.5% ですが、前回調査より 10 ポイント近く低下しています。
- 層別にみると、居住年数 10 年未満の層で全体より高くなっています。逆に、20 歳代以下と不幸と感じている層で全体より低くなっています。

図表 67 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向（再掲）

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
23	地元産の農作物を意識的に食べている	1,009	2.82	2.96	-0.14	32.5	42.2	-9.7

図表 68 層別の現状の取組状況（平均点）



分野⑬ 観光振興

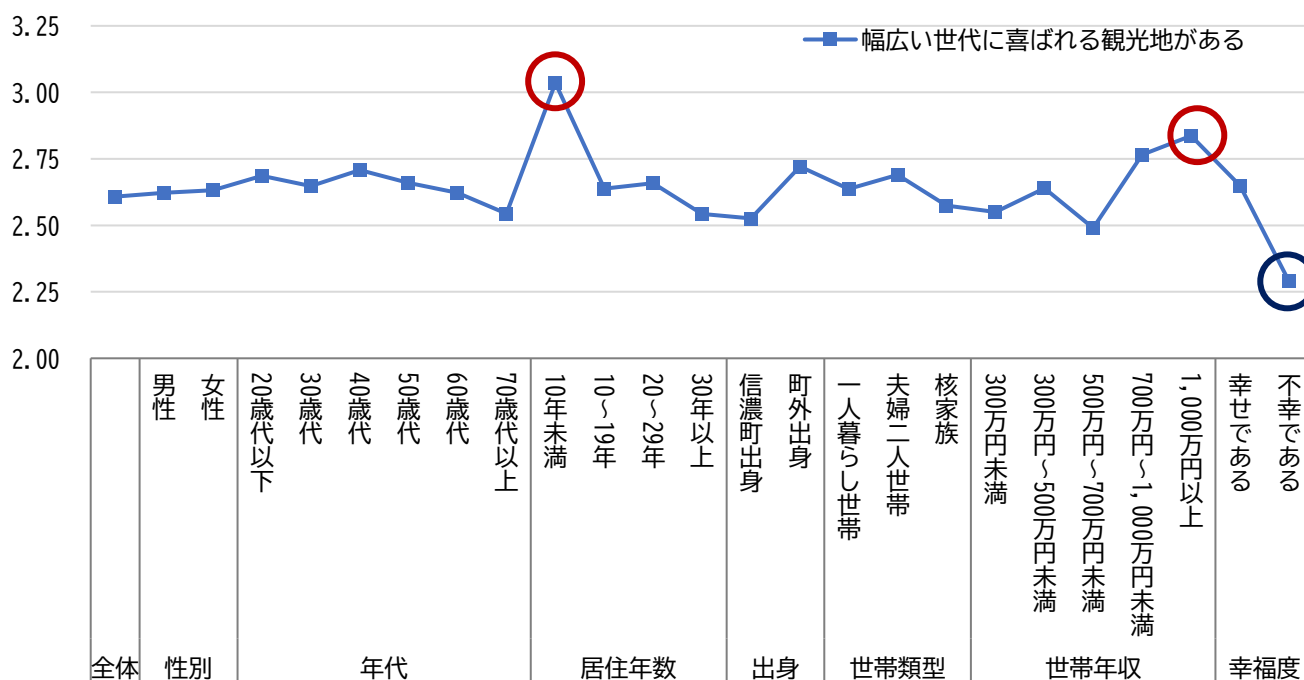
(1) 施策の現状評価

- 観光振興施策の現状評価は、平均点が 2.61 で中央値を上回り、評価がやや高くなっています。前回調査よりも 0.33 ポイント増加しています。
- 層別にみると、全体に比べ、居住年数が 10 年未満、世帯年収 1,000 万円以上の層で高い傾向がみられます。逆に、不幸と感じている層で評価が低くなっています。

図表 69 施策別の現状評価（再掲）

No	設問	n	現状評価			
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分
30	幅広い世代に喜ばれる観光地がある	979	8.9	2.61	2.28	0.33

図表 70 層別の現状評価（平均点）



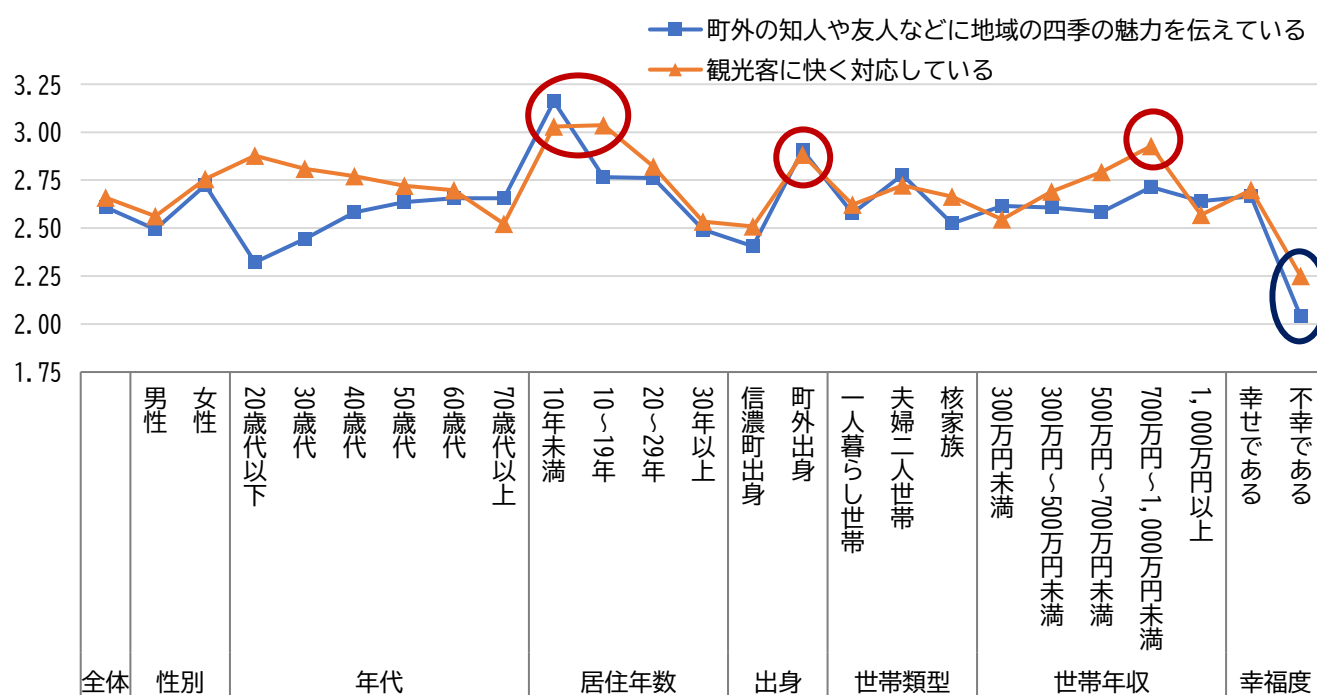
(2) 住民の取組状況

- 観光振興に関連する住民自身の取組状況をみたものです。
- 「町外の知人や友人などに地域の四季の魅力を伝えている」「観光客に快く対応している」いずれも平均点は中央値を上回っています。「さらに取り組みたい」の割合は3割近いですが、ともに前回調査より大きく低下しています。
- 層別にみると、「町外の知人や友人などに地域の四季の魅力を伝えている」「観光客に快く対応している」とともに居住年数が短い人（移住者と考えられる）や町外出身者などで評価が高くなっています。逆に、不幸と感じている層ではどちらの取組も低くなっています。

図表 71 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向（再掲）

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
20	町外の知人や友人などに地域の四季の魅力を伝えている	998	2.61	2.59	0.02	28.4	36.7	-8.3
21	観光客に快く対応している	994	2.66	2.73	-0.07	28.8	36.5	-7.7

図表 72 層別の現状の取組状況（平均点）



分野⑭ 新産業創出

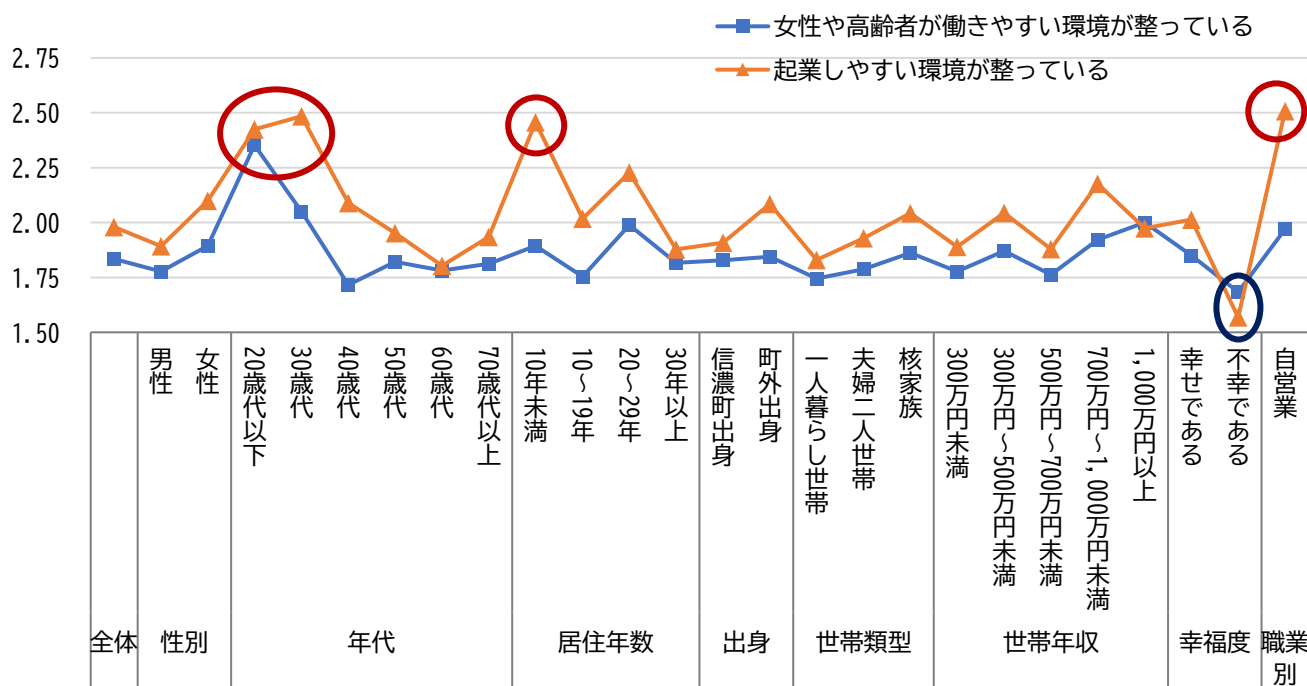
(1) 施策の現状評価

- 新産業創出に関する施策の現状評価は、いずれも平均点が中央値を下回っています。
- 層別にみると、「起業しやすい環境が整っている」は、全体に比べ、20歳代以下、30歳代の若い層や居住年数10年未満の層、自営業特にで高い傾向がみられます。逆に、不幸と感じている層で評価が低い傾向がみられます。
- 「女性や高齢者が働きやすい環境が整っている」は、全体に比べ、20歳代以下が特に高い評価となっています。男女別には女性の方が男性よりやや高い評価となっています。

図表 73 施策別の現状評価（再掲）

No	設問	n	現状評価			
			わからない の割合(%)	R5 平均点	H30 平均点	差分
34	女性や高齢者が働きやすい環境が整っている	986	 29.1	1.83		
35	起業しやすい環境が整っている	986	 41.3	1.98	1.83	0.15

図表 74 層別の現状評価（平均点）



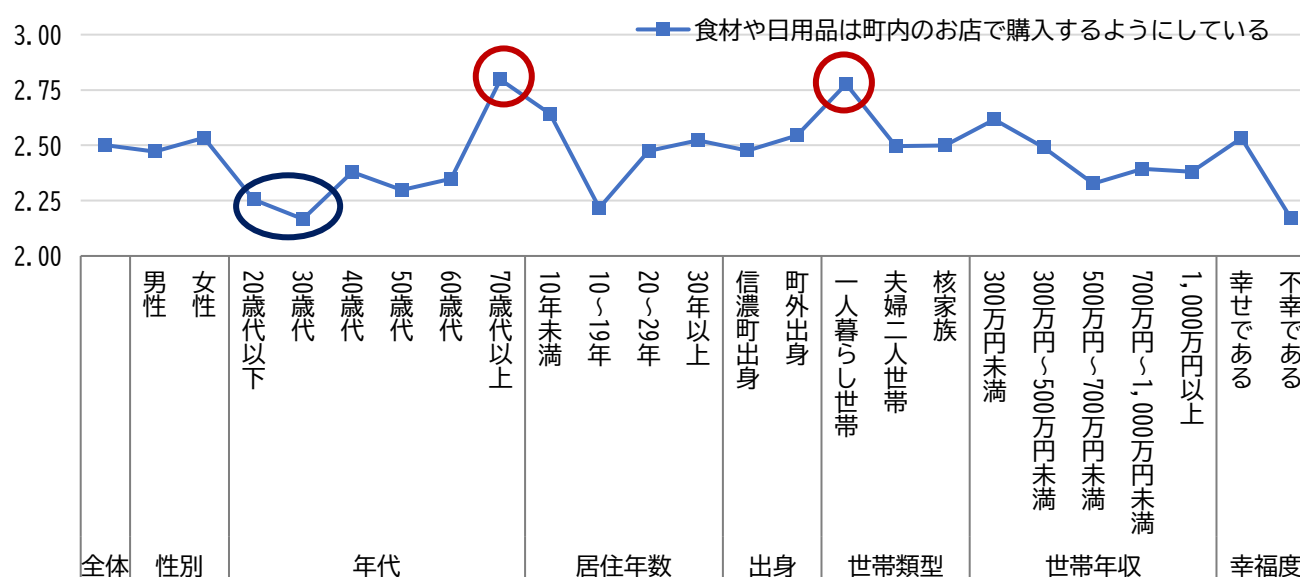
(2) 住民の取組状況

- 産業振興に関連する住民自身の取組状況をみたものです。
- 「食材や日用品は町内のお店で購入するようにしている」の平均点は 2.50 でちょうど中央値程度となっています。「さらに取り組みたい」の割合は 22.9%です。
- 層別にみると、70 歳以上の高齢層と一人暮らし世帯で全体より平均点が高くなっています。逆に 20 歳代以下、30 歳代の若い層では平均点が低く、町内のお店で買う取組が弱いと考えられます。

図表 75 あなた自身の現状の取組と今後の取組意向（再掲）

No	設問	n	現在の取組状況			今後の取組意向		
			R5 平均点	H30 平均点	差分	R5 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	H30 「さらに 取り組み たい」割合 (%)	差分(%)
22	食材や日用品は町内のお店で購入するようにしている	1,006	2.50	2.46	0.04	22.9	26.6	-3.6

図表 76 層別の現状の取組状況（平均点）



IV. 資料編（全体の集計結果）

1. 一般住民アンケート

(1) 回答者属性

問1-1 性別

	度数(人)	割合(%)
男性	494	48.6
女性	509	50.1
答えたくない	13	1.3
合計	1016	100.0

問1-2 年齢

	度数(人)	割合(%)
16～18歳	18	1.7
19～24歳	25	2.4
25～29歳	16	1.5
30～34歳	19	1.8
35～39歳	39	3.8
40～44歳	46	4.4
45～49歳	63	6.1
50～54歳	68	6.6
55～59歳	76	7.3
60～64歳	119	11.5
65～69歳	137	13.2
70～74歳	181	17.5
75歳以上	229	22.1
合計	1036	100.0

問1-3 職業

	度数(人)	割合(%)
農林水産業(専業)	70	6.8
自営業・事業主	100	9.7
勤め人(常勤)	269	26.2
勤め人(パート・アルバイト、派遣等)	160	15.6
専業主婦・主夫 6. 高校生	155	15.1
高校生	18	1.8
高校生以外の学生	13	1.3
無職	235	22.9
その他	7	0.7
合計	1027	100.0

問1-4 居住地

	度数(人)	割合(%)
野尻	191	18.6
富士里	198	19.2
柏原	364	35.4
古間	276	26.8
合計	1029	100.0

問1-5 居住年数

	度数(人)	割合(%)
1年未満	17	1.6
1～4年	36	3.5
5～9年	37	3.6
10～19年	98	9.5
20～29年	126	12.2
30年以上	719	69.6
合計	1033	100.0

問1-6 出身地

	度数(人)	割合(%)
信濃町	607	60.7
長野市	85	8.5
信濃町、長野市以外の県内	121	12.1
県外	187	18.7
合計	1000	100.0

問1-7 住まいの状況

	度数(人)	割合(%)
持ち家(自己所有／家族所有)	1001	96.6
公営住宅(県営・町営住宅など)	13	1.3
民営の賃貸住宅	18	1.7
社宅・寮・教員住宅	3	0.3
その他	1	0.1
合計	1036	100.0

問1-8 農地の状況

	度数(人)	割合(%)
所有している	656	63.9
所有していない	370	36.1
合計	1026	100.0

問1-9 世帯の状況

	度数(人)	割合(%)
一人暮らし	80	7.8
夫婦で二人暮らし	346	33.6
二世帯同居(あなた-子)	256	24.9
二世帯同居(親-あなた)	172	16.7
三世帯同居(あなた-子-孫)	60	5.8
三世帯同居(親-あなた-子)	71	6.9
三世帯同居(祖父母-親-あなた)	27	2.6
その他	18	1.7
合計	1030	100.0

問1-10 結婚の状況

	度数(人)	割合(%)
結婚している	771	74.7
結婚していない(死別を含む)	261	25.3
合計	1032	100.0

問1-11 同居家族

	度数(人)	割合(%)
65歳以上～74歳以下の方	458	44.7
75歳以上の方	372	36.3
障害者手帳を持っている方	117	11.4
介護認定を受けている方	83	8.1
いずれもない	318	31.0
回答者数	1025	

問1-12 同居している子ども

	度数(人)	割合(%)
未就園児	21	2.1
保育園・幼稚園・認定こども園に通っている3歳未満児	17	1.7
保育園・幼稚園・認定こども園に通っている3歳以上児	33	3.3
小学生の子ども	67	6.8
中学生の子ども	45	4.6
高校生以上のお子さん(成人含む)	154	15.6
いずれもない	743	75.1
回答者数	989	

問1-13 収入の状況

	度数(人)	割合(%)
300万円未満	367	37.1
300万円～500万円未満	299	30.3
500万円～700万円未満	163	16.5
700万円～1,000万円未満	92	9.3
1,000万円以上	67	6.8
合計	988	100.0

問1-14 幸福度

	度数(人)	割合(%)
とても幸せである	211	20.8
どちらかという幸せである	717	70.6
どちらかという不幸である	74	7.3
不幸である	13	1.3
合計	1015	100.0

問1-15 暮らし向き状況

	度数(人)	割合(%)
ゆとりが出てきた	33	3.2
変わらない	586	57.1
ゆとりがなくなってきた	355	34.6
わからない	52	5.1
合計	1026	100.0

問1-16 SDGsについて知っているか

	度数(人)	割合(%)
内容までよく知っている	127	12.5
内容を少し知っている	548	53.9
聞いたことがあるが内容は知らない	234	23.0
聞いたことがない	107	10.5
合計	1016	100.0

問1-17 信濃町でSDGsの取組を進めるべきだと思うか

	度数(人)	割合(%)
積極的に進めるべき	242	36.1
他地域に遅れないくらいに進めるべき	321	47.9
特に進める必要はない	48	7.2
わからない	59	8.8
合計	670	100.0

(2) 信濃町に対する意識

問2-1 愛着

	度数(人)	割合(%)
とても感じている	274	26.6
どちらかというと感じている	582	56.5
どちらかというと感じていない	128	12.4
感じていない	46	4.5
合計	1030	100.0

問2-2 暮らしの満足度

	度数(人)	割合(%)
満足している	185	17.9
どちらかという満足している	571	55.4
どちらかという不満である	234	22.7
不満である	41	4.0
合計	1031	100.0

問2-3 地域の人々はどの程度幸せか

	度数(人)	割合(%)
とても幸せである	51	5.3
どちらかという幸せである	782	81.0
どちらかという不幸である	121	12.5
不幸である	11	1.1
合計	965	100.0

問2-4 住み続けたいか

	度数(人)	割合(%)
これからもずっと住み続けたい	348	33.7
当分は住み続けたい	408	39.5
できれば町外に転出したい	150	14.5
町外に転出する予定である	32	3.1
わからない	96	9.3
合計	1034	100.0

問2-5 転出したい理由

	度数(人)	割合(%)
適当な住宅・土地が確保しにくいから	4	2.2
仕事の都合	26	14.1
自然が厳しいから	106	57.6
風景が良くないから	3	1.6
交通の便が悪いから	107	58.2
道路等の都市基盤が整っていないから	26	14.1
日常の買物が不便だから	101	54.9
公共施設が不足しているから	31	16.8
スポーツ・レジャー、文化施設などが不足しているから	36	19.6
医療施設や福祉施設が不足しているから	69	37.5
働く場所が少ないから	66	35.9
人間関係がわずらわしいから	32	17.4
育児・教育環境が整っていないから	23	12.5
老後に不安を感じているから	102	55.4
その他	7	3.8
回答者数	184	

問2-6 今後の暮らしについての不安

	度数(人)	割合(%)
不安を感じる	267	27.2
やや不安を感じる	455	46.3
あまり不安を感じない	174	17.7
不安を感じない	30	3.1
わからない	56	5.7
合計	982	100.0

(3) 信濃町の状況・環境について

分野①協働のまちづくり

【現状評価】

問3-1-1 分野①協働のまちづくり 現状評価

	n	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからない
住民のまちづくりへの参画が進んでいる	993	1.7	16.1	32.3	26.2	23.7
NPOなどのまちづくり活動に対する行政の支援が行われている	987	1.6	16.5	28.3	16.6	37.0
ご近所で、支え合い、助け合える関係が築かれている	1,003	10.5	42.9	22.8	14.4	9.5
住民と行政がパートナーとして連携している	991	1.7	18.7	31.6	25.6	22.4

【重要度評価】

問3-1-2 分野①協働のまちづくり 今後最も重要なこと

	度数(人)	割合(%)
住民のまちづくりへの参画が進んでいる	113	17.7
NPOなどのまちづくり活動に対する行政の支援が行われている	53	8.3
ご近所で、支え合い、助け合える関係が築かれている	188	29.5
住民と行政がパートナーとして連携している	284	44.5
合計	638	100.0

分野②子育て・教育・生涯学習

【現状評価】

問3-2-1 分野②子育て・教育・生涯学習 現状評価

	n	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからない
結婚から出産、子育ての切れ目ない支援が行われている	966	3.3	19.3	21.0	11.6	44.8
子育てと仕事を両立できる環境が整っている	962	2.6	17.9	23.0	17.0	39.5
住民による子育て家庭・子どもへの日常的な声かけや見守りが行われている	959	4.2	29.2	23.1	10.6	32.8
子どもたちが主体的に考え、学ぶことができる充実した教育環境が整っている	957	4.9	24.9	17.0	8.5	44.7
小中学生が地域活動やまちづくりに参加している	962	4.4	24.1	20.9	9.3	41.4
地域や家庭において子どもたちの感性やコミュニケーション力が育まれている	958	3.5	18.4	24.1	8.0	45.9
子どもたちが生きていくために必要な力を身につける教育が行われている	958	3.7	18.7	19.2	8.7	49.8
公民館などで学びの機会が提供されている	955	4.4	26.1	19.8	11.8	37.9

【重要度評価】

問3-2-2 分野②子育て・教育・生涯学習 今後最も重要なこと

	度数(人)	割合(%)
結婚から出産、子育ての切れ目ない支援が行われている	157	25.3
子育てと仕事が両立できる環境が整っている	151	24.4
住民による子育て家庭・子どもへの日常的な声かけや見守りが行われている	24	3.9
子どもたちが主体的に考え、学ぶことができる充実した教育環境が整っている	67	10.8
小中学生が地域活動やまちづくりに参加している	36	5.8
地域や家庭において子どもたちの感性やコミュニケーション力が育まれている	36	5.8
子どもたちが生きていくために必要な力を身につける	129	20.8
公民館などで学びの機会が提供されている	20	3.2
合計	620	100.0

分野③福祉・医療・健康

【現状評価】

問3-3-1 分野③福祉・医療・健康 現状評価

	n	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからない
高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境が整っている	982	4.9	28.7	30.4	20.1	15.9
障がいのある人が安心して生活できる地域である	981	3.0	17.2	27.5	17.6	34.7
生活に困った時に相談できる体制がある	977	4.1	26.1	21.1	13.6	35.1
性別の違いによる不平等を感じることがない地域である	977	6.9	22.7	21.1	11.7	37.7
互いの個性や立場を尊重し合える地域である	971	4.9	27.9	22.3	12.8	32.0
必要な医療サービスを受けられる体制が整っている	980	7.4	32.3	25.4	20.6	14.2
健康づくりに取り組みやすい環境が整っている	972	6.0	33.7	25.0	13.2	22.1

【重要度評価】

問3-3-2 分野③福祉・医療・健康 今後最も重要なこと

	度数(人)	割合(%)
高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる	285	45.6
障がいのある人が安心して生活できる地域である	22	3.5
生活に困った時に相談できる体制がある	79	12.6
性別の違いによる不平等を感じることがない地域である	9	1.4
互いの個性や立場を尊重し合える地域である	47	7.5
必要な医療サービスを受けられる体制が整っている	156	25.0
健康づくりに取り組みやすい環境が整っている	27	4.3
合計	625	100.0

分野④自然環境

【現状評価】

問3-4-1 分野④自然環境 現状評価

	n	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからない
湖沼、河川、山林などにおいて豊かな自然環境が保たれている	971	27.1	47.3	12.9	6.7	6.1
自然、田園環境に溶け込んだ美しいまちなみである	985	26.6	47.5	14.1	6.4	5.4
森林整備により脱炭素に向けた取組が行われている	982	3.2	19.8	24.5	9.3	43.3
身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている	987	9.2	37.5	24.9	9.5	18.8
ポイ捨て、不法投棄が少ないまちである	990	7.3	32.7	29.4	17.4	13.2

【重要度評価】

問3-4-2 分野④自然環境 今後最も重要なこと

	度数(人)	割合(%)
湖沼、河川、山林などにおいて豊かな自然環境が保たれている	234	36.7
自然、田園環境に溶け込んだ美しいまちなみである	110	17.3
森林整備により脱炭素に向けた取組が行われている	106	16.6
身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている	76	11.9
ポイ捨て、不法投棄が少ないまちである	111	17.4
合計	637	100.0

分野⑤生活環境

【現状評価】

問3-5-1 分野⑤生活環境 現状評価

	n	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからない
道路網が整備され、快適に移動ができる環境が整っている	983	10.8	47.4	22.9	14.4	4.5
公共交通により、日常生活に必要な移動ができる環境が整っている	985	5.0	22.1	28.9	34.5	9.4
地域において、防災・減災の体制が十分に整っている	982	4.8	36.2	25.4	11.6	22.1
地域において、防犯の取組が行われている	980	4.8	35.1	27.1	11.3	21.6
スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている	979	8.0	36.3	24.8	14.3	16.6

【重要度評価】

問3-5-2 分野⑤生活環境 今後最も重要なこと

	度数(人)	割合(%)
道路網が整備され、快適に移動ができる環境が整って	122	19.5
公共交通により、日常生活に必要な移動ができる環境	320	51.1
地域において、防災・減災の体制が十分に整っている	109	17.4
地域において、防犯の取組が行われている	34	5.4
スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている	41	6.5
合計	626	100.0

分野⑥産業・雇用

【現状評価】

問3-6-1_分野⑥産業・雇用 現状評価

	n	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからない
幅広い世代に喜ばれる観光地がある	979	15.5	38.2	23.5	13.9	8.9
安全で質の高い農産物が生産されている 地域である	988	23.5	54.5	9.3	3.7	9.0
遊休荒廃農地が少なくなっている	987	1.6	9.0	27.5	35.9	26.0
まちの豊富な森林資源の活用が進んで いる	981	2.2	11.8	27.4	20.6	37.9
女性や高齢者が働きやすい環境が整っ ている		1.2	12.1	31.3	26.3	29.1
起業しやすい環境が整っている	986	2.9	13.3	22.1	20.4	41.3

【重要度評価】

問3-6-2 分野⑥産業・雇用 今後最も重要なこと

	度数(人)	割合(%)
幅広い世代に喜ばれる観光地がある	134	21.6
安全で質の高い農産物が生産されてい る地域である	112	18.0
遊休荒廃農地が少なくなっている	148	23.8
まちの豊富な森林資源の活用が進んで いる	44	7.1
女性や高齢者が働きやすい環境が整っ ている	138	22.2
起業しやすい環境が整っている	45	7.2
合計	621	100.0

(4) あなたご自身の取組について

問4 あなたご自身の取組

	現在						今後			
	n	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	n	さらに取り組みたい	現状のま	減らしていく予定
健康づくりに継続的に取り組んでいる	999	17.0	43.7	23.9	12.0	3.3	850	42.8	56.5	0.7
ご近所同士で交流し、困った時に助け合える関係を築いている	1,003	10.7	46.1	23.3	12.8	7.2	851	31.6	67.8	0.6
ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている	1,001	10.0	38.8	28.1	13.7	9.5	848	33.5	65.8	0.7
自分の経験や知識をいかして社会に参加している	1,000	6.4	25.5	31.5	27.6	9.0	843	25.9	72.6	1.5
障がいのある人が困っているときに手助けをしている	993	7.0	29.7	27.1	20.5	15.6	830	36.6	62.8	0.6
ご近所の子どもをあたかく見守り、必要に応じてサポートしている	984	5.3	28.9	28.4	23.3	14.2	826	29.3	69.7	1.0
地域で子どもの健全育成に携わっている	984	3.2	13.1	26.9	43.4	13.4	827	23.2	75.1	1.7
子や孫、近所の子どもの信濃町の良さを話している	986	7.0	22.1	23.8	36.6	10.4	832	24.2	74.5	1.3
子や孫に、一度町を離れてもいつかは信濃町に戻ってくるように話している	990	4.5	11.6	24.0	43.5	16.3	831	14.6	83.9	1.6
自然について学び触れ合うなど、環境保全を意識している	988	12.4	31.3	25.3	19.9	11.0	836	29.3	69.0	1.7
温室効果ガスの発生を抑える暮らしをしている	995	5.2	20.9	30.9	37.1	5.9	838	27.4	70.4	2.1
家のまわりの手入れを行うなど、景観保全を心がけている	1,006	26.5	46.8	15.2	8.2	3.3	854	39.5	59.8	0.7
簡易包装されたものを選んだり、ごみの発生を減らしている	1,003	44.5	41.0	8.3	4.4	1.9	852	47.2	52.1	0.7
環境に優しい製品を選んで買っている	996	17.4	40.8	24.2	10.6	7.0	845	39.4	60.0	0.6
ごみの分別を徹底し、リサイクルに取り組んでいる	1,006	48.1	43.5	5.5	1.8	1.1	854	47.8	51.9	0.4
公共交通を積極的に利用している	1,002	5.0	11.6	29.7	50.1	3.6	841	16.3	82.4	1.3
家の周りの除雪をしている	1,006	62.7	26.6	5.0	4.8	0.9	848	31.7	67.8	0.5
自主防災活動に参加している	994	9.7	21.8	27.4	32.9	8.2	838	26.0	73.4	0.6
自動車の運転など交通マナーを意識している	999	61.9	30.7	2.6	2.2	2.6	839	46.1	53.5	0.4
町外の知人や友人などに地域の四季の魅力を伝えている	998	21.0	34.2	22.5	17.9	4.3	900	28.4	70.8	0.8
観光客に快く対応している	994	18.9	33.0	19.3	14.4	14.4	886	28.8	70.8	0.5
食材や日用品は町内のお店で購入するようにしている	1,006	16.5	35.1	27.5	19.0	1.9	903	22.9	75.5	1.6
地元産の農作物を意識的に食べている	1,009	25.5	39.1	21.3	10.9	3.2	905	32.5	67.4	0.1
文化・芸術活動に参加したり、鑑賞したりしている	1,002	7.9	21.2	31.4	34.7	4.8	894	22.6	76.2	1.2
地域の伝統的な行事に参加している	997	13.9	32.1	25.9	24.1	4.0	894	20.7	77.5	1.8
公民館などで提供されている学びの場に参加している	999	3.1	13.9	28.3	51.2	3.5	896	17.5	81.3	1.2
積極的に世代間交流をしている	996	6.0	19.7	31.8	36.3	6.1	889	21.9	76.7	1.3
地域・学校と連携した教育活動に参加している	992	3.3	9.7	25.1	54.4	7.5	881	15.0	83.1	1.9
地域の子どもたちにあいさつや声かけをしている	997	21.1	37.7	18.5	17.9	4.9	894	31.8	67.4	0.8
日ごろ、スポーツや運動を行っている	1,000	16.1	25.2	26.0	30.1	2.6	897	35.7	63.2	1.1
まちをよくなるアイデアを考えている	996	6.0	17.0	32.0	33.4	11.5	885	22.7	76.2	1.1
行政と協力したまちづくり活動に積極的に参加している	998	2.0	11.3	31.7	46.3	8.7	890	19.6	79.2	1.2
組、自治会などのまちづくり活動に積極的に参加している	1,000	12.1	25.6	25.5	31.3	5.5	894	22.8	74.9	2.2

(5) まちの環境の保全について

問5-1 環境保全 重要度

	n	非常に重要である	重要である	どちらとも言えない	重要ではない	全く重要ではない
森林や自然公園の保全	994	43.2	48.1	7.9	0.6	0.2
清らかな水源と湖沼の保全	999	54.2	42.2	3.6	0.0	0.0
希少な自然資源や生物多様性の保全	985	42.3	46.2	11.1	0.4	0.0
持続可能な農地利用と食糧生産の維持	984	46.6	43.6	9.2	0.4	0.1
温暖化対策と再生可能エネルギーの利用	983	36.5	44.8	16.1	1.6	1.0
豊かな自然景観や風景の保全	983	46.2	45.7	7.7	0.4	0.0
大気環境汚染の軽減	980	43.0	45.4	10.3	1.0	0.3
適切な廃棄物管理とリサイクルの推進	980	42.8	49.6	6.9	0.5	0.2
自然災害への備えと災害復旧能力の向上	983	49.2	44.2	6.4	0.1	0.1
環境教育の普及と住民意識向上	981	34.4	50.5	14.5	0.7	0.0
自然に配慮した観光利用	981	37.6	47.5	13.4	1.3	0.2

問5-2 必要な取組

	度数(人)	割合(%)
豊かな自然の保全と観光利用との共存	642	65.3
地域の環境保全・環境美化などへの支援充実	400	40.7
町・町民・事業者が協力できる仕組みづくり	413	42.0
環境情報の提供、PR、普及・啓発活動	256	26.0
行政による環境保全などの率先行動	316	32.1
環境調査の実施、充実	168	17.1
条例などによる規制の強化	157	16.0
税制面の優遇措置や融資、補助、助成	267	27.2
イベントや環境教育・学習などの場の充実	237	24.1
隣接市町村との連携による環境保全活動	289	29.4
環境問題改善のための新技術の開発、普及	153	15.6
その他	17	1.7
回答者数	983	

問5-3 推進すべきゼロカーボン関連事業

	度数(人)	割合(%)
再生可能エネルギーの普及促進(例:太陽光や風力など)	387	40.7
省エネルギーの奨励(例:企業の温室効果ガス削減や効率的な製品選定)	199	20.9
交通手段の改善(例:EV車の普及と低炭素交通手段の利用促進)	257	27.0
廃棄物の削減とリサイクル(例:5Rなどのごみを減らす活動の推進)	445	46.7
住宅のエネルギー効率化(例:熱効率の高い住宅の普及)	270	28.4
CO2吸収する緑化政策と森林整備(例:緑化と樹木の植樹)	344	36.1
環境負荷の低い農業生産(例:再生可能エネルギー活用、減農薬など)	239	25.1
教育と啓発活動(例:脱炭素に関する住民啓発と教育)	191	20.1
その他(他の脱炭素に関連する政策や提案)	26	2.7
回答者数	952	

(6) 地域における支え合いについて

問6-1 住民同士の関わりにおける課題

	度数(人)	割合(%)
住民同士の支え合い、助け合いが少なくなっている	451	46.7
地域に関心のない人が多い	441	45.7
地域活動への若い人の参加が少ない	447	46.3
地域において交流機会が少ない	408	42.2
地域において気軽に集える場所が少ない	233	24.1
その他	41	4.2
課題はない	63	6.5
回答者数	966	

問6-2 手助けしてほしいこと

	現在助けてほしいこと		10年後助けが必要になりそうなこと	
	n	割合(%)	n	割合(%)
買い物や通院など、移動がしづらい	89	11.6	474	51.9
料理や洗濯など家事が十分できない	25	3.3	199	21.8
草むしり、ごみ出しなど、家の回りのことが十分できない	51	6.6	298	32.6
畑の手入れができない	75	9.8	310	34.0
電球交換、灯油入れ等の軽作業ができない	17	2.2	155	17.0
電気製品やパソコン等の設定や使い方がよく分からない	134	17.4	228	25.0
冬の除雪(屋根・家の周り)	146	19.0	559	61.2
家具の移動など簡単な力仕事	49	6.4	207	22.7
書類作成や手続きの手伝い	68	8.8	227	24.9
買い物や病院など外出時の付き添い	37	4.8	246	26.9
病気のときの付き添いや看病	54	7.0	322	35.3
金融の窓口やATMの利用	38	4.9	170	18.6
野生鳥獣への対応	136	17.7	222	24.3
両親や配偶者等、近親者の介護のこと	82	10.7	398	43.6
多忙な時などに、子どもを預ける場所がない	29	3.8	57	6.2
その他	8	1.0	19	2.1
誰かに手助けを求めるほどの困りごとはない	349	45.4	109	11.9
回答者数	769		913	

問6-3 助けてくれる人

	度数(人)	割合(%)
家族	376	72.3
親戚	136	26.2
ご近所の友人・知人	132	25.4
ご近所以外の友人・知人	77	14.8
民生委員	37	7.1
その他	10	1.9
いない	44	8.5
回答者数	520	

問6-4 手助けについての考え

	度数(人)	割合(%)
近所に住む者として、できる範囲で「ちょっとした手助け」をしたい	552	62.0
「ちょっとした手助け」をしたいが、自分のことで精一杯で余裕がない	203	22.8
「ちょっとした手助け」は主に行政が行うことなので、近所の者はしなくてもよい	10	1.1
余計なお世話になってしまうので、「ちょっとした手助け」はしないと思う	85	9.5
あまり関わりたくないので、「ちょっとした手助け」はしないと思う	27	3.0
その他	14	1.6
合計	891	100.0

問6-5_手助けしていること／できること

	現在手助けしていること		これから手助けできること	
	n	割合(%)	n	割合(%)
買い物や通院など移動の手助け	76	9.1	194	22.8
料理や洗濯など家事の手伝い	36	4.3	68	8.0
草むしり、ごみ出しなど、家の回りの片付け	80	9.5	164	19.3
畑の手入れ	61	7.3	84	9.9
電球交換、灯油入れ等の軽作業	42	5.0	156	18.3
電気製品やパソコン等の設定や使い方を教える	32	3.8	90	10.6
冬期の屋根・家の周りの除雪	164	19.5	179	21.0
家具の移動など簡単な力仕事	30	3.6	91	10.7
書類作成や手続きの手伝い	27	3.2	81	9.5
買い物や病院など外出時の付き添い	47	5.6	116	13.6
病気のときの付き添いや看病	27	3.2	56	6.6
金融の窓口やATMの利用の手伝い	16	1.9	80	9.4
野生鳥獣への対応の手伝い	24	2.9	51	6.0
両親や配偶者等、近親者の介護の手伝い	61	7.3	124	14.6
近所の子どもを預かる	19	2.3	69	8.1
安否確認の声かけ	135	16.1	307	36.1
話し相手、相談相手になること	148	17.6	254	29.8
その他	8	1.0	7	0.8
特にない	392	46.7	252	29.6
回答者数	839		859	

問6-6. 手助けできることが特でない理由

	度数(人)	割合(%)
まわりに手助けを必要とする人はいるが、何から始めてよいかわからない	25	8.3
まわりに手助けを必要とする人がいるかどうかかわからない	125	41.7
まわりに手助けを必要とする人がいない	111	37.0
手助けしたいと思わない	15	5.0
その他	24	8.0
合計	300	100.0

問6-7. 協働に関する考え方

	度数(人)	割合(%)
行政にあまり頼らず、家族や自分ができることは自分たちでやる	171	18.4
地域の住民同士が支え合い、手の届かない部分を行政が支援する	494	53.3
住民を支える役割は行政にあり、住民同士が支え合う必要はない	63	6.8
その他	46	5.0
わからない	153	16.5
合計	927	100.0

問6-8. 住民同士の助け合いについての考え方

	度数(人)	割合(%)
お互いさまなので、報酬の支払いはなくてもよい	393	42.2
労働力を提供しているので、報酬の支払はあるべきである	98	10.5
報酬ではなく、実費を支払う程度でよい	287	30.8
その他	28	3.0
わからない	126	13.5
合計	932	100.0

(7) 地域活動へのコロナの影響について

	①コロナ期間中の状況					
	n	強く影響を受けた	やや影響を受けた	あまり影響はなかった	影響はなかった	わからない
地域のお祭りやイベント	990	58.2	23.8	4.0	4.1	9.8
ご近所さんとの日常の交流	987	11.9	34.8	31.4	13.8	8.2
高齢者の見守り活動	939	5.9	14.5	18.0	9.3	52.4
高齢者の送迎活動	919	4.7	12.3	12.6	9.4	61.0
防犯や防災に関する活動	940	5.5	14.4	22.4	13.9	43.7
地域での清掃活動（ゴミ集積所の整理など）	963	3.1	12.4	34.8	25.8	24.0
地域での除雪作業	956	2.2	4.7	36.1	33.2	23.8
地区の会合の開催	977	39.7	35.1	5.1	4.7	15.4
地区内での親睦活動	976	40.3	29.8	4.4	4.3	21.2
地区の担い手（役員）確保	957	6.5	13.8	27.1	13.3	39.4
住民の町会活動への関心・協力意向	954	11.6	23.9	16.4	8.3	39.8

	②現在の状況			
	n	現在も影響が続いている	現在もやや影響がある	コロナ前に戻った
地域のお祭りやイベント	856	16.2	53.7	30.0
ご近所さんとの日常の交流	818	4.5	32.2	63.3
高齢者の見守り活動	569	3.9	30.1	66.1
高齢者の送迎活動	502	3.6	28.3	68.1
防犯や防災に関する活動	596	3.5	23.7	72.8
地域での清掃活動（ゴミ集積所の整理など）	694	2.0	17.4	80.5
地域での除雪作業	668	1.9	12.4	85.6
地区の会合の開催	791	10.4	45.3	44.4
地区内での親睦活動	759	13.2	49.0	37.8
地区の担い手（役員）確保	642	5.8	25.9	68.4
住民の町会活動への関心・協力意向	639	7.2	37.9	54.9

2. 小中学生アンケート

(1) 回答者属性

問1-1 性別

	度数(人)	割合(%)
男性	51	45.5
女性	57	50.9
答えたくない	4	3.6
合計	112	100.0

問1-2 あなたの学年

	度数(人)	割合(%)
7年生	38	33.9
8年生	46	41.1
9年生	28	25.0
合計	112	100.0

問1-3 お住まいの地区

	度数(人)	割合(%)
野尻	18	16.1
富士里	16	14.3
柏原	46	41.1
古間	32	28.6
合計	112	100.0

問1-4 信濃町での居住年数

	度数(人)	割合(%)
1～4年	5	4.5
5～9年	19	17.0
10～15年	88	78.6
合計	112	100.0

問1-5 これまでの期間に最も長く住んだ場所

	度数(人)	割合(%)
信濃町	104	92.9
信濃町、長野市以外の県内	3	2.7
県外	5	4.5
合計	112	100.0

問1-6 勉強以外で1日にPC、スマホ、タブレット等でインターネットを利用する時間

	度数(人)	割合(%)
1時間より短い	3	2.7
～2時間	21	18.8
～4時間	43	38.4
～6時間	19	17.0
6時間より長い	24	21.4
インターネットは利用しない	2	1.8
合計	112	100.0

問1-7 日頃、本を読む習慣がありますか。

	度数(人)	割合(%)
ない	64	57.1
ある	48	42.9
合計	112	100.0

問1-8 小中学校を卒業後、希望する進路を教えてください。

	度数(人)	割合(%)
高校に進学する	107	95.5
まだ決めていない	5	4.5
合計	112	100.0

問1-9 高校を卒業後、希望する進路を教えてください。

	度数(人)	割合(%)
働きたい	21	19.6
専門学校に進学したい	21	19.6
大学に進学したい	36	33.6
まだ決めていない	29	27.1
合計	107	100.0

問1-10 あなたは現在どの程度幸せですか。

	度数(人)	割合(%)
とても幸せである	44	39.3
どちらかという幸せである	52	46.4
どちらかという不幸である	15	13.4
不幸である	1	0.9
合計	112	100.0

(2) 信濃町に対する意識について

問2-1 信濃町が好きですか。

	度数(人)	割合(%)
好きである	55	49.1
どちらかという好きである	39	34.8
どちらかという好きではない	12	10.7
好きではない	6	5.4
合計	112	100.0

問2-2 信濃町は住みやすいところだと思いますか。

	度数(人)	割合(%)
住みやすい	38	33.9
どちらかといえば住みやすい	50	44.6
どちらかといえば住みにくい	17	15.2
住みにくい	7	6.3
合計	112	100.0

問2-4 あなたの周りの人々(友達や保護者、ご近所さんなど。同居家族は除きます)は、大体においてどれくらい幸せだと思いますか。

	度数(人)	割合(%)
とても幸せである	33	29.5
どちらかという幸せである	76	67.9
どちらかという不幸である	2	1.8
不幸である	1	0.9
合計	112	100.0

問2-5 信濃町の良さを保護者や地域の人に聞かせてもらったことはありますか。

	度数(人)	割合(%)
よく、聞かせてもらう	10	8.9
時々、聞かせてもらう	39	34.8
あまり、聞かされない	41	36.6
聞かされたことがない	22	19.6
合計	112	100.0

問2-6 進学などで信濃町を一度離れても、いつかは信濃町に戻ってくることを保護者や親戚の人に勧められたことがありますか。

	度数(人)	割合(%)
よく、勧められる	14	12.5
時々、勧められる	20	17.9
あまり、勧められない	27	24.1
勧められたことがない	51	45.5
合計	112	100.0

問2-7 あなたは大人になってからも、信濃町に住み続けたいと思いますか。

	度数(人)	割合(%)
そう思う	44	39.3
そう思わない	68	60.7
合計	112	100.0

問2-8 信濃町に住みたいと思う主な理由は何ですか。

	度数(人)	割合(%)
生まれ育った場所を離れたくないから	17	38.6
家族や友人が住んでいるから	18	40.9
家・家業をつぐため	1	2.3
その他	8	18.2
合計	44	100.0

問2-9「2. そう思わない」と回答された方にうかがいます】問2-9 信濃町に住み続けたくないと思う理由は何ですか。

	度数(人)	割合(%)
町外で自分の力を試したいから	14	20.6
親から離れ、独立したいから	10	14.7
働いてみたい職業がないから	20	29.4
都会での生活にあこがれるから	13	19.1
その他	11	16.2
合計	68	100.0

(3) 信濃小中学校のふるさと学習について

問3-1 ふるさと学習において、信濃町のことや地域のことについて新たにわかったことがありましたか。

	度数(人)	割合(%)
あった	74	66.1
なかった	6	5.4
わからない	32	28.6
合計	112	100.0

問3-2-1 気になることを日頃からよく調べるようになった

	度数(人)	割合(%)
思う	25	22.3
そう思う	33	29.5
あまりそう思わない	25	22.3
思わない	18	16.1
わからない	11	9.8
合計	112	100.0

問3-2-2 これまでと違う考え方、ものの見方ができるようになった

	度数(人)	割合(%)
思う	25	22.3
そう思う	43	38.4
あまりそう思わない	23	20.5
思わない	9	8.0
わからない	12	10.7
合計	112	100.0

問3-2-3 友達と話し合ったり、一緒に作業をすることで、自分の考えを広げることができるようになった

	度数(人)	割合(%)
思う	39	34.8
そう思う	51	45.5
あまりそう思わない	10	8.9
思わない	5	4.5
わからない	7	6.3
合計	112	100.0

問3-2-4 信濃町に愛着や誇りを感じるようになった

	度数(人)	割合(%)
思う	30	26.8
そう思う	42	37.5
あまりそう思わない	14	12.5
思わない	18	16.1
わからない	8	7.1
合計	112	100.0

問3-3 信濃町で関心があること

	度数(人)
自然	22
動植物	23
産業・経済	17
文化・伝統	13
歴史	15
その他	3
特に知りたいことはない	48
関心はない	12

(4) あなたご自身の取組について

問4-1 現在の取組状況

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない
ご近所の高齢者が困っていて、必要な時に手助けをしたことがある	27.7	24.1	20.5	17.0	10.7
ご近所の自分より年下の子どもに対して、必要に応じて手助けをしたことがある	33.0	26.8	17.0	15.2	8.0
地域の人たちにあいさつをしている	67.0	25.9	4.5	2.7	0.0
地域の行事(お祭りや運動会)に参加している	39.3	36.6	17.0	6.3	0.9
自然環境について意識している	35.7	37.5	19.6	5.4	1.8
簡易包装されたものを選択して買うなど、ごみの発生を減らしている	20.5	25.0	29.5	9.8	15.2
ごみの分別を徹底し、リサイクルに取り組んでいる	40.2	35.7	13.4	6.3	4.5
家の周りの除雪をしている	41.1	28.6	13.4	12.5	4.5
地元産の農作物を意識的に食べている	27.7	29.5	17.0	11.6	14.3
文化・芸術活動に参加したり、鑑賞したりしている	8.9	16.1	33.0	25.9	16.1
日ごろ、スポーツや運動を行っている	54.5	17.0	14.3	13.4	0.9
まちをよくするアイデアを考えている	14.3	19.6	29.5	25.0	11.6

n=112

問4-2 あなたの今後の取組意向

	さらに取り組みたい	現状のまま	減らしていく予定
ご近所の高齢者が困っていて、必要な時に手助けをしたことがある	58.0	41.1	0.9
ご近所の自分より年下の子どもに対して、必要に応じて手助けをしたことがある	54.5	43.8	1.8
地域の人たちにあいさつをしている	54.5	43.8	1.8
地域の行事(お祭りや運動会)に参加している	47.3	50.9	1.8
自然環境について意識している	54.5	44.6	0.9
簡易包装されたものを選択して買うなど、ごみの発生を減らしている	58.9	39.3	1.8
ごみの分別を徹底し、リサイクルに取り組んでいる	60.7	38.4	0.9
家の周りの除雪をしている	58.0	41.1	0.9
地元産の農作物を意識的に食べている	53.6	45.5	0.9
文化・芸術活動に参加したり、鑑賞したりしている	36.6	58.0	5.4
日ごろ、スポーツや運動を行っている	68.8	29.5	1.8
まちをよくするアイデアを考えている	49.1	47.3	3.6

n=112